

井ル螺釘ハ銅釘又ハ黄銅釘ト爲スコトヲ要ス

第三十七條 本節ニ規定ナキモノニ付テハ木材各部ハ木船検査規程ニ、鋼材各部ハ鐵鋼船検査規程ニ準據スヘシ

第四節 機關

第三十八條 遠洋漁船ノ機關ノ構造ニ關シテハ機關検査規程ヲ適用ス

第三章 屬具

第三十九條 遠洋漁船ニハ左ノ豫備帆ヲ備フヘシ

(甲) 「スクーナー」

「フオーズル」

「フオーステール」

「メインズル」

(乙) 「カッター」「ケッチ」「スループ」

「メインズル」

「フオーステール」

(丙) 「ラッガー」

「フオーズル」

「フオーズル」又ハ「メインズル」

「フオーステール」

「トップズル」

一箇
一箇
一箇
一箇
一箇
一箇

第四十條 遠洋漁船ノ救命具、船燈、信號器、測量器及消防具ハ第十一號表ニ據リ之ヲ備フヘシ

第四十一條 遠洋漁船ノ機關部屬具ハ第十二號表ニ據リ之ヲ備フヘシ

第四章 業務設備

第一節 海獸獵業

第四十二條 鯨獵船ニ設備スヘキモノ左ノ如シ

一 本船ニテ砲ヲ使用スルモノニ在リテハ砲、砲臺、網臺、銃網導車、發條機、捲揚器、銃破裂頭、曳網手槍及突庖刀

二 漁艇ニテ獵具ヲ使用スルモノニ在リテハ銃手槍、破裂槍、投射銃、銃網竝處理用具トシテ表油釜竈、屠割臺、庖刀、鈎、脂肪切臺及油樽

漁艇ニテ獵具ヲ使用スル獵船内ニ於テ漁獲物ヲ處理セサルモノニ在リテハ前項第二號ノ處理用具ヲ設備スルコトヲ要セス

第四十三條 臘虎、臘鹿、獸獵船ニ設備スヘキモノ左ノ如シ

一 獵銃、彈丸、火藥、藥袋、雷管、裝彈器、洗矢、獵銃修繕器及處理用庖刀

第二節 網漁業

第四十四條 旋網漁船ニ設備スヘキモノ左ノ如シ

一 網、其ノ附屬具、網置臺、捲網及導車類

第四十五條 打網漁船ニ設備スヘキモノ左ノ如シ

一 桁打網漁船ニ在リテハ網、其ノ附屬具、代ハ網曳綱、捲揚器及導車類

二 板打網漁船ニ在リテハ網、其ノ附屬具、代ハ網曳綱、網吊柱、捲揚器及導車類

第四十六條 流網漁船ニ設備スヘキモノ左ノ如シ

一 網、網線、網置臺、捲揚器及導車類

第三節 釣漁業

第四十七條 延繩漁船ニ設備スヘキモノ左ノ如シ

一 延繩、其ノ附屬具及導車類

明治三十八年三月 省令 農商務省第十號 造洋流船検査規程

首材、船尾材、舵柱、内龍骨、内張板、梁受板、外板、木甲板、舵心材及舵針等ノ寸法

上正梁 甲甲ノ 板板副 梁梁梁 受及受 板板板	上副 甲梁 板受 梁受 板	正梁 甲梁 板受 梁受 板	船 骨 翼 板	龍 骨 板	外 部 腰 板	舷 側 厚 板	外 張 板	内 張 板	木 甲 板	舵 心 材	舵 針 ノ 徑	舵 針 ノ 數	
規	規	規	規	規	規	規	規	規	規	規	規	規	
寸寸 8×2	寸寸 6½×1½	寸	寸寸 6½×2	寸寸 6½×2	寸寸 7×2	寸寸 7½×2	寸寸 1½	寸寸 1	寸寸 2	寸寸 6½	寸寸 2	寸寸 1½	
8½×2	7×1½		7×2½	2½	7½×2	1½	1	2	7	2	1½	2200-3300	
9×2½	7½×1½		7½×2½	2½	8×2½	2	1½	2½	8	2	1½	5000-8400	
9½×2½	8×2	9½×2½	2	8×2½	2½	8½×2½	2½	1½	2½	9	3	1½	8400-12500
9½×2½	8½×2	10×2½	2	8½×3	2½	9×2½	2½	1½	2½	9½	3	1½	12500-16700
9½×2½	8½×2½	10½×2½	2½	9×3½	2½	9½×2½	2½	1½	2½	10	3	1½	16700-20800
10×3	8½×2½	10½×3	2½	9½×3½	2½	10×2½	2½	1½	2½	10½	3	1½	20800-25000
10×3	9×2½	10½×3	2½	10×3½	3	10½×3	2½	2	2½	11	3	1½	25000-29100
10½×3½	9×2½	11×3½	2½	10½×3½	3	10½×3½	2½	2	2½	11½	3	1½	29100-33800
10½×3½	9½×2½	11×3½	2½	10½×3½	3½	10½×3½	2½	2½	2½	11½	3	2	33800-37500
10½×3½	9½×2½	11½×3½	2½	10½×4	3½	11½×3½	2½	2½	2½	11½	3	2½	37500-42000
10½×3½	9½×2½	11½×3½	3	11½×4½	3½	11½×3½	3	2½	2½	12½	4	1½	42000-50000
10½×3½	9½×2½	11½×3½	3½	11½×4½	3½	12½×3½	3	2½	2½	12½	4	2	50000-58400
10½×3½	9½×2½	11½×4	3½	12½×4½	3½	18×3½	3½	2½	3	13½	4	2½	58400-66600
10½×4	9½×2½	11½×4½	3½	18×5½	4	18½×4	3½	2½	3	18½	4	2½	66600-75000
11×4	9½×3	11½×4½	3½	18½×5½	4½	14×4	3½	3	3½	14½	4	2½	75000-83000

一七七

第二號表肋骨ノ截面

肋骨 ノ 位置	二材合		斜帆檣	檣 孔	舵 盤 針	舵 心 材	木 達 釘	打 釘	機 室 口 線	木 甲 板	龍 骨 梁	龍 骨 側 部 厚 板	外 板 材	外 板 材	船 尾 部 材
	肋 骨 材	頂 材													
以上未滿 11-12	寸 12	寸 8½	檣架	檣	黃銅	檣	檣	黃銅	檣	檣	檣	檣	檣	檣	檣
12-13	寸 12	寸 8½	檣架	檣	黃銅	檣	檣	黃銅	檣	檣	檣	檣	檣	檣	檣
13-14	寸 13	寸 9½	檣架	檣	黃銅	檣	檣	黃銅	檣	檣	檣	檣	檣	檣	檣
14-15	寸 13	寸 9½	檣架	檣	黃銅	檣	檣	黃銅	檣	檣	檣	檣	檣	檣	檣
15-16	寸 14	寸 10½	檣架	檣	黃銅	檣	檣	黃銅	檣	檣	檣	檣	檣	檣	檣
16-17	寸 14	寸 10½	檣架	檣	黃銅	檣	檣	黃銅	檣	檣	檣	檣	檣	檣	檣
17-18	寸 15	寸 11½	檣架	檣	黃銅	檣	檣	黃銅	檣	檣	檣	檣	檣	檣	檣
18-19	寸 15	寸 11½	檣架	檣	黃銅	檣	檣	黃銅	檣	檣	檣	檣	檣	檣	檣
19-20	寸 16	寸 12½	松 杉	檣 檣	鐵			亞 鉛 鐵	檣 赤 身 松 檣 檣	檣	檣 檣 松 杉 毛	檣	檣	檣	檣 檣 松 杉 毛
20-21	寸 16	寸 12½	松 杉	檣 檣	鐵			亞 鉛 鐵	檣 赤 身 松 檣 檣	檣	檣 檣 松 杉 毛	檣	檣	檣	檣 檣 松 杉 毛
21-22	寸 17	寸 13½							檣 赤 身 松 檣 檣	檣	檣 赤 身 松 杉 毛	檣	檣	檣	檣 檣 松 杉 毛
22-23	寸 17	寸 13½							檣 赤 身 松 檣 檣	檣	檣 赤 身 松 杉 毛	檣	檣	檣	檣 檣 松 杉 毛
23-24	寸 18	寸 14½							檣 赤 身 松 檣 檣	檣	檣 赤 身 松 杉 毛	檣	檣	檣	檣 檣 松 杉 毛
24-25	寸 18	寸 14½							檣 赤 身 松 檣 檣	檣	檣 赤 身 松 杉 毛	檣	檣	檣	檣 檣 松 杉 毛
25-26	寸 19	寸 15½							檣 赤 身 松 檣 檣	檣	檣 赤 身 松 杉 毛	檣	檣	檣	檣 檣 松 杉 毛
26-27	寸 19	寸 15½							檣 赤 身 松 檣 檣	檣	檣 赤 身 松 杉 毛	檣	檣	檣	檣 檣 松 杉 毛
27-28	寸 20	寸 16½							檣 赤 身 松 檣 檣	檣	檣 赤 身 松 杉 毛	檣	檣	檣	檣 檣 松 杉 毛
28-29	寸 21	寸 17½							檣 赤 身 松 檣 檣	檣	檣 赤 身 松 杉 毛	檣	檣	檣	檣 檣 松 杉 毛
29-30	寸 22	寸 18½							檣 赤 身 松 檣 檣	檣	檣 赤 身 松 杉 毛	檣	檣	檣	檣 檣 松 杉 毛

明治三十八年三月 省令 農商務省第十號 造洋流船検査規程

一七六

明治三十八年三月 省令 農商務省第十號 汽船検査規程

號表 鐵製梁曲材及梁曲材ニ代用スル鐵製山形材及鐵製肘板ニ代用スル寸法

梁曲材ノ厚				梁曲材ノ幅		梁曲材ノ長		梁曲材ノ側		梁曲材ニ代用スル山形材及肘板	
短梁曲材	長梁曲材	短梁曲材	長梁曲材	短梁曲材	長梁曲材	短梁曲材	長梁曲材	短梁曲材	長梁曲材	山形材	肘板
寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法
1 1/2	2	1	2	2 1/2	15	22	1 1/2	1 1/2	1 1/2	2 x 2 x 1/2	9 x 11 x 1/2
2	1	2	2	2 1/2	15	22	1 1/2	1 1/2	1 1/2	2 x 2 x 1/2	10 x 12 x 1/2
2	1	2	2	2 1/2	18	27	1 1/2	1 1/2	1 1/2	2 1/2 x 2 x 1/2	10 x 10 x 1/2
2	1	2	2	2 1/2	18	27	1 1/2	1 1/2	1 1/2	2 1/2 x 2 x 1/2	10 x 14 x 1/2
2 1/2	1 1/2	2	2	2 1/2	18	27	1 1/2	1 1/2	1 1/2	2 1/2 x 2 x 1/2	12 x 10 x 1/2
2 1/2	1 1/2	2	2	2 1/2	18	27	1 1/2	1 1/2	1 1/2	3 x 2 1/2 x 1/2	12 x 10 x 1/2
2 1/2	2 1/2	1 1/2	1 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	3 x 2 1/2 x 1/2	12 x 16 x 1/2
2 1/2	2 1/2	1 1/2	1 1/2	2 1/2	8	2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	3 x 2 1/2 x 1/2	12 x 18 x 1/2
2 1/2	2 1/2	1 1/2	1 1/2	2 1/2	8	2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	3 x 2 1/2 x 1/2	12 x 18 x 1/2
2 1/2	2 1/2	1 1/2	1 1/2	2 1/2	8	2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	3 1/2 x 3 x 1/2	14 x 21 x 1/2
2 1/2	2 1/2	1 1/2	1 1/2	2 1/2	8	3 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	3 1/2 x 3 x 1/2	14 x 21 x 1/2
2 1/2	2 1/2	1 1/2	1 1/2	2 1/2	8	3 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	3 1/2 x 3 x 1/2	14 x 22 x 1/2
2 1/2	3	1 1/2	1 1/2	2 1/2	8	3 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	3 1/2 x 3 x 1/2	14 x 22 x 1/2
2 1/2	3	1 1/2	1 1/2	2 1/2	8	3 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	3 1/2 x 3 1/2 x 1/2	16 x 28 x 1/2
2 1/2	3	1 1/2	1 1/2	2 1/2	8	3 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	3 1/2 x 3 1/2 x 1/2	16 x 28 x 1/2

一七九

第四號表 梁ノ截面

第 二 號	甲板梁		船 梁
	材 質	寸 法	
以上 水線 以下 11-12	材 質	寸 法	材 質
12-13	5 1/2		
13-14	5 1/2		
14-15	5 1/2	7 1/2	
15-16	6	7 1/2	
16-17	6 1/2	8	
17-18	6 1/2	8 1/2	
18-19	6 1/2	8 1/2	
19-20	7	9	
20-21	7 1/2	9 1/2	
21-22	7 1/2	9 1/2	
22-23	7 1/2	10	
23-24	8	10 1/2	
24-25	8 1/2	10 1/2	
25-26	8 1/2	11	
26-27	8 1/2	11 1/2	
27-28	8 1/2	11 1/2	
28-29	9	12	
29-30	9	12 1/2	
30-31	9 1/2	12 1/2	

第三號表

材 質	龍骨		船 骨		側 内 厚 板	
	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
以上 水線 以下 11-12	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
12-13	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
13-14	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
14-15	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
15-16	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
16-17	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
17-18	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
18-19	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
19-20	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
20-21	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
21-22	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
22-23	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
23-24	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
24-25	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
25-26	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
26-27	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
27-28	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
28-29	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
29-30	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法
30-31	材 質	寸 法	材 質	寸 法	材 質	寸 法

明治三十八年三月 省令 農商務省第十號 汽船検査規程

一七八

第十二號表
機關部屬具表

名	稱	員數	備	要
吸錫機	各吸錫ニ付一組	一	但同形ニシテ相替用シ得ルモノハ一組ニ止ムルモ妨ナシ	
吸錫螺釘及母釘	總數四分ノ一	一		
接線上下ノ螺釘	上下各一組	一		
接線螺釘及母螺	一組	一		
傳聲器	一	一	總數二十噸未満ノ帆船ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ	
汽	六	六	總數二十噸未満ノ帆船ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ	
汽防用手桶	一	一		
航海曆	一	一		
六分儀	一	一		
時辰儀	一	一		
寒暖計	一	一		海水ヲ計ルニ適スルヲ要ス
晴雨計	一	一		
深海測鉛	一	一		
手用測鉛	一	一		

冷汽管 規格	總數ノ二十分一	備	要
排氣唧筒	一組	但三十噸ヲ最小限度トス米製ナルトキハ揚筒器ヲ添フ	
排氣唧筒	多瓣裝置ナルトキ		
排氣唧筒	單瓣裝置ナルトキ		
排氣唧筒	多瓣裝置ナルトキ		
給水唧筒及座	二組		
給水唧筒及座	二組		
給水唧筒及座	一組		
給水唧筒及座	一組		
安全貯液條	一		
火床架	總數ノ五分一	但四箇ヲ最小限度トス	
取水器	各額ニ付四箇	但六箇ヲ最小限度トス	
管擴器	一		
管塞器	八		
錐孔器	一	但内半數ハ汽鑪前面ニ於テ直ニ使用シ得ヘキモノ	
摺付萬力	一		
螺釘及母螺	若干		

機關室用小道具	一	捕
驗 罾 器	一	罾
寒 罽 計	一	罾

(備考) 汽機二臺以上ヲ備フルモノニ在リテハ表中ノ吸鑄鐵條乃至塗水唧筒及座ハ汽機一臺分ノ外之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

第十三號表
漁艇數及容積表

種類ノ種類	噸數					每艇容積標準
	十噸以上	五十噸以上	一百噸以上	二百噸以上	三百噸以上	
立船漁船 汽船	一	一	一	一	一	每艇容積標準 三十噸未満 三十噸以上 一三〇
鯨獵船 帆船	一	一	一	一	一	立方尺
鯨獵船 汽船	三	三	五	七	五	二七〇
鯊魚船 帆船	三	三	五	七	五	九六
旋網漁船 帆船	一	一	一	一	一	九六
打網漁船 汽船	一	一	一	一	一	九六
打網漁船 帆船	一	一	一	一	一	九六
流網漁船	一	一	一	一	一	九六
延繩漁船	一	一	一	一	一	九六

○農商務省令第十一號
遠洋漁業獎勵法施行細則左ノ通改正ス

明治三十八年三月三十一日

農商務大臣 野村浩平
逕信大臣 大浦兼武

遠洋漁業獎勵法施行細則

第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ受ケ又ハ受ケムトスル總噸數二十噸未満ノ遠洋漁船ニ關シテハ船舶法第四條第七條第九條船舶検査法第四條第五條船員法第三條乃至第十二條第二十六條乃至第三十五條第七十九條船舶検査法施行細則及船員法施行細則ノ規定ヲ準用ス

第二條 遠洋漁船検査ニ關シテハ船舶検査法施行細則第十三條第十七條第十九條乃至第二十五條第四十四條第四十九條第五十條第五十六條及第七十二條ノ規定ヲ準用ス

第三條 本則ノ規定ニ依リ船長ノ行フヘキ職務ハ船長ヲ乘組マシメサル總噸數二十噸未満ノ船舶ニ在リテハ漁獵長之ヲ行フヘシ

第四條 漁業獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ書式第一號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ住所又ハ業務執

行ノ爲設ケタル事務所ノ所在地ノ管轄地方長官ヲ經由シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 書式第二號ニ依ル業務目論見書

二 船舶甲板裝置圖及船内裝置圖

三 總噸數二十噸以上ノ船舶ニ付テハ船舶國籍證書寫及船舶検査證書寫、總噸數二十噸未満ノ

船舶ニ付テハ船鑑札寫

出願人カ法人ナルトキハ前項書類ノ外定款及社員名簿又ハ株主名簿、組合ナルトキハ契約書及

組合員ノ名簿、遠洋漁船検査證書ヲ受有スル者ナルトキハ尙遠洋漁船検査證書ノ寫ヲ願書ニ添

付スヘシ

第一項ノ出願ハ使用セムトスル船舶ノ製造中ト雖書式第二號ニ依ル願書ヲ差出シテ之ヲ爲スコ

トヲ得此ノ場合ニ於テハ第一項第三號ノ書類ハ船舶検査證書及船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ受ケ

タル後遲滞ナク之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ願書ニ第五條第二號及第四號ノ書類ヲ添付スヘシ但シ第五條ニ依リ漁

船獎勵金下付ノ出願ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 漁船獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ書式第四號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ住所ノ管轄地方

長官ヲ經由シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 第四條第一號ノ書類

二 書式第五號ニ依ル船舶件名書

三 船圖

四 製造、据付仕様書及經費豫算書

前條第二項ノ規定ハ前項ノ願書ニ關シ之ヲ準用ス

第二項第三號船圖ハ船舶ヲ新造スル者ニ在リテハ船體線圖、船體中央橫截面圖、船體中心線縱截

面圖、船體各甲板平面圖、船内平面圖、裝帆圖、汽機圖又ハ發動機圖、船舶ヲ新造ノ機關ヲ据

付ケル者ニ在リテハ機關室橫截面圖、船體各甲板平面圖、船内平面圖、裝帆圖、汽機圖又

ハ發動機圖ノ各種分テ其ノ寸法ヲ附記シ汽機圖ニハ汽機縱橫平面各截面並冷汽器附屬脚筒ノ

截面又ハ汽機圖ニハ縱橫截面、前面及背面ヲ記入スヘシ

第六條 農商務大臣第四條ノ願書ヲ受理シタルトキハ之ヲ審查シ其ノ船舶カ遠洋漁船検査證書ヲ

受有スルモノナルトキハ當該官吏ヲシテ業務設備検査ヲ行ハシメ遠洋漁船検査證書ヲ受有セザ

ルモノナルトキハ管海官廳ノ遠洋漁船検査ヲ受ケヘキ旨ヲ出願人ニ通知シ其ノ検査終了後當該

官吏ヲシテ業務設備検査ヲ行ハシムヘシ

前項ノ業務設備検査ニ合格セタルトキハ農商務大臣ハ地方長官ヲ經テ漁業獎勵金下付ノ許可指

令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第七條 前條ニ依リ遠洋漁船検査ヲ受ケヘキ旨ヲ通知ヲ受ケタル者ハ書式第六號ニ依ル申請書ヲ

船舶所在地ノ管轄管海官廳ニ差出スヘシ

第八條 農商務大臣第五條ノ願書ヲ受理シタルトキハ之ヲ審查シ適當ト認ムルトキハ地方長官ヲ

經テ漁船獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第九條 前條ノ許可指令書ヲ受ケタル者ハ船舶ヲ新造又ハ機關ノ据付ニ關シ管海官廳又ハ主務大

臣ノ時ニ指定シタル官吏ノ指揮ニ從フコトヲ要ス

船舶ノ新造又ハ機關ノ据付ヲ終リタルトキハ許可指令書ヲ受ケタル者ハ遠洋漁船検査ヲ管海官

廳ニ申請スヘシ

第十條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間内漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有

者ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ハ船舶ノ航行期間満了シタル場合ニ於テ遠洋漁船檢

查ヲ管海官廳ニ申請スヘシ但シ正當ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項但書ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 管海官廳ニ於テ第七條 第九條及第十條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ遠洋漁船検査規程ニ依リ検査ヲ行ヒ適當ト認メタルトキハ書式第七號ニ依ル遠洋漁船検査證書ヲ申請人ニ交付スヘシ

船舶ノ航行期間内ト雖業務主ヨリ遠洋漁船検査ノ申請アリタルトキハ管海官廳ニ於テ相當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項ニ依リ検査ヲ行フヘシ

第十二條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ每業務期ノ始ニ於テ期日及場所ヲ定メ業務設備検査ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ

農商務大臣ニ於テ業務設備ヲ不完全ナリト認ムルトキハ再検査ヲ受クヘキ旨ヲ申請人ニ命スルコトヲ得

第十三條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實ノアリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ旨農商務大臣ニ届出ツヘシ

一 業務ヲ廢止シタルトキ

二 法人若ハ組合カ解散又ハ破産シタルトキ

三 船舶カ日本船舶ノ資格ヲ喪失シタルトキ

四 船舶カ滅失沈没シ若ハ行衛不明トナリタルトキ又ハ解散セラレタルトキ

五 遠洋漁船検査證書ノ交付ヲ受ケ得サルトキ

六 前各號ノ外獎勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ

法人若ハ組合カ解散又ハ破産シタル場合ニハ其ノ清算人又ハ破産管財人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條 遠洋漁船検査證書ヲ受有スル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實ノアリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ證書ヲ管海官廳ニ返納スヘシ但シ船舶ノ滅失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ返納スルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ届出ツヘシ

一 航行期間ノ満了シタルトキ

二 業務設備検査ニ合格セザルトキ

三 漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年ヲ經過シタル船舶若ハ漁船獎勵金ヲ受ケサル船舶ニシテ漁業獎勵金下付許可期間ノ満了シタルトキ又ハ漁業獎勵金ノ下付ヲ廢止セラレタルトキ

四 前條第一項第一號乃至第四號及第六號ニ該當シタルトキ

前條第二項ノ規定ハ本條ニ之ヲ準用ス

第十五條 遠洋漁船検査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ業務主又ハ船長ハ遲滞ナク其ノ書換ヲ管海官廳ニ申請スヘシ

第十六條 遠洋漁船検査證書カ滅失又ハ毀損シタルトキハ業務主又ハ船長ハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク其ノ再交付ヲ管海官廳ニ申請スヘシ

第十七條 漁業獎勵金又ハ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニシテ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ニ氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ又ハ死亡シタルトキハ二週間内ニ其ノ旨農商務大臣ニ届出ツヘシ

前項死亡ノ場合ニ於テハ相続人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ニ其ノ船舶ヲ讓渡シタルトキハ遲滞ナク書式第八號ニ依ル届書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十九條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ遠洋漁業獎勵法第九條ノ規

定ニ依リ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシムルコト能ハサルトキ又ハ漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ於テ業務ヲ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者業務ニ從事スルトキハ發著ノ都度其ノ事由ヲ具シ帝國ニ在リテハ警察本分署外國ニ在リテハ帝國領事又ハ帝國貿易事務官ニ届出テ其ノ證明ヲ受クヘシ

第二十一條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者每業務期間ニ於テ業務ヲ終了シタルトキハ業務主又ハ船長ハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ届出テ且帝國ニ在リテハ最寄警察本分署外國ニ在リテハ帝國領事又ハ帝國貿易事務官ニ書式第九號ニ依リ申請書ヲ差出シ其ノ證明ヲ受クヘシ

第二十二條 業務期間内ニ於テ避難ノ爲又ハ薪水糧食ノ積入漁獲物ノ陸揚若ハ船舶漁具ノ修繕ニ要シタル日數及農務大臣ノ必要ト認メタル航行碇泊日數ハ就業日數ト看做ス

第二十三條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケ其ノ業務ニ從事シタル者ニシテ業務期間ヲ終リタルトキハ書式第十號ニ依リ請求書ニ業務日誌書式第十一號ニ依リ業務明細書並第二十條及第二十一條ノ證明書ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ差出シ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ遠洋漁船検査證書ヲ受ケタルトキハ書式第十三號ニ依リ請求書ニ其ノ寫ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ差出シ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 業務主ガ每業務期間ヲ終リタルトキハ其ノ船舶ニ乗組ミタル漁獵員ハ其ノ業務主ヲ代理スル爲ニ書式第十三號ニ依リ請求書ヲ農商務大臣ニ差出シ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

前項請求書ニハ書式第十四號ニ依リ漁獵員明細書ヲ添付スヘシ

第二十六條 遠洋漁業獎勵法第七條第一項但書及第二項但書ノ場合ニ於テハ請求書ニ其ノ事由ヲ推定スルキ證據書類ヲ添ヘ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ死亡シ又ハ行衛不明トナリタル漁獵員ニ對スル獎勵金ハ其ノ正當相續人タルヘキ者ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ請求人ハ其ノ親族關係ヲ證明スルキ書類ヲ添付スヘシ

第二十七條 遠洋漁業獎勵法又ハ本則ノ規定ニ違反シ起訴セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判ノ確定スル迄獎勵金ノ下付ヲ中止スルコトヲ得

第二十八條 漁獵職員試験ハ農商務大臣ノ定ムル場所及期日ニ於テ之ヲ執行ス

農商務大臣ニ於テ臨時試験ヲ執行スル必要アリト認ムルトキハ別ニ其ノ場所及期日ヲ定ム

第二十九條 漁獵職員試験ヲ受ケムトスル者ハ試験期日七日前迄ニ書式第十五號ニ依リ願書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

漁獵職員免狀ノ返納ヲ命セラレタル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ一箇年間前條ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三十條 漁獵職員試験ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ要ス

甲種漁獵員
一乙種漁獵員免狀ヲ有シ一箇年以上其ノ職ヲ執リタル者又ハ各種船長、甲種一等運轉士、甲種二等運轉士若ハ乙種一等運轉士ノ免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミタル者

乙種漁獵員
一丙種漁獵員免狀、海技免狀又ハ水産講習所漁撈科卒業證書ヲ有シ二箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミタル者

丙種漁獵員
組ミタル者

一 漁獵手免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミタル者四箇年以上航洋帆船ニ乗組ミ内一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミタル者又ハ五箇年以上沖合ノ漁業ニ従事シ内一箇年以上航洋帆船ニ乗組ミタル者

一 漁獵夫ト爲リ二箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミタル者又ハ四箇年以上沖合ノ漁業ニ従事シタル者

第三十一條 農商務大臣ハ漁獵職員試験ニ合格シタル者ニ對シ相當ノ免狀ヲ交付スヘシ

第三十二條 農商務大臣ハ遠洋漁業練習生ノ修業證書又ハ水産講習所遠洋漁業科ノ修業證書ヲ有スル者ニ對シ試験ヲ用井シテ相當ノ免狀ヲ交付スルコトヲ得

第三十三條 農商務大臣ハ漁獵職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ免狀ノ行使ヲ停止シ又ハ免狀ヲ返納ヲ命スルコトヲ得

一 遠洋漁業獎勵法又ハ同法ニ依リ發スル命令ニ違背シタル者

二 海員懲戒法ニ依リ懲戒處分ヲ受ケタル者

詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ免狀ヲ返納ヲ命スヘシ

第三十四條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ毎業務期間ヲ終リタル日ヨリ二箇月以内ニ業務收支計算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ事業年度ヲ定メタルモノニ在リテハ其ノ年度ノ終了後二箇月以内ニ之ヲ差出スコトヲ得

第三十五條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間其ノ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシメタル業務ニ關シ毎年一回其ノ收支計算書及業務報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ其ノ業務主ニシテ前條ノ適用ヲ受ケル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ許可期間内漁船獎勵金ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間ハ帳簿ヲ備ヘ其ノ業務ニ關スル收支ヲ記載シ帳簿閉鎖ノトキヨリ二箇年間之ヲ保存スヘシ

農商務大臣ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ前項ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十七條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間ニ於テ天災其ノ他抗拒スヘカサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサル場合ニ其ノ船舶ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供シタルトキハ所有者又ハ船長ヨリ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第三十八條 遠洋漁業獎勵法第十條ニ依リ遠洋漁業練習生ヲ乗組マシメタル船舶ノ船長及漁獵長ハ練習生ヲシテ航海及漁獵ニ關スル技術ヲ練習セシメ其ノ品行及技能ニ注意シ每業務期ニ於ケル業務ヲ終リタル後遲滞ナク其ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第三十九條 遠洋漁業獎勵法第十條ニ依リ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ命セラレタル者ハ指定ノ期間内ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ

第四十條 第十條、第十三條乃至第十九條、第三十四條乃至第三十七條ノ規定ニ違反シ若ハ帳簿ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第四十一條 本則ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十二條 農商務大臣ハ本則施行後二箇年間左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ相當ノ漁獵職員免狀ヲ交付スルコトヲ得

一 本則施行以前ニ於テ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ船長又ハ漁獵長ノ職務ヲ執リタル者

二 本則施行以前ニ於テ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ漁獵ニ従事シタル者

第一號

漁業獎勵金下付願

今般漁業獎勵法ヲ遵守シ所有(何縣何郡何村何番地何某所有)ノ汽(帆)船何丸ヲ以テ漁業(漁獲物處理運搬業ニ從事政候
ニ付漁業獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添へ此段相願候也

年月日

族籍住所
氏名

第二號

業務目録見書

追テ検査ノ義ハ何月何日何地ニ於テ相受度候也

- 一 漁船ノ種類及漁船具、又ハ處理運搬ノ目的物ノ種類及其漁獲方法
- 二 漁獲物處理法又ハ處理運搬方法及處理具
- 三 業務期間
- 四 業務場所但シ處理運搬船ニ在テ航路ヲ定メタルトキハ之ヲ記述スヘシ
- 五 船員職務別、其ノ員數及漁船長及其ノ免狀ノ寫但漁獲物處理運搬船ニ在リテハ船長及其ノ免狀ノ寫
- 六 業務豫算

起業費

一金	總額
內	船
金	船附屬具
金	漁船具
金	處理具
金	雜具
收入	
支出	

二金	總額
內	漁獲高但シ何々若干單價若干
金	何々但シ何々
一金	總額
內	船員給料並歩合金貸與金
金	船長但シ一箇月何箇月何箇月分
金	漁船長但シ同前
金	漁船手但シ同前何人分
金	漁船夫但シ同前
金	何々但シ同前
金	歩合金但シ漁獲高何ノ分
金	賞與金
金	消耗品費
內	糧食費但シ米若干單價若干副食物何々單價若干
金	薪炭油費但シ單價若干
金	漁船用消耗品但シ何々
金	處理製造用消耗品但シ何々
金	修繕費
金	雜費
第二號	
漁業獎勵金下付願	

搬業)ニ從事可致ニ付漁業獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添へ此段相願候也

年 月 日

農商務大臣爵氏名殿

追テ検査ノ義ハ何月何日何地ニ於テ相受度候也

第四號

漁船獎勵金下付願

今般漁洋漁業獎勵法ヲ遵守シ遠洋漁船新造(新造機關ヲ摺付)候ニ付漁船獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添へ此段相願候也

年 月 日

農商務大臣爵氏名殿

第五號

船舶件名書

- 一 甲號(船舶ヲ新造スルモノ)
- 二 船種及豫定ノ資格
- 三 外板及船骨材料
- 四 計量總噸數
- 五 計量馬力(機關ヲ有スルモノ)
- 六 機關ノ種類及數(同上)
- 七 推進器ノ數(同上)
- 八 計量馬力又ハ純馬力(同上)
- 九 豫定起工年月日
- 十 豫定竣工年月日
- 十一 造船所又ハ製造者ノ住所氏名若ハ名稱
- 十二 乙號(新造機關ヲ摺付タルモノ)
- 十三 船種 船名(機關ヲ摺付クヘキ船舶)

族籍住所

氏

名

族籍住所

氏

名

- 一 所有者住所氏名(同上)
- 二 總噸數(同上)
- 三 計量馬力
- 四 機關ノ種類及數
- 五 推進器ノ數
- 六 計量馬力又ハ純馬力
- 七 豫定起工年月日
- 八 豫定竣工年月日
- 九 機關製造者ノ住所氏名若ハ名稱及摺付場所
- 十 第十六號

遠洋漁船検査申請書

- 一 船舶ノ種類名稱總噸數
- 二 所有者ノ住所及氏名若ハ名稱
- 三 業務主ノ住所及氏名若ハ名稱
- 四 船籍港又ハ定製所
- 五 漁獵長ノ氏名及其ノ免狀ノ種類
- 六 業務種類
- 七 業務期間
- 八 業務場所
- 九 検査ヲ受クヘキ期日及場所
- 十 右船舶ノ構造及圖具検査相受度成規書類ヲ添へ此段申請候也

住所

氏

名

管海官廳御中

第七號(縦一尺九寸)

第 號

遠洋漁船検査證書

本船 船名	船種	總噸數	航路 限定航路	航行 期間	船主 姓名	所有 者姓名	船籍 港名
又 船名	又 船種	又 噸數	又 航路	又 期間	又 姓名	又 姓名	又 港名
船長 姓名	船員 姓名	船員 數	業務 種類	業務 期間	業務 種類	業務 種類	業務 種類
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

右検査ヲ遂ケ此ノ證書ヲ交付ス
明治 年 月 日
管海官廳名印

第八號

船舶所有權移轉屆

一 本船船名(遠洋漁船検査證書記載ノ番號)
二 船種船名
右八月日遠洋漁業獎勵法ニ依リ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ニシテ今般私共兩人ノ間ニ於テ所有權ヲ授受候ニ付テハ同法ノ規定遵守可仕此段及御届候也
年 月 日
族籍住所

第九號

業務終了検査申請書

- 一 船種船名
- 一 入港年月日
- 一 船員

農商務大臣 爵氏名殿

(賣主) 氏 名
族籍住所 氏 名

雇入年月日 職 務 生 年 月 族 籍 住 所 氏 名

右御検査ノ上證明相成度遠洋漁業獎勵法施行細則第十九條ニ依リ此段申請候也
年 月 日

業務主(船長) 氏 名

官氏名殿

第十號 漁業獎勵金請求書

漁業獎勵金

但 至何年何月何日 一業務期ニ對スル分
 汽(帆)船何丸 總噸數 噸
 右何年何月何日何地ニ於テ業務設備検査ヲ受ケ何月何日何地出帆漁業(處理運搬等)ニ從事シ何年何月何日何地ニ歸着業務ヲ終了致候間前記獎勵金御支給相成度別紙業務日誌業務明細書及證明書何通相添此段及請求候也

住所 氏 名 〇

第十一號

農商務大臣爵氏名殿

業務明細書

回	發		着		發着間日數	碇泊日數	名稱	數量	價額	記事
	月日	地名	月日	地名						
第一回										
第二回										
合計										

(備考) 記本欄内ニハ碇泊ノ事由ヲ記入スヘシ

第十二號
 漁船獎勵金請求書

一金 圓 漁船獎勵金

右明治何年何月何日付第何號許可指令書ヲ受ケ何年何月何日起工何年何月何日竣工致候間前記ノ漁船獎勵金御支給相成度遠洋漁船検査證書相添此段及請求候也

住所 氏 名 〇

第十三號

農商務大臣爵氏名殿

漁獵員獎勵金請求書

一金 圓 漁獵員獎勵金
 但 至何年何月何日 一業務期ニ對スル分

右何年何月何日何地ニ於テ業務設備検査ヲ受ケ何月何日何地出帆漁業(處理運搬等)ニ從事シ何年何月何日何地ニ歸着業務ヲ終了致候間前記獎勵金御支給相成度別紙委任狀相添ヘ此段及請求候也

住所 氏 名 〇

第十四號

農商務大臣爵氏名殿

漁獵員明細書

至	自	就業年月日	職	務	獎勵金	族籍氏名	記	事

地 名	加入登記料	電話使用料年額
佐世保	金五圓	金四十八圓
吳	金五圓	金四十八圓
相模	金五圓	金四十八圓
横須賀	金五圓	金四十八圓

○逓信省令第十號

明治三十年三月十二號逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ本月二十日ヨリ施行ス

明治三十八年三月十一日

逓信大臣大浦兼武

〔甲府八王子間〕ノ次ニ左ノ通追加

札幌若見澤間

金二十五錢

金十五錢

一 小樽若見澤間

金二十五錢

金十五錢

○逓信省令第十一號

明治三十七年三月逓信省令第五號中左ノ通改正

明治三十八年三月十五日

逓信大臣大浦兼武

第一項但書中靜岡郵便局ノ下及ノ一字ヲ删除シ筑前國若松郵便局ノ下ニ「札幌郵便局及名古屋郵便局」ノ十二字ヲ加フ

〔參照〕

逓信省令第五號(明治三十七年二月五日)抄録

第一項 一本邦就韓國釜山仁川及京城ヨリ發スル私用ノ外國電報ハ普通ノ日本語英語又ハ佛語ヲ以テ之ニ記載スルヲ要シ暗號ヲ用フルヲ禁ズ但シ東京郵便局横濱郵便局神戶郵便局大阪郵便局長崎郵便局門司郵便局三宮電信局下關郵便局釜山郵便局電信局大稻埕支局靜岡郵便局及筑前國若松郵便局へ差出スモノニ限り暗號ヲ用フルコトヲ許可スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ發信ノ際其暗號ニ日本語英語又ハ佛語ノ譯文ヲ添ヘ暗號帳ト共ニ之ヲ發信局ニ差出スヘシ

○逓信省令第十二號

明治三十年三月十二號逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部左ノ通改正シ本月二十日ヨリ施行ス

明治三十八年三月二十日

逓信大臣大浦兼武

〔長崎川尻間〕ノ次ニ左ノ通追加

門司佐世保間

金六十錢

金二十錢

〔大阪半田間〕ノ次ニ左ノ通追加

下關佐世保間

金六十五錢

金二十錢

〔横濱津間〕ノ次ニ左ノ通追加

廣島佐世保間

金一圓十錢

金二十五錢

〔東京津間〕ノ次ニ左ノ通追加

廣島長崎間

金一圓二十錢

金二十五錢

長崎吳間

金一圓二十錢

金二十五錢

吳佐世保間

金一圓二十錢

金二十五錢

〔神戸浦和間〕ノ次ニ左ノ通追加

東京廣島間

金三圓五十錢

金二十五錢

東京吳間

金二圓五十錢

金二十五錢

東京下關間

金三圓

金二十五錢

東京門司間

金三圓

金二十五錢

東京長崎間

金三圓六十錢

金二十五錢

東京佐世保間

金三圓六十錢

金二十五錢

○逓信省令第十三號

一 左記各地間長距離電話ハ當分ノ内電信法第四條ニ依リ軍事上直接ノ關係ヲ有スル官廳公署及公共團體等ノ加入電話機ニ依ル相互間ノ通話ニ限ルモノトス

東京 廣島 東京 長崎 佐世保 廣島
 東京 吳 東京 佐世保 吳
 東京 下關 長崎 廣島 佐世保 下關
 東京 門司 長崎 吳 佐世保 門司

二 前項ノ通話ヲナサントスルモノハ豫メ左記ノ申請書ヲ所轄一等郵便局ヲ經テ提出シ逓信大臣ノ承認ヲ受クヘシ此場合ニ在テハ附加使用料トシテ電話機一箇毎ニ年額金六圓ヲ納付スヘシ但電話交換規則第四條ニ依リ既ニ長距離電話ニ加入ヲナシタルモノハ本項ノ料金を要セス

三 本令ハ明治三十八年三月二十一日ヨリ施行ス

明治三十八年三月二十日

逓信大臣大浦兼武

申請書

- 一 器械設置場所
 - 二 電話番号
 - 三 既ニ長距離電話ニ加入ノ有無
- 右明治三十八年三月逓信省令第十三號ニ依リ通話程度ニ付承認相成度候也
- 年 月 日

某官公署(某團體)

代表者 氏 名印

逓信 夫 臣 宛

○逓信省令第十四號

明治三十三年九月逓信省令第四十六號電報規則中左ノ通改メ本年四月一日ヨリ施行ス

明治三十八年三月二十四日 逓信大臣大浦兼武

第八十一條中「電信局所」ノ下ニ「配達事務ヲ取扱ハサルモノヲ除ク」ヲ加フ

〔參照〕

逓信省令第四十六號電報規則明治三十三年九月一日抄録
 第八十一條 電信局所ヨリ陸上一里以内及其ノ局所在ノ市區内ヲ電報直配區域トス但シ必要ト認ムルトキハ其ノ區域ヲ制限シ又ハ其ノ區域外ノ地ヲ區域内ニ編入スルコトアルヘシ

○逓信省令第十五號

明治三十二年六月逓信省令第二十四號船舶法施行細則中左ノ通改正シ明治三十八年法律第六十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年三月二十五日

逓信大臣大浦兼武

第二十七條第一項中第十四條ノ下ニ第一項ヲ加ヘ第三項ヲ左ノ通改メ

前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶ノ登錄用紙ヲ閉鎖ス

第二十七條ノ二 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ通知スヘシ

一 船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數

二 船舶所有者ノ住所、氏名又ハ名稱

三 抹消ノ登錄ヲ爲シタル原因

四 抹消ノ登錄ヲ爲シタル年月日

第三十六條第二項中船舶國籍證書ノ毀損ノ下ニ又ハ船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ヲ加フ

第五十條ノ二 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ船舶所有者ノ住所又ハ船舶管理人ノ住所ヲ管轄スル稅務署ニ通知スヘシ

- 一 船舶ノ種類、名稱及噸噸數又ハ積石數
- 二 船舶所有者又ハ船舶管理人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 三 抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日
- 四 登録稅額

〔參照〕

遞信省令第二十四號船舶法施行細則(明治三十二年六月十二日)抄錄

第二十七條 船舶法第十四條ノ規定ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ登記證書ヲ添ヘ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶ノ登録用紙ヲ閉鎖ス

第三十六條 船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船籍證書ヲ請受ケントスル船長ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ假船籍證書

書ニ記載スヘキ事項ヲ證明スルニ必要ナル書類アルトキハ其書類ヲ添ヘ管海官廳ニ差出スヘシ

船籍證書ノ毀損ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ假船籍證書ヲ交付アリタルトキハ還帶ナク船籍證書

書ヲ返還スヘシ

○遞信省令第十六號

明治三十三年十二月 遞信省令第八十七號船舶檢查法施行細則中第八十七條ヲ削除シ明治三十八年法律第六十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年三月二十五日

遞信大臣大浦兼武

〔參照〕

遞信省令第八十七號船舶檢查法施行細則(明治三十三年十二月二十八日)抄錄

第八十七條 本則中沿海航路ニ關スル規定ハ管分ノ内之ヲ帆船ニ適用セス

○遞信省令第十七號

明治三十三年十二月 遞信省令第八十八號船舶檢查規程中左ノ通改正ス

明治三十八年三月二十五日

遞信大臣大浦兼武

第二十四條第二號ノ次ニ左ノ二號ヲ加ヘ以下各號順次繰下ク

- 三 主トシテ日本ト外國トノ間又ハ内地ト臺灣トノ間ヲ航行スル汽船ニ於テハ食品其ノ他雜品置場、庖厨、船艙等鼠族ノ棲息スル場所ハ硫黃燻蒸其ノ他適當ノ方法ヲ以テ鼠族ノ驅除ヲ行ヒ又浚水道ハ海水ヲ以テ洗滌シ便所其ノ他不潔ナル場所ハ消毒藥液ヲ以テ消毒ヲ行ヒ又飲水函ハ石灰乳ヲ以テ洗滌シ若ハ熱蒸氣ヲ通シテ掃除ヲ行フコト

〔參照〕

遞信省令第八十八號船舶檢查規程(明治三十三年十二月二十八日)抄錄

第二十四條 碇泊シタル船舶ノ定期検査ニ於テハ左ノ準備ヲ爲スヘシ

○遞信省令第十八號

發動機船ハ管海官廳ニ於テ明治三十八年九月三十日迄ニ検査ヲ受クヘシ但検査ヲ受クル迄船舶検査證書ヲ受有セスシテ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

明治三十八年三月二十五日

遞信大臣大浦兼武

○遞信省令第十九號

發動機船検査規程左ノ通之ヲ定メ明治三十八年法律第六十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年三月二十五日

遞信大臣大浦兼武

發動機船検査規程

第一條 本規程ニ於テ發動機トハ蒸氣ヲ用ヒサル推進用機關ヲ謂ヒ發動機船ト稱スルハ發動機ヲ以テ運航スル船舶ヲ謂フ

第二條 發動機船ノ検査ニ付テハ本規程ニ規定アルモノヲ除ク外明治三十三年十二月 遞信省令第八十八號船舶検査規程ノ規定ヲ準用ス

第三條 發動機ノ特別検査期間ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 製造後十五年未満ノモノ 三年
 二 製造後十五年以上ノモノ 二年

第四條 油槽、氣槽及ヒ電池ハ船内ノ安全ナル場所ニ置キ検査官吏ニ於テ適當ト認ムル安全装置ヲ設クヘシ

第五條 發動機ニハ完全ナル反轉裝置及ヒ緩急裝置ヲ設クヘシ

第六條 石油發動機船ノ隔壁及ヒ船體ノ部分木製ニシテ發動機ニ接近シ燃燒ノ虞アルトキハ之ニ鉛板、鐵板若ハ亞鉛板ヲ張り又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒ノ豫防ヲ爲スヘシ

電氣發動機船ノ蓄電池室ニハ通風ノ裝置ヲ爲シ其ノ床ハ鉛板ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第七條 石油發動機船ニ在リテハ別表ニ依リ機關部屬具ヲ備ヘ電氣發動機船ニ在リテハ機關室用小道具一揃ヲ備フヘシ

第八條 電氣發動機船ノ速力試驗又ハ試運轉ニハ「フール、ロード」試驗ヲ執行シ發動機ニ起ル溫度ヲ檢スヘシ

第九條 電氣發動機ニハ完全ナル絶緣裝置ヲ施スヘシ

第十條 電氣發動機ニハ完全ナル速度調整器ヲ設クヘシ

第十一條 電氣發動機ニハ閉閉器及ヒ自動遮斷器ヲ備フヘシ

(別表)

石油發動機船機關部屬具表

品名	船種	航路	備註
吸込機	汽笛四箇毎ニ	一組	
吸込機	汽笛四箇毎ニ	一箇	

○逕信省令第二十號
 船舶職員法施行細則左ノ通定
 明治三十八年三月二十五日
 逕信大臣大浦兼武

船舶職員法施行細則
 第一章 總則

第一條 船舶職員法第一號表ニ掲クル航路ノ區域ハ本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外船舶検査法施行細則第四十九條乃至第五十二條ノ規定ニ依リ船舶ノ種別ハ船舶法施行細則第一條及第二條ノ規定ニ依ル

品名	船種	航路	備註
排 出 機	汽笛四箇毎ニ	一箇	
給油唧筒	給油唧筒二箇毎ニ	一組	
冷 卻 機	汽笛二箇毎ニ	一組	
點 火 電 管	汽笛二箇毎ニ	三箇 同	一箇
電氣點火器	汽笛四箇毎ニ	一組 同	上
發 電 機	一箇	一箇	電氣ヲ以テ發火スルモノハ之ヲ要セス
電 池	總數ノ二分ノ一	總數ノ四分ノ一	電氣ヲ以テ發火スルモノニ限ル
起動ランプ火口	一組		電氣ヲ以テ發火スルモノニ限ル
接線棒上下螺釘	一組 同		
螺釘及ヒ母螺	若干 同		
機關室用小道具	一揃 同		上

第二章 船舶職員

第二條 遠洋航路ヲ航行スル汽船並帆船及近海航路ヲ航行スル汽船ニシテ漁獵ニ專用スルモノハ總噸數五百噸未滿ノモノニ限リ日本ニ在テハ管海官廳 外國ニ在テハ日本ノ領事官若ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケ別表ニ依リ其職員ヲ乘組マシムルコトヲ得但本船乘組員以外ノ人員ヲ搭載シ又ハ本船ノ漁獵ニ必要ナル用具 食糧 漁獲物及漁獲物處理用物以外ノ貨物ヲ搭載スルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ船舶所有者ヨリ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ當該官廳ニ差出スヘシ

- 一 船舶ノ種類、名稱及積量(總噸數)
- 二 漁獵ノ種類
- 三 航行スヘキ區域

第四 漁獵免許證書遠洋漁船検査證書其他本船ノ漁獵ニ關スル證明書ヲ有スルトキハ其舊第三條 補助機關ヲ備フル帆船ハ船舶職員法第一號表帆船ノ規定ニ依リ相當職員ヲ乘組マシムルノ外該船舶ノ總噸數ノ二分ノ一ニ相當スル汽船ニ準シテ機關部職員ヲ乘組マシムヘシ

第四條 外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ其航路 近海航路、沿海航路又ハ平水航路ニ該當スルトキハ逓信大臣ノ指定ヲ受ケ其航路ノ種別ニ從ヒ船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

外國ノ湖川港内ハ平水航路トス

第五條 第二條及第三條ニ掲クルモノリ外船舶職員法第七條第二號及第三號ニ該當スル船舶ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケ同法第一號表ニ掲クル職員ヲ減シ又ハ他ノ海技免狀ヲ受有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得

第六條 前二條ニ依リ逓信大臣ノ指定又ハ認可ヲ受ケントスルトキハ船舶所有者ヨリ左ニ掲クル

事項ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ差出シ指定書又ハ認可書ノ交付ヲ受クヘシ

- 一 船舶ノ種類、名稱、積量(總噸數)及速力
- 二 特殊ノ船舶ナルトキハ其構造
- 三 航行ノ目的(航行期限アルトキハ其期間ヲ合セ)
- 四 航行スヘキ區域及里程
- 五 乘組マシメントスル船舶職員ノ名稱及海技免狀ノ種類(第四條ニ依リ指定申請ノ場合ニハ之ヲ要セス)
- 六 申請ノ事由

第七條 左ノ場合ニ於テハ船舶職員法第四條又ハ本則ニ定ムル船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乘組マシメサルコトヲ得

- 一 外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル船舶ヲ到達港マテ回航スルトキ
- 二 外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ補充ノ手續中ナルトキ
- 三 日本ト外國トノ間ヲ航行スル船舶外國ノ港ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ日本ノ到達港マテ回航スルトキ
- 四 平水航路又ハ沿海航路ニ該當スル外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ當該外國政府ノ法規ニ依リ相當免狀ヲ受有スル者ヲ乘組マシメタルトキ
- 五 航行中船舶職員ニ缺員ヲ生シタルトキ
- 六 他船ニ引カレテ航行スルトキ
- 七 入渠、修繕又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ航行ノ用ニ供セサルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ヨリ海技免狀ヲ受有スル者ヲ雇入レ

難キ事由ヲ具シ日本ノ領事官若ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケテ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乘組マシ

又第七號ノ場合ニ於テハ日本ニ在テハ管海官廳、外國ニ在テハ領事官若ハ貿易事務官ノ認可

又第七號ノ場合ニ於テハ日本ニ在テハ管海官廳、外國ニ在テハ領事官若ハ貿易事務官ノ認可

又第七號ノ場合ニ於テハ日本ニ在テハ管海官廳、外國ニ在テハ領事官若ハ貿易事務官ノ認可

第三章 海技免狀

第八條 船舶職員法第三條第二項ニ依リ效力ニ制限ヲ加ヘ授與スル海技免狀ハ左ノ如シ

- 一 甲種船長免狀 汽船又ハ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 二 甲種二等運轉士免狀 汽船又ハ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 三 甲種二等運轉士免狀 汽船又ハ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 四 乙種二等運轉士免狀 湖川港内ノミヲ航行スル汽船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 五 乙種二等運轉士免狀 湖川港内ノミヲ航行スル汽船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 六 三等機關士免狀 湖川港内ノミヲ航行スル汽船又ハ發動機船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ

第九條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得

甲種船長免狀ハ他ノ船長免狀及運轉士免狀ニ對シ、甲種二等運轉士免狀ハ他ノ運轉士免狀ニ對シ、甲種二等運轉士免狀ハ各乙種運轉士免狀及丙種運轉士免狀ニ對シ、乙種船長免狀ハ各乙種運轉士免狀ニ對シ、乙種二等運轉士免狀ハ乙種二等運轉士免狀ニ對シ、丙種船長免狀ハ丙種運轉士免狀ニ對シ、各高等ノ免狀トス

第十條 近海航路ヲ航行スル汽船ニ於テハ乙種船長免狀ヲ以テ各甲種運轉士免狀ニ、乙種一等運轉士免狀ヲ以テ甲種二等運轉士免狀ニ代用スルコトヲ得

近海航路ヲ航行スル帆船ニ於テハ丙種船長免狀ヲ以テ各甲種運轉士免狀ニ代用スルコトヲ得

第四章 登録

第十一條 船舶職員法第五條第二項ニ依リ海技免狀ヲ受ケシトスル者ハ船舶職員試験ヲ行ヒタル

管海官廳ヲ經由シ第二號書式ノ書面ヲ逓信省ニ差出シテ登録ヲ申請スル

第十二條 船舶職員法第五條第二項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスル者ハ船舶職員試験ヲ執行スル

管海官廳ニ左ノ書類ヲ差出シ體格検査ヲ申請スル

- 一 第一號書式ノ申請書
- 二 戸籍ノ原本若ハ抄本及船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セザルニトシテ證明書
- 三 海軍艦船艇ニ乗組ミ運航者ハ機關運轉ニ從事シタル者ハ海上勤務ノ履歴書 最後任官ノ辭令書ノ寫
- 四 商船學校全科卒業生ハ卒業證書ノ寫
- 五 海技免狀ヲ受有スル者ハ該免狀ノ寫及該免狀受有後ノ乘船履歴書

前項第三號ノ履歴書ニ付テハ相當證明書辭令書ノ寫又ハ卒業證書ノ寫ニ付テハ各原本、第五號ノ乘船履歴書ニ付テハ船舶職員試験規程第十三條ニ依リ證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スル

體格検査ヲ受ケ合格シタル者ハ之ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ書面ヲ逓信省ニ差出シテ登録ヲ申請スル

第十三條 船舶職員法第五條第二項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスル者管海官廳ニ於テ體格検査ヲ受クルコト能ハサルトキハ該官廳ノ定ムル體格検査例規ニ依リ相當醫師ノ検査ヲ受ケ其成績書ヲ添ヘ該官廳ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ説明シテ前條ノ體格検査ノ執行ニ代フル

コトヲ申請スルコトヲ得

管海官廳ハ前項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ體格検査成績書ニ依リ申請人ノ體格ヲ審査シ適當ト認ムルトキハ體格検査ニ合格シタル者ト看做スコトヲ得

第十四條 逓信省ニ於テ第十一條又ハ第十二條第三項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ海

技免狀原簿ニ登録シ第三號書式ノ海技免狀ヲ申請人ニ授與ス

- 一 海技免狀ノ種類
- 二 氏名
- 三 本籍地及族稱(外國人ナルトキハ國籍)
- 四 出生ノ年月日
- 五 船舶職員試験又ハ體格検査ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
- 六 合格ノ年月日

第十五條 海技免狀ヲ受有スル者第十一條又ハ第十二條第三項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ現ニ審判開始ノ決定ヲ受ケタル者ナルトキハ前條ノ手續ハ審判不繼續ノ決定又ハ確定裁決ヲ受ケルマテ之ヲ停止ス

前項ノ確定裁決ニ依リ免狀行使ヲ停止セラレタルトキハ尙其執行處分ヲ終ルマテ登録ヲ停止シ又免狀行使ヲ禁止セラレタルトキハ登録ノ申請ハ之ヲ却下ス

第十六條 第十四條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ當該免狀ヲ受有スル者ハ其事實アリタル日又ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ第四號書式ノ書面ヲ遞信省ニ差出しテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

變更ノ登録ヲ申請スル者ハ登録事項ノ變更ニ關スル戶籍ノ謄本若ハ抄本外國人ニ在テハ本國領事ノ證明書ヲ申請書ニ添付スヘシ

第十七條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ變更ノ登録ヲ爲シ必要ノ場合ニハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請人ニ交付ス

申請人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ之ヲ引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第十八條 海技免狀ヲ受有スル者左ノ各號ニ該當スルトキハ其事實アリタル日又ハ其事實ヲ知リ

タル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出しテ抹消ノ登録ヲ申請スヘシ

- 一 公權ヲ剝奪セラレタルトキ
- 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 三 船舶職員法第六條第三號ノ事項ニ該當シタルトキ
- 四 免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレ其裁決確定シタルトキ
- 五 船舶職員試験規程ノ規定ニ依リ合格無效トナリタルトキ
- 六 廢業シタルトキ

海技免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

抹消ノ登録ヲ申請スル者ハ海技免狀ヲ申請書ニ添付シテ之ヲ遞信省ニ返還スヘシ若シ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ届出ツヘシ

第十九條 遞信省ハ左ノ場合ニ於テ抹消ノ登録ヲ爲ス

- 一 前條ノ申請ヲ受ケタルトキ
- 二 抹消ノ登録ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ
- 三 詐偽ノ所爲ヲ以テ海技免狀ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ

遞信省ハ前項第二號又ハ第三號ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ當該免狀ヲ受有スル者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク該免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第二十條 海技免狀ヲ受有スル者高等免狀ニ對スル登録ヲ受ケタルトキハ下等免狀ニ對スル登録ハ遞信省ニ於テ之ヲ抹消ス此場合ニ於テ下等免狀ハ高等免狀ト引換ニ之ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第二十一條 海技免狀ヲ受有スル者登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク第

四號書式ノ書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ヲ訂正ヲ申請スヘシ
登録ノ錯誤又ハ遺漏第十四條第二號乃至第四號ノ事項ニ係ルトキハ前項ノ書面ニ戸籍ノ謄本若
ハ抄本外國人ニ在テハ本國領事ノ證明書ヲ添付スヘシ
遞信省ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正シ其旨ヲ當該免狀受有
者ニ通知ス

第二十三條 前條第一項及第三項ノ規定ハ海技免狀ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アリタル場合ニ之ヲ準用ス
第二十二條 遞信省ニ於テ前二條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ登録ヲ訂正シ又ハ海技免狀ヲ書換
ヘ之ヲ申請人ニ交付ス

第十七條第二項ノ規定ハ前項ノ免狀ヲ受クル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 海技免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ當該免狀受有者ハ其事實アリタル日又ハ其事實
ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ第五號書式ノ書面ヲ遞信省ニ差出シテ再交付ヲ申請スヘシ
第二十五條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ海技免狀ヲ申請人ニ交付ス

第十七條第三項ノ規定ハ海技免狀ノ毀損ニ依リ前項ノ免狀ヲ受クル場合ニ之ヲ準用ス
第二十六條 行政區劃ノ變更アリタルトキハ海技免狀ヲ受有スル者ハ其事由ヲ記載シタル書面ヲ
遞信省ニ差出シテ海技免狀ノ書換ヲ申請スルコトヲ得

第十六條第三項ノ規定及第十七條ノ規定ハ變更ノ登録ニ關スル規定ヲ除クノ外前項ノ申請アリ
タル場合ニ之ヲ準用ス

第五章 手数料

第二十七條 本則ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スヘシ

一 第十三條第一項ニ依リ體格検査ヲ申請スルトキ 二十錢

二 第三十二條ニ依リ海技免狀ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ記載事項ノ錯誤又ハ遺漏免狀受有

者ノ過失ニ出テタルトキ

三 海技免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ

四 前條第二項ニ依リ海技免狀ノ書換ヲ申請スルトキ

前項第二號乃至第四號ノ申請ノ二件以上同時ニ爲ストキハ該申請ノ内一件ニ對スル手数料ヲ納
付スルヲ以テ足ル

第十六條ニ依リ變更ノ登録ヲ爲シ海技免狀ノ書換交付ヲ受クル場合ニ於テ同時ニ第一項
第二號乃至第四號ノ申請ヲ爲ストキハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セズ

第二十八條 第十一條第十二條第二項第三項第十六條第二項第二十二條第二十四條又ハ第二十六
條第一項ノ申請ヲ爲ス者ハ登録費又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル納付書ヲ申請書
ニ添付スヘシ

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スヘキモノトシ但申請人ニ於テ自己ノ便宜上
消印ヲ爲スハ妨ケナシ

第六章 雜則

第二十九條 海技免狀ヲ受有スル者公權ヲ行フコトヲ停止シタルトキハ其裁判確定後遲滞ナク
本人又ハ該免狀ヲ保管スル者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添テ海技免狀ヲ遞信省ニ差出スヘシ

一 公權停止ノ理由

二 公權停止ノ期間

三 裁判ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

前項ニ依リ提出シタル海技免狀ハ公權停止ノ期間遞信省之ヲ保管シ期間滿了ノ後之ヲ還付ス

第三十條 第十六條第二項第十八條第十九條第三項第二十二條第二項第二十三條第二
十四條第三項又ハ第三十九條第一項ニ依リ申請書又ハ海技免狀ヲ遞信省ニ差出スニ

明治三十八年三月 法令 遞信省第二十二號 郵便法施行規則

ハ最寄管海官廳ヲ經由スルコトヲ得

第三十一條 海技免狀ハ本則ノ規定ニ依リ之ヲ返還シタル場合ニハ返還ノトキヨリ、之ヲ返還セサル場合ニハ返還ノ事由發生シタルトキヨリ、第十八條第一項各號及第十九條第一項第二號第三號ノ場合ニハ各號ノ事實發生シタルトキヨリ、減失シタル場合ニハ減失ノトキヨリ其效力ヲ失フ

第三十二條 海技免狀ヲ受有スル者ハ當該官吏又ハ公吏ノ要求アルトキハ之ヲ其檢閱ニ供スヘシ

第七章 罰則

第三十三條 第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十四條第二十九條第一項第三十二條ニ違背シタル者又ハ本則ノ規定ニ依リ海技免狀ヲ返還スヘキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十四條 本則ハ明治三十八年法律第六十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第三十五條 明治三十二年ノ遞信省令第四十七號海技免狀取扱規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
第三十六條 本則施行前ニ第十六條第十八條又ハ第二十四條ニ該當シ未タ其手續ヲ爲ササル者ハ本則施行ノ日ヨリ起算シ各條ニ記載スル期間ニ本則ニ定ムル手續ヲ爲スヘシ本則施行前ニ第二十一條第一項第二項第二十二條又ハ第二十九條第一項ニ該當スル者亦同シ

第七章ノ罰則ハ前項ニ違背シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第三十七條 外國ノ湖川港内ノミヲ航行スル船舶ニハ當分ノ内日本ノ領事官若ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得

第三十八條 明治三十八年法律第六十九號施行ノ際現在スル發動機船ハ明治三十八年十月一日ヨリ船舶職員法ニ依リテ職員ヲ乘組マシムヘシ

(別表)

航路	近海航路		洋航		船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	定員
	汽船	帆船	汽船	帆船					
	五百噸未滿	二百噸未滿	五百噸未滿	二百噸未滿	汽船	二百噸未滿	船長	甲種二等運轉士	
	五百噸未滿	二百噸未滿	五百噸未滿	二百噸未滿	帆船	五百噸未滿	船長	甲種二等運轉士	
	五百噸未滿	二百噸未滿	五百噸未滿	二百噸未滿	汽船	五百噸未滿	船長	甲種二等運轉士	
	五百噸未滿	二百噸未滿	五百噸未滿	二百噸未滿	帆船	五百噸未滿	船長	甲種二等運轉士	
	五百噸未滿	二百噸未滿	五百噸未滿	二百噸未滿	汽船	五百噸未滿	船長	甲種二等運轉士	
	五百噸未滿	二百噸未滿	五百噸未滿	二百噸未滿	帆船	五百噸未滿	船長	甲種二等運轉士	

(第一號書式)

海技免狀原簿登錄申請書

- 一 海技免狀ノ種類
- 二 氏名(假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ)
- 三 本籍地及族稱
- 四 出生ノ年月日
- 五 船舶職員試驗(檢査)ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
- 六 合格ノ年月日

右海技免狀原簿ニ登錄ノ上海技免狀授與相成度船舶職員法施行細則第十一條(第十三條第三項)ニ依リ此段申請候也

申請人 氏名 印

(第二號書式)

遞信大臣宛

現住所

名印

六 出生ノ年月日
右何年何月何日(流失、遺失、紛失、毀損等ノ事由ヲ記憶スニ付再交付相成度手数料
年月日

相添此段申請候也
申請人 氏 名印
現住所

遞信大臣宛

○遞信省令第二十一號

船舶職員試驗規程左ノ通定

明治三十八年三月二十五日

遞信大臣大浦兼武

船舶職員試驗規程

第一章 總則

第一條 船舶職員試驗ハ左ノ二十二種トス

- 甲種船長試驗
- 甲種一等運轉士試驗
- 甲種二等運轉士試驗
- 汽船甲種船長試驗
- 汽船甲種一等運轉士試驗
- 汽船甲種二等運轉士試驗
- 帆船甲種船長試驗
- 帆船甲種一等運轉士試驗
- 帆船甲種二等運轉士試驗

乙種船長試驗

乙種一等運轉士試驗

乙種二等運轉士試驗

湖川港乙種一等運轉士試驗

湖川港乙種二等運轉士試驗

丙種船長試驗

丙種運轉士試驗

機關長試驗

一等機關士試驗

二等機關士試驗

三等機關士試驗

湖川港三等機關士試驗

發動機船三等機關士試驗

第二條 船舶職員試驗ハ遞信大臣ノ指定スル管海官廳及期日ニ於テ之ヲ執行ス

前項ノ外臨時試驗ヲ執行スル必要アルトキハ隨時其場所及期日ヲ告示ス

第二章 受験資格

第三條 年齡滿二十年以上ニシテ左ニ掲グル履歷ノ一ヲ有スル者ハ相當船舶職員試驗ヲ受クルコトヲ得

甲種船長試驗

一 汽船甲種船長試驗ヲ受クルニ適合スル履歷及一年以上横帆裝置ノ航洋帆船ニ乘組ミタル履

歴有スルコト

二 帆船甲種船長試験ヲ受クルニ適合スル 履歴 一年以上横帆装置ノ航洋帆船ニ乗組ミタル履歴及一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミタル履歴ヲ有スルコト

甲種一等運轉士試験

一 汽船甲種一等運轉士試験ヲ受クルニ適合スル 履歴 一年以上横帆装置ノ航洋帆船ニ乗組ミタル履歴ヲ有スルコト

二 帆船甲種一等運轉士試験ヲ受クルニ適合スル 履歴 一年以上横帆装置ノ航洋帆船ニ乗組ミタル履歴及一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミタル履歴ヲ有スルコト

甲種二等運轉士試験

四年以上遠洋航路若ハ近海航路ヲ航行スル船舶ニ乗組ミ其運航ニ從事シ其内少クモ一年ハ横帆装置ノ帆船ニ又一年ハ五百噸以上ノ汽船ニ在リタルコト

汽船甲種船長試験

一 甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

二 乙種船長免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

汽船甲種二等運轉士試験

一 甲種二等運轉士又ハ乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

二 乙種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三 甲種二等運轉士免狀又ハ乙種二等運轉士免狀ヲ有シ二年以上千噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ三等運轉士トシテ執務シタルコト

汽船甲種二等運轉士試験

四年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ其運航ニ從事シタルコト

帆船甲種船長試験

一 甲種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

二 甲種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三 丙種船長免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

四 丙種船長免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

帆船甲種二等運轉士試験

一 甲種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

二 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上若ハ二千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三 甲種二等運轉士免狀又ハ丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上三百噸以上若ハ三千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

帆船甲種三等運轉士試験

- 一 四年以上航洋帆船ニ乗組ミ其内少クモ一年ハ二百噸以上ノ遠洋航路若ハ近海航路ヲ航行スル帆船ニ乗組ミ其運航ニ從事シタルコト
- 二 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上航洋帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
- 乙種船長試験
 - 一 乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
 - 二 乙種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
 - 三 乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 乙種一等運轉士試験
 - 一 四年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ其運航ニ從事シタルコト
 - 二 乙種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
 - 三 乙種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上五十噸以上ノ汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
- 三年以上汽船ニ乗組ミ其運航ニ從事シタルコト
- 湖川港乙種一等運轉士試験
- 湖川港乙種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上免許ヲ受ケントスル湖川港内ニ在テ百噸以上ノ汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
- 湖川港乙種二等運轉士試験

- 一年以上汽船ニ乗組ミ免許ヲ受ケントスル湖川港内ニ在テ其運航ニ從事シタルコト
- 丙種船長試験
 - 一 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上若ハ二千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
 - 二 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上百噸以上若ハ千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
 - 三 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上三百噸以上若ハ三千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 丙種運轉士試験
 - 一 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等機關士ノ職ヲ執リタルコト
 - 二 一等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上三百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト
 - 三 一等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上千噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等機關士トシテ執務シタルコト
- 一等機關士試験
 - 一 四年以上三百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト
 - 二 二等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等機關士ノ職ヲ執リタルコト

ノコト

- 三 二等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト
- 四 二等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關士トシテ執務シタルコト
- 二等機關士試験
 - 一 三年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト
 - 二 三等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上五十噸以上ノ汽船ニ乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト
 - 三等機關士試験
 - 一 三年以上汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト
 - 二 湖川港三等機關士試験
 - 一年以上汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト
 - 發動機船三等機關士試験
 - 一年以上蒸氣以外ノ原動力ニ依リテ運轉スル機關ヲ備フル船舶ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト
- 第四條 前條ニ掲グル船舶ノ噸數ハ總噸數ニシテ石數ハ積石數トス
- 航洋船舶トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船及帆船 航洋汽船トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船 航洋帆船トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ヲ謂フ
- 汽船甲種船長試驗及汽船甲種一等運轉士試験ノ履歷ニ掲グル甲種一等運轉士免狀及甲種二等運轉士免狀ニハ效力ヲ汽船ニ限ラレタルモノヲ包含ス又帆船甲種船長試驗及帆船甲種一等運轉士試験ノ履歷ニ掲グル甲種二等運轉士免狀及甲種三等運轉士免狀ニハ效力ヲ帆船ニ限ラレタルモノトス

ノヲ包含ス

- 第五條 逓信大臣ノ允當ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ有シテ執職シタル履歷ハ日本政府ノ相當海技免狀ヲ有シテ執職シタルモノト看做ス
- 第六條 逓信大臣ノ允當ト認ムル機關工場ニ在テ汽機汽鐘ノ製造又ハ修繕ニ從事シタル期間ハ第三條ニ定ムル乘船期間ノ半數ニ達スルマテ乘船履歷ニ換算スルコトヲ得
- 第七條 補助機關ヲ備フル帆船ニ乗組ミタル者ノ履歷ハ甲板部員ニ在テハ帆船乗組ト看做シ機關部員ノ履歷ハ其乘組日數ノ四分ノ一ニ相當スル期間該船舶ノ總噸數ノ二分ノ一ニ相當スル汽船ニ乗組ミタルモノトシテ計算ス
- 第八條 船舶職員法施行細則第一條第四條及第五條ニ掲グル船舶ニ乗組ミタル履歷ハ逓信大臣ノ認定スル所ニ依リ第三條ニ定ムル履歷タル效力ヲ有ス
- 第九條 高等ノ試験ヲ受クルコトヲ得ル履歷ヲ有スル者ハ下等ノ試験ヲ受クルコトヲ得
- 高等ノ職ヲ執リタル履歷ハ下等ノ職ヲ執リタルモノトシテ換算若ハ通算スルコトヲ得
- 高等ノ免狀ヲ下等ノ免狀ニ代用シテ執職シタル履歷ハ該下等免狀ヲ有シテ執職シタルモノト看做ス
- 同一ノ試験ニ對シ二種以上ノ受験履歷ヲ有スル者ハ之ヲ通算シテ其内ノ一ニ該當スル期間ニ滿ツルトキハ相當履歷タル效力ヲ有ス但汽船甲種一等運轉士試験履歷第三號丙種船長試験履歷第三號及機關長試験履歷第三號ノ乘船履歷ハ其期間ノ半數ヲ以テ他ノ乘船期間ニ通算スルコトヲ要ス
- 第十條 逓信大臣ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海科又ハ機關科ヲ卒業シタル者ハ其乘船期間第三條ノ規定ニ適合セザルモ同大臣ノ認定スル所ニ依リ相當試験ヲ受クルコトヲ得

第十一條 左ニ掲クルモノハ第三條ニ定ムル履歴タル效力ヲ有セス

- 一 倉庫船又ハ繋留船ニ乗組ミタル履歴
- 二 年齢十五年未滿ノトキノ履歴
- 三 明治十二年八月以前ノ履歴
- 四 主トシテ船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ從事セサル職務ノ履歴

第三章 受験申請

第十二條 船舶職員試験ヲ受ケントスル者ハ定期試験ニ在テハ試験期日七日前マテニ臨時試験ニ

在テハ試験期日二日前マテニ試験ヲ行フ管海官廳ニ左ノ書面ヲ差出スヘシ

- 一 第一號書式ノ申請書
 - 二 戸籍ノ謄本若ハ抄本
 - 三 船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セサルコトノ證明書
 - 四 海技免狀ヲ有スル者ハ其寫
- 前項第二號ノ書類ハ外國人ニ在テハ日本ノ官公署又ハ本國領事ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十三條 履歴ハ左ニ掲クル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シテ之ヲ證明スヘシ

- 一 商船ニ乗組ミタル履歴ハ船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書
- 二 海軍艦船艇又ハ官廳若ハ公署ノ所屬船ニ乗組ミタル履歴ハ當該官廳公署ノ辭令書、證明書若ハ當該官吏公吏ノ證明書
- 三 船舶ノ種類、航路及職務ノ執行ニ關シテハ船舶所有者又ハ當該艦船艇長ノ證明書
- 四 學校若ハ機關工場ニ在リタル履歴ハ當該學校又ハ工場ノ卒業證書若ハ證明書

五 海技免狀受有者ハ該免狀

第十四條 受験申請人ハ手数料トシテ體格検査ニ付テハ二十錢學術試験ニ付テハ左ノ金額ヲ納ム

甲種船長試験	五圓
汽船甲種船長試験	
帆船甲種船長試験	
機關長試験	
甲種一等運轉士試験	三圓
汽船甲種一等運轉士試験	
帆船甲種一等運轉士試験	
乙種船長試験	
丙種船長試験	
一等機關士試験	
甲種二等運轉士試験	
汽船甲種二等運轉士試験	
帆船甲種二等運轉士試験	
乙種一等運轉士試験	二圓
湖川港乙種一等運轉士試験	
二等機關士試験	
乙種二等運轉士試験	
湖川港乙種二等運轉士試験	

丙種運轉士試験

三等機關士試験

湖川港三等機關士試験

發動機船三等機關士試験

第十五條 手数料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼用シ體格検査手数料ハ受験申請書ト共ニ納メ學術試験手数料ハ學術試験開始ニ先チテ納ムヘシ
前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケンシ
既納手数料ハ事故ノ如何ヲ問ハス之ヲ還付セス

第四章 試験

第十六條 試験ハ體格検査及學術試験トス體格検査ニ合格シタル者ニアラサレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス但體格検査ニ合格シ學術試験ニ合格セザリシ者體格検査ヲ受ケタル日ヨリ百日以内ニ於テ再ヒ同一ノ管海官廳ニ試験ヲ申請シタルトキハ試験官吏ノ見込ニ依リ體格検査ヲ省略スルコトアルヘシ

學術試験ハ筆記試験及口述試験トス但湖川港乙種一等運轉士試験、湖川港乙種二等運轉士試験、湖川港三等機關士試験及發動機船三等機關士試験ニハ筆記試験ヲ行ハス
筆記試験ヲ受クヘキ者ハ之ニ合格スルニアラサレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス
學術試験ハ別記ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

第十七條 試験ノ執行ニ關スル手續ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定ム
第十八條 試験官吏ニ於テ受験人ノ履歴若ハ身分ニ詐欺錯誤アルコト其他受験資格ナキコトヲ發見シタルトキ又ハ試験ヲ行フ管海官廳ニ於テ定メタル試験ノ手續ニ違背シタルコトヲ認ムルトキハ何時ニテモ其試験ヲ停止スルコトヲ得

第十九條 受験人左ニ掲グル場合ニ於テハ其試験ハ成立セサルモノトス
一 指定ノ試験執行日ニ出場セサルトキ
二 試験ヲ終ララスシテ退場シタルトキ
三 規定ノ時間ニ答ヲ終ラサルトキ
四 第十八條ノ規定ニ依リ試験ヲ停止セラレタルトキ

第二十條 受験人試験ニ合格シタルトキハ第二號書式ノ合格證書ヲ附與ス
第二十一條 試験合格證書ヲ附與シタル後受験當時受験人ノ受験資格ヲ有セザリシコトヲ發見シタルトキハ該合格證書ヲ無効トシ之ヲ還納セシムヘシ
前項ノ場合ニ於テ受験人カ合格證書ヲ還納セサルトキハ當該管海官廳ハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告スヘシ

第五章 試験停止

第二十二條 左ニ掲グル事項ニ該當スル者ハ最後ノ受験日ヨリ六十日ヲ經過スルニアラサレハ再ヒ試験ヲ申請スルコトヲ得ス但第三號又ハ第四號ニ該當スル者カ下等ノ試験ヲ申請スルハ此限ニ在ラス

- 一 體格検査ニ合格セサル者
- 二 第十八條ノ規定ニ依リ試験ヲ停止セラレ又ハ無効トセラレタル者

三 同種試驗ノ筆記試驗ニ於テ之ニ合格セサルコト又ハ其試驗ノ成立セサルコト引續二回ニ及ヒタル者

四 同種試験ノ口述試験ニ於テ之ニ合格セサルコト又ハ其試験ノ成立セサルコト引續二回ニ及ヒタル者

前項第三號及第四號ニ於テハ試験不合格ト不成立トハ之ヲ通算ス

第二十三條 前條第一項第四號ニ該當シ試験ノ申請ヲ停止セラレタル者ハ不合格又ハ不成立ノ事項カ實地船舶ノ運航若ハ機關ノ運轉ニ關スルモノナルトキハ爾後三箇月以上船舶ニ乗組ミタル履歴ヲ有スルニアラサレハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス

前項ノ履歴ニ關シテハ第三條第五條第六條第七條第九條第十一條及第十三條ノ規定ヲ適用ス

附則

第二十四條 本規程ハ明治三十八年法律第六十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 明治三十年五月選信省令第七號ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十六條 明治三十年五月選信省令第七號海員試驗規程ニ定ムル受驗履歴ニ適合スル履歴ヲ有スル者ハ本規程第三條ノ規定ニ拘ハラズ明治三十八年十二月三十一日マテ相當試験ヲ受クルコトヲ得

(別記)

- 試驗科目
- 甲種船長試驗
- 一 星ノ子午線經過時及子午線高度ノ推算法
 - 二 星ノ高度ニ依リ緯度ノ算法
 - 三 太陽子午線經過時ノ推算法
 - 四 太陽子午線高度ニ依リ緯度ノ算法
 - 五 子午線ニ近キ太陽高度ニ依リ緯度ノ算法
- 乙種船長試驗
- 一 羅針儀據附及矯正ノ方法
 - 二 假舵及救命筏ノ製作及用法
 - 三 運轉自由ヲ得サル船舶ノ取扱方法

<p>四 船體傾倒及船體應急修繕ノ方法</p> <p>五 前數號ノ外船長ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項</p> <p>甲種一等運轉士試験 甲種二等運轉士試験ノ科目ヲ合セ</p> <p>筆記</p> <ol style="list-style-type: none"> 一 太陽方位角ニ依リ羅針差ノ算法 二 時辰儀及太陽高度ニ依リ緯度又ハ時辰儀差ノ算法 三 サムナー式算法 四 潮時算法 <p>口述</p> <ol style="list-style-type: none"> 一 下船建設其他器材ノ取扱 二 汽船ノ荒天運用方法 三 汽船ノ荒天運用方法 四 航海中船具ノ破損其他不慮ノ事變ニ會シ之ヲ處理スル方法 五 航海中船具ノ破損其他不慮ノ事變ニ會シ之ヲ處理スル方法 六 海難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法 七 風風ノ說明 八 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項 <p>甲種二等運轉士試験 筆記</p> <ol style="list-style-type: none"> 一 普通作文 二 航海ニ關スル用語ノ說明 	<p>三 面積積量比例及對數算法</p> <p>四 航海日誌算法</p> <p>五 緯線航行算法</p> <p>六 マーケートル式又ハ中分緯度式ニ依リ緯度緯度若ハ針路航程ノ算法</p> <p>七 太陽子午線高度ニ依リ緯度ノ算法</p> <p>八 太陽ノ出沒方位ニ依リ羅針差ノ算法</p> <p>九 羅針自差ノ算法</p> <p>十 海圖ノ用法</p> <p>口述</p> <ol style="list-style-type: none"> 一 船具ノ取附及脫除 二 桅樁及帆架ノ揚降 三 測程具測深具ノ說明及用法 四 鉛錘鏡其他器具ノ取扱 五 貨物積載法 六 帆ノ取扱 七 汽船ノ常時運用方法 八 汽船ノ常時運用方法 九 六分儀ノ用法及矯正法 十 羅針自差ノ測定方法 十一 海上衝突豫防法 十二 萬國船舶信號法 十三 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項 <p>汽船甲種船長試驗 汽船甲種一等運轉士試験及汽船甲種二等運轉士試験ノ各科目ハ前ニ掲クル相當試験ノ科目中口</p>	<p>述ニ於テ帆船ノ運用ニ關スル事項ヲ除クノ外總テ同トス</p> <p>帆船甲種船長試驗、帆船甲種一等運轉士試験及帆船甲種二等運轉士試験ノ各科目ハ前ニ掲クル相當試験ノ科目中口述ニ於テ汽船ノ運用ニ關スル事項ヲ除クノ外總テ同トス</p> <p>乙種船長試驗</p> <p>乙種一等運轉士試験及乙種二等運轉士試験ノ科目ヲ合セ</p> <p>筆記</p> <ol style="list-style-type: none"> 一 太陽子午線高度ニ依リ緯度ノ算法 二 太陽出沒方位ニ依リ羅針差ノ算法 <p>口述</p> <ol style="list-style-type: none"> 一 汽船ノ舵及暗車作用 二 汽船ノ荒天運用方法 三 航海中船具ノ破損其他不慮ノ事變ニ會シ之ヲ處理スル方法 四 海難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法 五 六分儀ノ用法及矯正法 六 風風ノ說明 七 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項 <p>乙種二等運轉士試験 乙種二等運轉士試験ノ科目ヲ</p>
--	---	---

<p>筆記</p> <p>一 普通作文又ハ文章ノ解題 二 加減乘除應用及面積積算法 三 航海日誌算法 四 羅針自差ノ算法 口述</p> <p>一 羅針儀其他器具ノ取扱 貨物積載法 三 帆ノ取扱 四 羅針自差ノ測定方法 五 萬國船舶信號法 六 前敵號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項 乙種二等運轉士試験 筆記</p> <p>一 航海日誌ノ記載 海圖ノ用法 口述</p> <p>一 羅針儀ノ說明並用法 二 測程具測深具ノ說明並用法 三 汽船ノ常時運用方法 海上衝突預防法 四 前敵號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項 湖川港乙種一等運轉士試験 口述</p> <p>一 舵及推進器ノ作用 口述</p>	<p>筆記</p> <p>一 汽船運用方法 二 船舶衝突預防ノ方法 三 船舶ノ航行スヘキ區域ノ地理 四 前敵號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項 五 湖川港乙種二等運轉士試験ハ前ニ揚テ ル湖川港乙種一等運轉士試験ノ科目ニ 依リ小汽船ノ運用方法ニ付テ試験スル モノトス 丙種運轉士試験 丙種運轉士試験ノ科目ヲ合セ 筆記</p> <p>一 航海日誌算法 二 太陽ノ高度ニ依リ緯度ノ算法 三 太陽ノ出沒方位ニ依リ羅針自差ノ 算法 四 潮時算法 五 羅針自差ノ算法 口述</p> <p>一 桅樁及帆架ノ揚降 二 帆船ノ荒天運用方法 三 航海中船具ノ破損其他不慮ノ事變 ニ會シテ之ヲ處理スル方法 四 海難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル 方法 五 六分儀ノ用法及修正法 六 羅針自差ノ測定方法 七 惡風ノ説明</p>	<p>筆記</p> <p>一 前敵號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項 丙種運轉士試験 筆記</p> <p>一 航海日誌ノ記載 二 加減乘除應用及面積積算法 海圖ノ用法 口述</p> <p>一 羅針儀ノ說明並用法 二 船具ノ取附及脫除 三 測程具測深具ノ說明並用法 四 羅針儀其他器具ノ取扱 貨物積載法 五 帆ノ取扱 六 帆船ノ常時運用方法 海上衝突預防法 七 萬國船舶信號法 八 前敵號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項 機長試験 筆記</p> <p>一 汽船動力ノ汽機強力ノ螺絲距離ノ測 度及螺絲距離圓材方材ノ應力開立 應用問題汽力圖等ニ關スル算法 汽機汽缸局ノ製圖 口述</p>
--	---	--

<p>筆記</p> <p>一 熱及汽機汽缸ニ於ケル熱ノ效力及 書 二 汽機汽缸各部ニ要スル諸強力ノ說 明 三 汽機汽缸材料ノ說明 汽機各部ノ摩擦力ト推進力トノ關 係 四 蒸氣及其膨脹力使用ニ基キ各種汽 機比較ノ大要 五 滑輪ノ動作ノ汽力器及汽力圖ノ說 明 六 汽機汽缸ノ要部及炭盆水蒸等ノ割 合 七 前敵號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項 二等機關士試験 筆記</p> <p>一 重量炭酸力安全瓣補償馬力 開平應用問題等ニ關スル算法 口述</p> <p>一 汽機汽缸各部組成ノ理解 二 各種ノ汽機汽缸構造及利害ノ說明 三 各種ノ滑輪ノ動作機及推進器ノ說 明 第一號書式(表) 受職申請書</p> <p>(試験ノ種類)試驗相受程度ヲハ履歷書、受職資格ニ關スル證明書及戶籍簿本(抄本)相添此段申請候也</p> <p>明治三十八年三月 省令 選定第二十二號 船員試驗規程</p>	<p>筆記</p> <p>一 車輪ノ中心及滑輪位置ノ整調 五 馬力ノ說明 四 汽機汽缸三屬スル諸器製造ノ理解 前敵號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項 二等機關士試験 筆記</p> <p>一 普通作文又ハ文章ノ解題 二分數ノ比例及面積積算法 三 汽機汽缸組成ノ大要 汽機ノ要部ノ易難部分及之ニ對ス ル注意 四 汽機ニ應付他機損其他損損ヲ來スル 因及其預防方法 五 航行中及碇泊中汽機汽缸ニ要スル 注意 六 前敵號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項 三等機關士試験 筆記</p> <p>一 機關日誌ノ記載 口述</p>	<p>筆記</p> <p>一 汽機汽缸検査ノ方法 二 汽機汽缸各部ノ效用 三 汽機汽缸ニ關スル諸器ノ效用及用 法 四 汽機汽缸ノ取扱及運轉方法 五 汽機汽缸ノ損所ヲ修繕スル方法 六 運轉中汽機汽缸ニ不慮ノ危害ヲ生 シタルトキノ處理 七 前敵號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験 官吏ニ於テ必要ト認ムル事項 湖川港三等機關士試験 三等機關士試験ノ科目中筆記試験及口 述試験中第三號ヲ除ク 口述</p> <p>一 石油發動機ニ於ケル瓦斯ノ發生 點火ノ裝置及發動ノ理解 二 石油發動機三屬スル諸器ノ動作 燃機室及吸錫ノ構造、緩急及反轉 ノ裝置 三 石油ノ種別其貯藏及注入ノ裝置 炭酸部、瓦斯發生室、同燃機室其他 ノ動作部ニ對スル注意及一般ノ取 扱方</p>
--	--	--

(備考)

期間合計 年 月 日

- 一 氏名ニハ假名ニテ傍訓スヘシ
- 一 船舶種類ノ欄内ニハ汽船帆船ノ別又帆船ノ場合ニ於テハ横帆設置ナルヤ否ヲ記載スヘシ
- 一 履歴日數中半數ノミ効力ヲ有スルモノハ期間合計ヲ他ノ全數ノモノト區別スヘシ

(第二號書式)

合格證書

道府縣華士族平民(外國人ニ在テハ外國籍)

氏名

出生年月日

右者船舶職員試驗規程ニ依リ

(種類)ノ受ケ合格ス依テ此ノ證書ヲ

付與ス

明治 年 月 日

海事局長 氏 名印

備考 合格證書ノ寸法ハ縦七寸六分横一尺八分トス

○逓信省令第二十二號

明治三十年月十二 逓信省令第三十二號 電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ來四月一日ヨリ施行

明治三十八年三月二十五日

逓信大臣大浦兼武

〔録倉這子間〕ノ次ニ左ノ通加フ

直方飯塚間 金二十錢

若松直方間 金二十五錢

小倉直方間 金二十五錢

門司直方間 金二十五錢

下関直方間 金二十五錢

福岡直方間 金二十五錢

若松飯塚間 金二十五錢

小倉飯塚間 金二十五錢

門司飯塚間 金二十五錢

下関飯塚間 金二十五錢

福岡飯塚間 金二十五錢

金二十五錢 金二十五錢 金二十五錢 金二十五錢 金二十五錢

金二十五錢 金二十五錢 金二十五錢 金二十五錢 金二十五錢

○逓信省令第二十三號 明治三十七年五月 逓信省令第三十八號 出納實現金取扱規則中左ノ通改正シ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス

明治三十八年三月二十九日

逓信大臣大浦兼武

第一條第一號中「營業所」ヲ各出張所ニ改ム

(參照)

逓信省令第三十八號 出納實現金取扱規則(明治三十七年五月九日)抄録

第一條 鐵道作業局 逓信官署ノ出納員ハ左ノ範圍内ニ於テ現金ノ出納ヲ爲スヘシ

一 鐵道作業局出納員ハ計理部本部並各出張事務所及營業所ヨリ派出仕舞ヲ要スル前渡金及各驛ノ歳入金

○逓信省令第二十四號

明治三十年月十二 逓信省令第三十二號 電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ來四月一日ヨリ施行

明治三十八年三月二十九日

「福岡飯塚間」ノ次ニ左ノ追加ヲ

札幌厚田間	金三十五錢	厚田澁益間	金二十五錢
札幌澁益間	金三十五錢	厚田増毛間	金二十五錢
小樽厚田間	金三十五錢	澁益増毛間	金二十五錢
八王子熊谷間	ノ次ニ左ノ追加ヲ		
札幌増毛間	金三十錢	小樽澁益間	金三十錢
甲府川崎間	ノ次ニ左ノ追加ヲ		
小樽増毛間	金四十錢		金二十錢

○逓信省令第二十五號

明治三十年十月十二逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ來四月一日ヨリ施行ス

明治三十八年三月二十日

「澁益増毛間」ノ次ニ左ノ追加ヲ

佐賀武雄間	金三十五錢	長崎武雄間	金二十五錢
佐世保武雄間	金三十五錢	福岡武雄間	金二十五錢

○逓信省令第二十六號

明治三十三年九月逓信省令第七十二號郵便局所收入印紙賣下規則ヲ郵便局所收入印紙賣捌規則ニ改メ同規則中左ノ通改正ス

明治三十八年三月三十日

第一條中「郵便受取所」ヲ削ル

逓信大臣大浦兼武

第二條中「郵便局」ノ下「郵便受取所」ヲ削リ「賣下」ヲ「賣渡ス」ニ改メ第一號ノ冒頭ニ「郵便集配事務ヲ取扱フ」ヲ加ヘ第二號中「受取所」ヲ「集配事務ヲ取扱ハサル」ニ改メ

第三條中「郵便受取所」ヲ削ル

第七條第一項ヲ左ノ如ク改ム

此ノ規則中郵便集配事務ヲ取扱ハサル三等郵便局及郵便切手賣捌所ニ關スル規定ハ總テ在外郵便受取所及郵便切手賣捌所ニ準用ス

前各條改正ノ外賣下「賣捌」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス

【參照】

逓信省令第七十二號郵便局所收入印紙賣下規則(明治三十三年九月二十九日抄録)

第一條 明治三十二年三月勅令第五十號ニ依リ賣下クヘキ收入印紙ハ郵便電信局郵便受取所及收入印紙賣下ノ許可ヲ得タル郵便切手賣下所ニ於テ之ヲ賣下ク

第二條 三等郵便電信局郵便受取所及郵便切手賣下所ニ於テ買受クヘキ收入印紙ハ其ノ買受高ニ對シ左ノ割合ヲ以テ賣下クヘシ

一 三等郵便電信局郵便受取所ニ對シテハ收入印紙買受高ノ百分ノ六

二 郵便受取所及郵便切手賣下所ニ對シテハ收入印紙買受高ノ百分ノ四

第三條 三等郵便電信局郵便受取所及郵便切手賣下所ニ於テ買受ケタル收入印紙ノ汚損毀損シタルモノ又ハ效用ヲ失クヘキ處アルモノ及不用ニ歸シタルモノハ百分ノ九ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ爲スヘシ

第七條 郵便電信受取所ニ對シテハ總テ郵便受取所ニ關スル規定ヲ適用ス

○逓信省令第二十七號

明治三十三年九月逓信省令第七十五號郵便切手類賣下規則ヲ郵便切手類賣捌規則ニ改メ同規則中左

ノ通知正ス

明治三十八年三月二十日

逓信大臣大浦兼武

第六條第一項中郵便受取所及ヲ削ル

第八條 三等郵便局ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ郵便集配事務ヲ取扱フ局ニ在リテハ所轄一等郵便局又ハ特ニ指定シタル二等郵便局ヨリ郵便集配事務ヲ取扱ハサル局ニ在リテハ其ノ地ノ郵便集配事務受持郵便局ヨリ買受クヘシ

郵便切手買捌所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ其ノ地ノ郵便集配事務受持郵便局ヨリ買受クヘシ但シ船舶内ノ郵便切手買捌所ニ在リテハ其ノ船籍アル地ノ郵便集配事務受持郵便局ヨリ郵便切手類買受組合ヲ設ケタル郵便切手買捌所ニ在リテハ其ノ總代人ヨリ買受クヘシ

土地ノ狀況其ノ他特殊ノ事由ニ因リ前二項ノ規定ニ依ルヲ不便トスルトキハ所轄二等郵便局長ノ承認ヲ受ケ他ノ郵便局ヨリ買受ケヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ買受ケノ都度其ノ承認書ヲ呈示スヘシ

第九條中「電信局」ノ下「郵便受取所及」ヲ削リ「賣下クヘシ」ヲ「賣渡スヘシ」ニ改メ第一號ノ冒頭ニ「郵便集配事務ヲ取扱フ」ヲ加ヘ第二號中「受取所」ヲ「集配事務ヲ取扱ハサル二等郵便局」ニ改メ

第十一條中「郵便受取所及」並「郵便受取所取扱人」ヲ削ル

第十三條中「郵便局」ノ下ニ「船舶内ニ於テ郵便切手類ヲ買捌ク爲サントスル者ハ其ノ船籍アル地ノ郵便集配事務ヲ管轄スル二等郵便局」ヲ加フ

第十六條中「郵便受取所及」ヲ削ル

第十七條第一項中「郵便受取所取扱人及」及「但書」ヲ削ル

第二十條中「郵便受取所取扱人及」ヲ削ル

第二十三條第一項中「郵便受取所及」ヲ削ル

第二十二條 二等郵便局、郵便切手類買受組合總代人及郵便切手買捌人ニ於テ郵便切手類ノ買受ヲ爲サントスルトキハ郵便切手類買受請求書^{第三號}ヲ作リ代金ト共ニ第八條所定ノ郵便局ニ差出シ其ノ賣渡ヲ求ムヘシ

郵便切手類買受組合員ニ於テ其ノ總代人ヨリ郵便切手類ノ買受ヲ爲サントスルトキ亦前項ニ同シ但シ其ノ買受請求書ハ所定ノ様式ニ據ラサルコトヲ得

第二十三條中「郵便受取所取扱人及」ヲ削ル

第二十四條中「郵便受取所取扱人及」ヲ削ル

第二十三條第一項中「郵便受取所取扱人及」及「郵便受取所及」ヲ削ル

第二十四條中「郵便受取所取扱人及」ハ「郵便受取所及」ヲ削ル

第二十五條第一項中「郵便受取所及」ヲ削ル

第二十九條中「受取所」ヲ「集配事務ヲ取扱ハサル二等郵便局」ニ改ム

第四十條 此ノ規則中郵便集配事務ヲ取扱ハサル二等郵便局及郵便切手買捌所ニ關スル規定ハ總テ在外郵便受取所及郵便切手買捌所ニ準用ス

特ニ指定シタル二等郵便局ニハ二等郵便局ニ於ケル郵便切手類ノ交換買戻及買受ニ關スル規定ヲ適用セス

第三號様式ヲ別記ノ如ク改ム

前各條改正ノ外賣下「賣下クル」ヲ「賣捌ク」ニ改ム

附 則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス

從來ノ郵便切手賣下所賣下人ニシテ現ニ郵便切手類買受組合ノ總代人タル者ハ本令施行ノ爲資格

ヲ失フコトナク又其ノ任期ヲ中斷セラルルコトナシ但シ所轄一、二等郵便局長ニ於テ現在ノ組合
 區域ヲ變更スルトキハ此ノ限ニアラス
 從來ノ郵便受取所取扱人ニシテ現ニ郵便切手類買受組合ノ總代人タル者ハ其ノ組合ニ於テ新ニ選
 舉シタル總代人就職ニ至ルマテハ其ノ職務ヲ繼續スヘシ
 (別記)

(第三號樣式)

明治 年 月 日

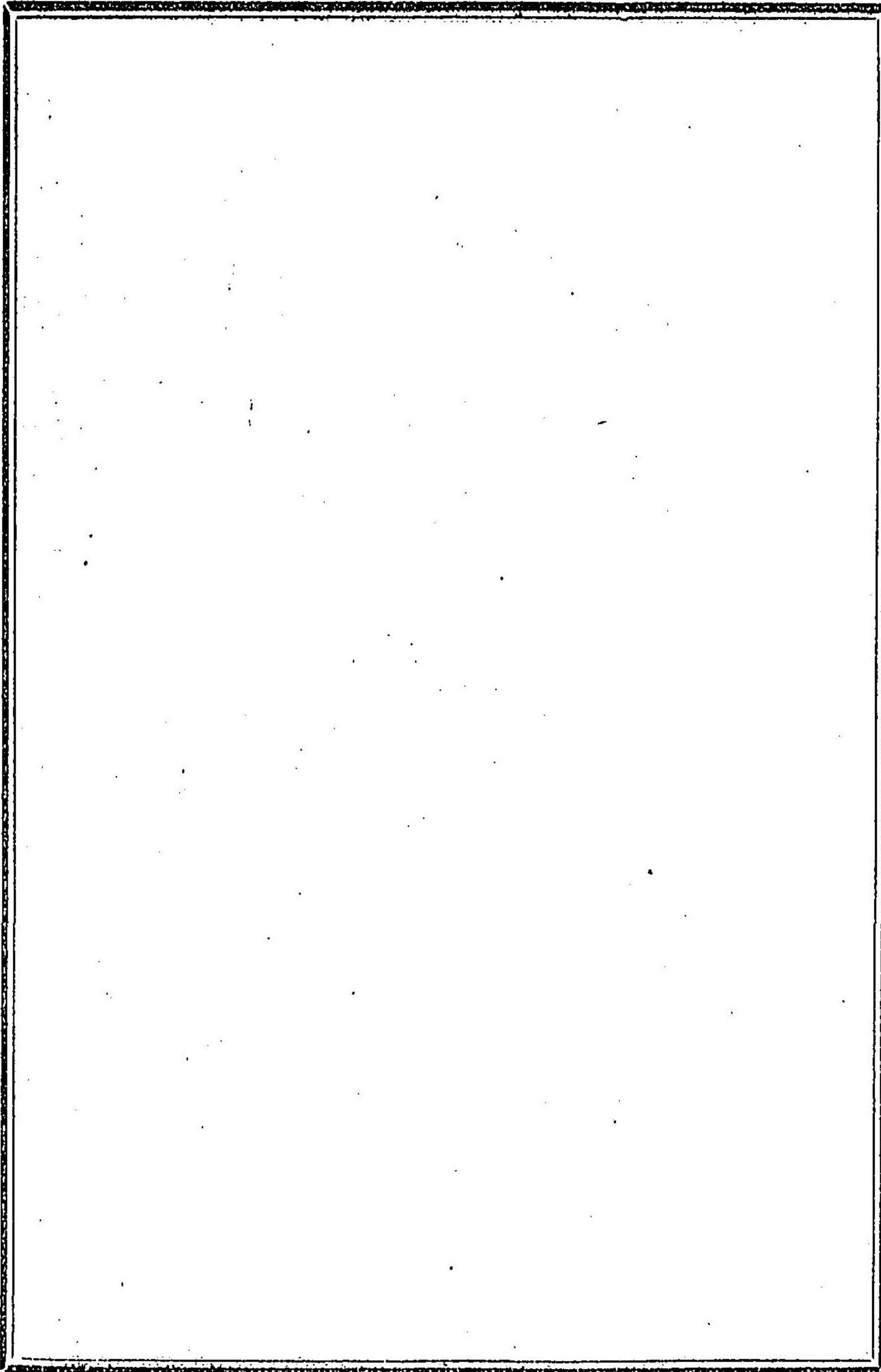
何郵便局 御中

何郵便局長 又ハ何々々 氏 名 〇

郵便切手類買受請求書									
種 類	數 量	額 面 金 額	買受代金		種 類	數 量	額 面 金 額	買受代金	
切 手			〇	〇	往 八			〇	〇
五 厘			〇	〇	何 々			〇	〇
壹 錢			〇	〇	封 皮			〇	〇
壹 錢 五 厘			〇	〇	角 錢 五 厘			〇	〇
貳 錢			〇	〇	長 錢 五 厘			〇	〇
參 錢			〇	〇	大 錢 五 厘			〇	〇
四 錢			〇	〇	小 錢 五 厘			〇	〇
五 錢			〇	〇	封 紙			〇	〇
拾 五 錢			〇	〇	大 形 三 枚 一 組			〇	〇
拾 錢			〇	〇	壹 錢 一 組			〇	〇
貳 拾 錢			〇	〇	小 形 五 枚 一 組			〇	〇
貳 拾 五 錢			〇	〇	壹 錢 一 組			〇	〇
五 拾 錢			〇	〇	貯 金 票 紙			〇	〇
壹 圓			〇	〇	五 厘			〇	〇
葉 苳			〇	〇	壹 錢			〇	〇
壹 錢 五 厘			〇	〇	貳 錢			〇	〇
通 常			〇	〇	合 計			〇	〇
通 四 常			〇	〇				〇	〇
封 紙			〇	〇				〇	〇
往 八			〇	〇				〇	〇
復 錢			〇	〇				〇	〇

備考 買受代金カ割引計算上單位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ各小計欄ニ於テ之ヲ四捨五入スヘシ

種 類	數 量	額 面 金 額	買受代金		種 類	數 量	額 面 金 額	買受代金	
八 錢			〇	〇	封 紙			〇	〇
拾 錢			〇	〇	大 形 三 枚 一 組			〇	〇
拾 五 錢			〇	〇	壹 錢 一 組			〇	〇
貳 拾 錢			〇	〇	小 形 五 枚 一 組			〇	〇
貳 拾 五 錢			〇	〇	壹 錢 一 組			〇	〇
五 拾 錢			〇	〇	貯 金 票 紙			〇	〇
壹 圓			〇	〇	五 厘			〇	〇
葉 苳			〇	〇	壹 錢			〇	〇
壹 錢 五 厘			〇	〇	貳 錢			〇	〇
通 常			〇	〇	合 計			〇	〇
通 四 常			〇	〇				〇	〇
封 紙			〇	〇				〇	〇
往 八			〇	〇				〇	〇
復 錢			〇	〇				〇	〇



○外務省令第四號

明治三十三年外務省令第五號在外帝國領事館管轄區域中左ノ通改正ス

明治三十八年四月四日

外務大臣男爵小村壽太郎

在清國漢口帝國領事館管轄區域中江西省中「袁州府」及湖南省中岳州府長沙府寶慶府衡州府桂陽州郴州永州府ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ在清國沙市帝國領事館管轄區域中「湖南省中澧州常德府永順府辰州府永綏廳乾州廳鳳凰廳沅州府晃州廳靖州」ヲ削ル
在清國長沙帝國領事館管轄區域

湖南省

江西省中袁州府

○内務省令第十一號

河川法第六條但書ニ依リ内務大臣ノ管理ニ屬セル愛知縣海西郡立和村地内木曾川附屬物船頭平開門通航規程左ノ通之ヲ定ム

明治三十八年四月十三日

内務大臣子爵芳川顯正

船頭平開門通航規程

- 第一條 開門ノ通航ハ日出ヨリ日没迄トス
- 第二條 通航セントスル舟筏ノ少數ナル場合ニ於テハ一時間以內開門セサルコトアルヘシ
- 第三條 暴風雨出水其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ第一條ノ時間ニ拘ハラヌ通航セシメ若ハ通航ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第四條 舟筏ヲ通航セシメントスル者ハ總テ開門監守人ノ指揮ニ遵フヘシ

第五條 通航ノ際ハ劍齋其ノ他關門ニ損傷ヲ加フルノ虞アル器具ヲ使用スヘカラス

○內務省令第十二號

明治三十二年五月內務省令第十八號第二條但書中「選舉區ノ増減アリタル場合」ヲ「議員ノ定數ニ異動ヲ生シ若ハ選舉區ノ増減アリタル場合」ニ改ム

明治三十八年四月十四日

內務大臣子爵芳川顯正

〔參照〕

內務省令第十八號郡會議員ノ配當ニ關スル件(明治三十二年五月二十日)抄録

第二條 議員配當ノ更正ヲ要スルトキハ改選ノ際ヲ俟テ之ヲ行フ但シ選舉區ノ増減アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

○大藏省令第二十一號

明治三十七年五月大藏省令第十八號葉煙草收納所出張所名稱位置中須賀川出張所ヲ廢止ス

明治三十八年四月一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第二十二號

鹽專賣法施行細則左ノ通相定ム

明治三十八年四月一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

鹽專賣法施行細則

第一條 鹽ヲ製造セムトスル者ハ製鹽ノ方法、採鹹地名、地番、製鹽段別、製鹽場鹹水又ハ鹹砂貯藏

場、製鹽貯藏場及一箇年ノ生産見込數量ヲ定メ所轄鹽務局ニ製造ノ許可ヲ出願スヘシ

鹽ノ試製ヲ爲サムトスル者及政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ再製セムトスル者ハ其ノ旨ヲ記シ第一項

ニ準シ所轄鹽務局ニ製造ノ許可ヲ出願スヘシ

新ニ鹽田ヲ作り鹽ヲ製造セムトスル者ハ鹽田ヲ作ラムトスル際第一項ノ出願ヲ爲スヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ鹽務局ハ鹽ノ製造ヲ許可セサルコトヲ得

一 採鹹セムトスル場所カ製鹽ニ適當ナラスト認ムルトキ

二 鹽專賣法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者カ出願シタルトキ

三 取締上不便ト認ムル場所ニ於テ製鹽セムトスルトキ

四 鹽ノ生産高ヲ制限スル必要アルトキ

第三條 所轄鹽務局ニ於テ必要ト認メ製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ノ圖面又ハ製造用

器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ鹽製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

前項ノ圖面又ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄鹽務局ニ申告ス

ヘシ

第四條 鹽製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ所轄鹽務局ニ出願シ許可

ヲ受クヘシ

一 製鹽ノ方法ヲ變更セムトスルトキ

二 採鹹地ヲ變更シ又ハ製鹽段別ヲ増減セムトスルトキ

三 製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ヲ新設又ハ移轉セムトスルトキ

四 一箇年ノ生産見込數量ヲ變更セムトスルトキ

第五條 相續ニ因リ鹽ノ製造ヲ承繼シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄鹽務局ニ申告スヘシ

相續ニ因ルノ外鹽ノ製造ヲ承繼セムトスルトキハ製造者及承繼者連署シ所轄鹽務局ニ出願シ許

可ヲ受クヘシ但シ鹽務局ニ於テ正當ノ事由アリト認メタルトキハ製造者ノ連署ヲ要セス

第六條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クとも一箇月前ニ所轄鹽務局ニ申告スヘシ
前項ノ期間ヲ經過セスシテ鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ所轄鹽務局ニ廢止ノ許可ヲ出願ス
ヘシ

第七條 鹽製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

- 一 製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ヲ改築又ハ増築シタルトキ
- 二 災害ニ因リ採鹹地、製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ニ異動ヲ生シタルトキ
- 三 住所又ハ氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキ

第八條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止シ又ハ休止シタルトキ現存スル鹹水又ハ鹹砂ハ鹽務官吏ノ承認
ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第九條 鹽製造者製鹽場所在市町村ニ現任セサルトキハ鹽專賣法ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲
管理人ヲ定メ鹽製造者及管理人連署シ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

第十條 鹽製造者ハ製鹽場ニ一箇年ノ製鹽見込數量製造者又ハ管理人ノ住所、氏名許可ノ年月日
ヲ記載シタル標札ヲ掲クヘシ

第十一條 鹽專賣法第六條第一項ニ依リ鹽ノ製造期間又ハ生産高ヲ制限スル必要アルトキハ鹽務
局長ハ鹽ノ製造期間又ハ生産高ヲ定メ之ヲ鹽製造者ニ通知スヘシ

第十二條 鹽製造者鹽ヲ製造シタルトキハ少クとも二日ヲ經過シタル後之ヲ所轄鹽務局ニ納付ス
ヘシ

第十三條 鹽務局長ハ特ニ鹽製造者ヲ指定シ一定ノ期間毎ニ其ノ製造シタル鹽ノ數量ヲ鹽務局ニ
申告セシムルコトヲ得

鹽務局長ハ前項ノ鹽製造者ニ對シ鹽ノ數量ヲ定メ之ヲ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘキコトヲ命
スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鹽製造者ハ鹽務局長ノ定メタル期日及場所ニ於テ之ヲ其ノ指定
シタル者ニ引渡スヘシ

第十四條 鹽製造者前條ニ依リ鹽務局長ノ定メタル期日又ハ場所ニ於テ鹽ノ引渡ヲ爲スコト能ハ
サルトキハ其ノ事由ヲ具シ所轄鹽務局ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

第十五條 鹽製造者又ハ其ノ代理人ヲ以テ鹽ノ納付ヲ爲スコトヲ得
運送業者カ鹽製造者又ハ其ノ代理人ヨリ納付ノ爲鹽ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ運送中ハ其
ノ代理人ト爲リタルモノト看做ス

第十六條 鹽製造者ノ納付スヘキ鹽ニハ一定ノ包裝ヲ施スヘシ但シ鹽務局長ハ包裝ヲ施ササル鹽
ノ納付ヲ許可スルコトヲ得

第十七條 鹽ノ品質ハ其ノ含有スル鹽化曹達ノ量ニ依リテ之ヲ定メ左ノ五等ニ區分ス

- 一等 含有鹽化曹達量百分ノ九十以上
 - 二等 含有鹽化曹達量百分ノ八十五以上
 - 三等 含有鹽化曹達量百分ノ八十以上
 - 四等 含有鹽化曹達量百分ノ七十五以上
 - 五等 含有鹽化曹達量百分ノ七十以上
- 前項鹽化曹達ノ量ハ可檢物ノ量ヨリ其ノ含有スル水及夾雜物ノ量ニ左ノ係數ヲ乘シタルモノヲ
控除シテ之ヲ定ム

一 水
一、一 夾雜物

第十八條 鹽製造者ノ納付セムトスル鹽ニシテ前條五等ノ品質ニ達セサルトキハ鹽務局長ハ製造者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ但シ第十三條第二項ノ場合ニ於テ鹽務局長ノ指定シタル者カ引取ヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 鹽製造者鹽ヲ納付シタルトキハ鹽務局長ハ其ノ品質ヲ鑑定シ相當ノ賠償金ヲ交付ス

第二十條 鹽製造者前條ノ鑑定ニ不服アルトキハ其ノ要領ヲ具シ即時再鑑定ヲ求ムルコトヲ得再鑑定ノ申立アリタルトキハ鹽務局長ハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ分析鑑定ヲ爲サシム之ヲ決定スヘシ

再鑑定決定シタルトキハ其ノ決定書ヲ作り再鑑定申立人ニ交付スヘシ
再鑑定ノ結果ニ依ル品質ノ等級カ最初鑑定シタル等級ヨリ上進セサルトキハ再鑑定ニ關スル費用ハ申立人ノ負擔トス

第二十一條 鹽製造者災害ニ因リ納付前ノ鹽ニ損害ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

第二十二條 鹽製造者ノ自家用ニ供スル鹽ニシテ政府ニ納付スルコトヲ要セサルモノハ一箇年一人ニ付キ二十斤以内トス但シ一家ヲ通シテ一箇年三百斤ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十三條 鹽製造者其ノ製造シタル鹽ノ一部ヲ自家用ニ供セムトスルトキハ豫メ申告シテ鹽務官吏ノ検査ヲ受ケ政府ニ納付スヘキ鹽ト區別シテ貯藏スヘシ

第二十四條 鹽製造者政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ鹹水ニ混和シテ鹽ヲ製造シタルトキハ其ノ製造シ

タル鹽ノ全部ヲ政府ニ納付スヘシ但シ鹽務官吏ノ検査ヲ受ケ混和鹽及製造鹽ノ數量ニ付其ノ承認ヲ得タルトキハ混和鹽ノ數量ニ相當スル製造鹽ハ政府ニ納付スルコトヲ要セス

第二十五條 鹹水ノミヲ以テ鹽ヲ製造スル者政府ヨリ賣渡シタル鹽ノ再製ヲ兼營スルトキハ政府ヨリ賣渡シタル鹽ノ之ヲ以テ製造シタル鹽及鹹水ノミヲ以テ製造シタル鹽ヲ各別ニ區分シテ貯藏スヘシ

第二十六條 政府ヨリ賣渡シタル鹽ノ再製ヲ爲ス者ハ一箇月毎ニ其ノ再製シタル鹽ノ數量ヲ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

第二十七條 鹽ノ賣渡ハ第十三條第二項ノ場合ヲ除クノ外一回五千斤以上トス但シ外國鹽ニ付テハ二萬斤以上トス

鹽務局長ハ其ノ都合ニ依リ前項ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第二十八條 鹽ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ鹽ノ數量及等級ヲ記シタル賣渡請求書ヲ鹽務局ニ提出スヘシ

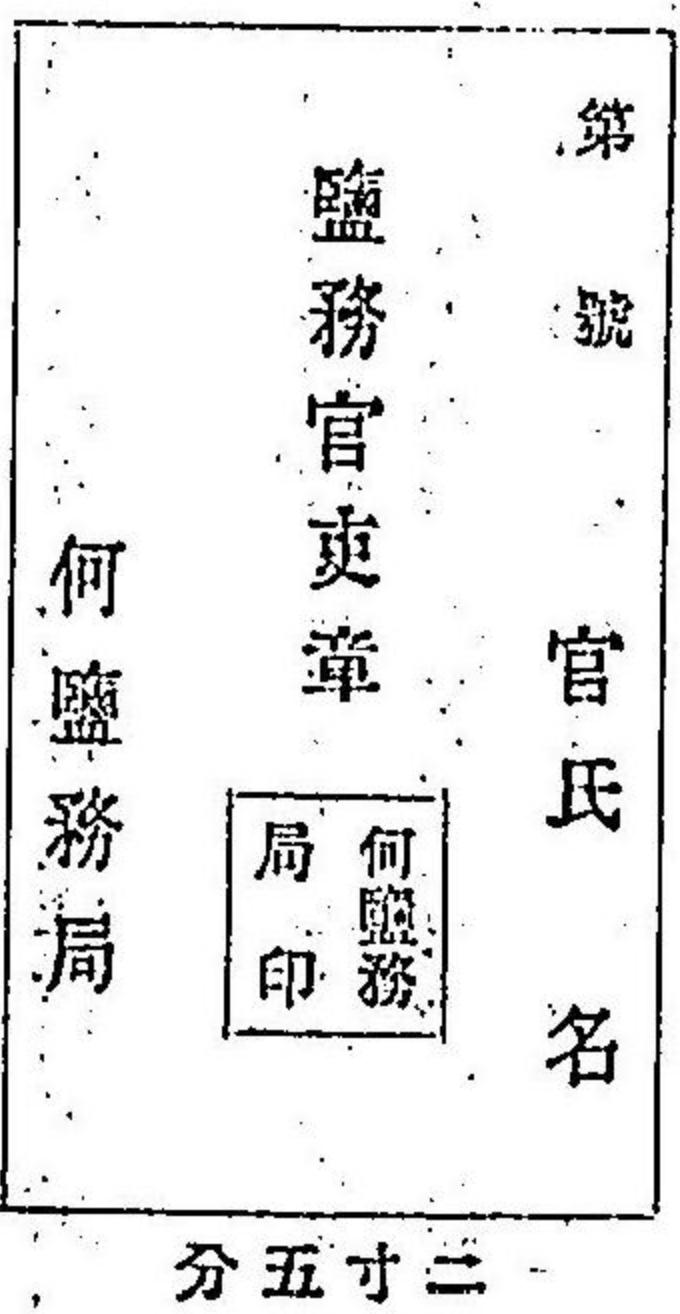
第二十九條 前條ノ請求アリタルトキハ鹽務局長ハ鹽ノ賣渡請求者ニ代金納入告知書ヲ交付スヘシ

鹽務局所在地外ニ於テ鹽ノ賣渡ヲ爲ストキハ鹽務官吏ハ口頭ヲ以テ前項ノ告知ヲ爲スコトヲ得
第三十條 鹽ノ賣渡請求者ハ前條ノ告知ニ依リ直ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ若シ賣渡契約ノ日ヨリ五日以内ニ現品ヲ引取ラサルトキハ相當保管料ヲ徴ス但シ鹽務局長ニ於テ契約ヲ解除シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

鹽務局倉庫所在地外ニ於テ鹽ヲ賣渡シタルトキハ買受人ハ二日以内ニ現品ヲ引取ルコトヲ要ス
第三十一條 鹽ノ賣渡請求者ハ鹽代金ニ相當スル擔保物ヲ提供シ三箇月以内其ノ延納ヲ請求スル

コトヲ得
 當時鹽ノ賣渡ヲ請求スル者ハ豫メ擔保ヲ提供シ其ノ擔保物ノ價額ニ達スルマテ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得
 第三十二條 臺灣鹽ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ鹽ノ數量、等級ヲ記シタル賣渡請求書ヲ神戸鹽務局ニ提出スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ前三條ノ規定ヲ準用ス
 第三十三條 外國鹽ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ鹽ノ產地、數量及種類ヲ記シタル賣渡請求書ヲ濱濱又ハ神戸鹽務局ニ提出スヘシ
 第三十四條 前條ノ請求アリタルトキハ鹽務局ハ鹽ノ價額ヲ豫定シ之ヲ賣渡請求者ニ通知シ相當ノ擔保ヲ提供セシメタル後請求ニ係ル外國鹽輸入ノ手續ヲ爲スヘシ
 第三十五條 外國鹽到着シタルトキハ鹽務局ハ引渡スヘキ日時及場所ヲ定メテ之ヲ賣渡請求者ニ通知スルト同時ニ代金納入告知書ヲ交付シ代金ヲ納付シテ鹽ノ引取ヲ爲サシムヘシ若シ指定シタル日ヨリ五日以内ニ現品ヲ引取ラサルトキハ相當保管料ヲ徴ス但シ鹽務局長ニ於テ契約ヲ解除シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第三十一條ノ規定ハ之ヲ前項ノ場合ニ準用ス
 第三十六條 本令ニ依リ提供スヘキ擔保物ハ金錢又ハ鹽務局長ノ確實ト認メタル有價證券ニ限リ擔保ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ鹽務局ニ提出スヘシ
 第三十七條 鹽製造者ハ少クとも毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
 一 採取シタル鹹水ノ容量及比重
 二 煎蒸シタル鹹水ノ容量及比重

三 焚上ケタル釜數及鹽ノ數量
 四 政府ニ納付シタル鹽ノ數量、等級、納付月日
 五 自家用トシテ検査ヲ受ケタル鹽ノ數量
 政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ再製スル者ハ少クとも毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
 一 買入レタル鹽ノ數量、價額、買入月日、買入先
 二 使用シタル原料鹽ノ數量
 三 製造シタル鹽ノ數量
 四 賣渡シタル鹽ノ數量、價額、賣渡月日及賣渡先
 第三十八條 鹽買業者ハ少クとも毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
 一 買入レタル鹽ノ數量、價額、買入月日及買入先
 二 賣渡シタル鹽ノ數量、價額、賣渡月日及賣渡先小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス
 第三十九條 鹽專賣法第二十三條、第二十四條ニ依リ検査又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲ス官吏ハ左ノ證書ヲ攜帶スヘシ



第四十條 本令中鹽務局ニ屬スル事務ハ鹽務局出張所アル地方ニ於テハ鹽務局出張所之ヲ行フ

附則

第四十一條 本令ハ鹽專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十二條 鹽專賣法施行ノ際製造者ノ所有又ハ所持スル鹽ハ明治三十八年六月二十日迄ニ之ヲ

鹽務局ニ納付シ又ハ鹽務局長ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

○大藏省令第二十三號

明治三十五年^五大藏省令第十號中「樟腦事務局長」ノ次ニ「鹽務局長」ヲ加フ

明治三十八年四月十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

〔參照〕

明治三十五年^五大藏省令第十號ハ不動産登記ノ囑託ニ付キ官吏指定ノ件ナリ

○大藏省令第二十四號

明治三十八年法律第十一號鹽專賣法第三十八條ノ施行ニ付テハ明治三十三年勅令第五十二號間接

國稅犯則者處分法施行規則ノ規定ヲ準用ス

明治三十八年四月十四日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第二十五號

明治三十八年大藏省令第十號煙草販賣所名稱位置中熊本煙草販賣所位置「熊本縣飽託郡黒髮村」ヲ

熊本縣熊本市ニ改ム

明治三十八年四月十五日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第二十六號

第五回國庫債券發行規程左ノ通之ヲ定ム

明治三十八年四月二十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

第五回國庫債券發行規程

第一條 政府ハ明治三十八年法律第十二號ニ依リ國庫債券壹億圓ヲ發行ス

第二條 國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ六トス

第三條 國庫債券ハ無記名札附トシ其ノ種類ハ貳拾五圓、五拾圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及壹

萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名ト爲スコトヲ得

第四條 國庫債券ノ元金ハ明治三十八年十一月ヨリ滿七箇年以内ニ償還スルモノトス

第五條 國庫債券ノ利子ハ毎年三月及九月ニ於テ仕拂フモノトス

第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其ノ最低ヲ九拾圓トス

第七條 應募申込期間ハ明治三十八年五月一日ヨリ同月五日マテトス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便

宜ニ依リ五月一日前ト雖モ其ノ申込ヲ受クルコトヲ得

第八條 應募申込人ハ應募高應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金四圓ノ

保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其ノ他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利子

ヲ附セス

前項ノ應募價格ニハ拾錢位ニ滿タサル端數ヲ付スルコトヲ得ス

第九條 國庫債券應募高、需要額ニ超過スルトキハ其ノ價格ノ高キモノヨリ順次之ヲ採リ需要額

ニ滿ツルニ至リテ止ム其ノ價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少シ割當高貳拾五圓ニ滿タサ

ルモノハ之ヲ除キ更ニ之ヲ貳拾五圓以上ノ分ニ配當ス

第十條 申込ハ明治三十八年五月十五日マテニ確定スルモノトス

確定ノ上ハ其ノ旨ヲ申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期 明治三十八年五月十五日 金 四圓(額面百圓ニ付)

第二期 同年六月十六日ヨリ同年三十日マテ 金 拾圓(同上)

第三期 同年七月十七日ヨリ同年二十六日マテ 金 拾六圓(同上)

第四期 同年八月十六日ヨリ同年二十五日マテ 金 拾圓(同上)

第五期 同年九月十六日ヨリ同年二十五日マテ 金 參拾圓(同上)

第六期 同年十月十六日ヨリ同年二十五日マテ 金 貳拾圓(同上)

發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其ノ差額ヲ拂込ムヘシ

第十二條 應募者ノ都合ニ依リ後ノ一期若ハ數期分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 明治三十九年三月渡以前ノ利子ハ第二期ノ利率ニ拘ハラズ左ノ區別ニ依リ仕拂フモノトス

一 第三期以前ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年九月ニ於テ額面百圓ニ付金壹圓拾八錢 明治三十九年三月ニ於テ額面百圓ニ付金參圓貳拾五錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕

拂フ

二 第四期以後ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十九年三月ニ於テ額面百圓ニ付金參圓拾錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ

第十四條 國庫債券ノ拂込ヲ延滞シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ

拂込期日後三箇月ヲ過キ尙ホ拂込ヲ爲サルトキハ應募ノ申込ヲ無効トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ沒收ス

第十五條 國庫債券ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十六條 前條ノ假債券ハ賣買譲與シ及質ト爲スコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス但シ應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假債券ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ旨ヲ證明スルトキハ同令第三條ニ依リ其ノ拂込ヲ假債券ニ記入スル代リニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ交付スルコトヲ得

第十七條 第十四條第二項ノ場合ニ於テ無効ト爲リタル假債券ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第十八條 假債券ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假債券ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假債券ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假債券ノ交付ヲ了リタルトキハ原假債券ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第十九條 國庫債券ノ紛失又ハ滅失ニ因リ代債券ノ交付アリタル後原債券ヲ發見シタル者ハ速ニ

之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ國庫債券ノ利札ニ付テモ之ニ準ス

第二十條 國庫債券ニ關スル取扱順序ハ本令ニ規定シタルモノ、外明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ準據ス

○大藏省令第二十七號

鹽專賣法施行細則第二十條第二項ニ依リ選定シタル鑑定人ノ手當旅費支給方及同條第四項ニ依リ再鑑定申立人ノ負擔スヘキ費用左ノ通相定ム

明治三十八年四月二十一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

第一條 鹽專賣法施行細則第二十條第二項ニ依リ鑑定ニ從事シタル者ニハ鑑定事務從事日數ニ應シ一日金貳圓ノ手當ヲ支給ス但シ官吏ヨリ選定シタル鑑定人ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 鑑定人公務ニ依リ旅行シタルトキハ左ノ通旅費ヲ支給ス但シ前條ノ手當ヲ支給スヘキ場合ニハ汽車賃船賃車馬賃ノミヲ支給ス

合ニハ汽車賃船賃車馬賃ノミヲ支給ス

汽車賃	一哩ニ付	船賃	一海里ニ付	車馬賃	一里ニ付	宿泊料	一夜ニ付	日當	一日ニ付
四	錢	四	錢	十五	錢	一	圓	五十	錢

第三條 旅費支給ノ方法ハ内國旅費規則ニ準據ス但シ同規則第九條ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 鹽專賣法施行細則第二十條第四項ニ依リ再鑑定申立人ノ負擔スヘキ費用ハ鑑定人ノ手當旅費及再鑑定ニ要シタル實費トス

○大藏省令第二十八號

所得稅法第十一條但書ニ依リ特ニ所得調査委員會ヲ置クヘキ市及北海道ノ區左ノ通指定ス

明治三十八年四月二十八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

札幌稅務監督局	函館區	名古屋稅務監督局	名古屋市
函館稅務署所轄內	小樽區	名古屋稅務署所轄內	岐阜市
小樽稅務署所轄內	札幌區	岐阜稅務監督局	岐阜市
札幌稅務署所轄內	札幌區	仙臺稅務署所轄內	仙臺市
京都稅務監督局	京都府上京區	秋田稅務監督局	秋田市
上京稅務署所轄內	京都市下京區	秋田稅務署所轄內	秋田市
下京稅務署所轄內	京都市下京區	金澤稅務監督局	福井市
橫濱稅務監督局	靜岡市	福井稅務署所轄內	富山市
靜岡稅務署所轄內	岡山市	富山稅務署所轄內	富山市
岡山稅務署所轄內	長崎市	廣島稅務監督局	下關市
長崎稅務監督局	長崎市	下關稅務署所轄內	下關市
長崎稅務署所轄內	長崎市	丸龜稅務監督局	德島市
長野稅務監督局	長野市	德島稅務署所轄內	松山市
長野稅務署所轄內	長野市	松山稅務署所轄內	松山市
宇都宮稅務監督局	水戶市	熊本稅務監督局	熊本市
宇都宮稅務署所轄內	水戶市	熊本稅務署所轄內	熊本市
水戶稅務署所轄內	前橋市	福岡稅務署所轄內	福岡市
前橋稅務署所轄內	前橋市	福岡稅務署所轄內	門司市
小倉稅務署所轄內		小倉稅務署所轄內	門司市

○大藏省令第二十九號

明治三十二年大藏省令第十三號中左ノ通改正ス

明治三十八年四月二十八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

札幌稅務監督局	函館區	小樽稅務署所轄內	小樽區
函館稅務署所轄內	小樽區	札幌稅務署所轄內	札幌區
小樽稅務署所轄內	札幌區	京都府上京區	京都市上京區
札幌稅務署所轄內	京都市上京區	京都市下京區	京都市下京區
京都府上京區	京都市下京區	靜岡市	岡山市
京都市下京區	靜岡市	岡山市	長崎市
靜岡市	岡山市	長崎市	長崎市
岡山市	長崎市	長崎市	長野市
長崎市	長野市	長野市	宇都宮市
長野市	宇都宮市	宇都宮市	水戶市
宇都宮市	水戶市	水戶市	前橋市
水戶市	前橋市	前橋市	小倉市
前橋市	小倉市	小倉市	

東京稅務監督局	甲府稅務監督局	京都稅務監督局	上京稅務監督局	下京稅務監督局	橫濱稅務監督局	神戶稅務監督局	岡山稅務監督局	長崎稅務監督局	長崎稅務監督局	長野稅務監督局	松本稅務監督局	長野稅務監督局	宇都宮稅務監督局	水戸稅務監督局	前橋稅務監督局	名古屋稅務監督局	名古屋稅務監督局
郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市
部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部
七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八
岐阜稅務監督局	仙臺稅務監督局	仙臺稅務監督局	秋田稅務監督局	秋田稅務監督局	金澤稅務監督局	福井稅務監督局	富山稅務監督局	廣島稅務監督局	下關稅務監督局	丸龜稅務監督局	德島稅務監督局	松山稅務監督局	熊本稅務監督局	熊本稅務監督局	福岡稅務監督局	小倉稅務監督局	小倉稅務監督局
郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市	郡市
部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部	部部
五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八
小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部	小倉市及郡部
五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八

〔參照〕
 明治三十二年四月二日 大藏省令第十三號ハ所得稅法施行規則第五條ニ依リ調査委員ノ定數ナリ
 明治三十八年四月十一日

○陸軍省令第七號
 陸軍旅費規則中左ノ通改正ス

明治三十八年四月十一日

第六條第二項中「召集旅費及歸郷旅費」ヲ「前金渡ヲ爲シタル旅費」ニ改ム
 陸軍大臣寺內正毅

第三十三條 陸軍以外ノ在官者又ハ公吏等ヲ召集其ノ他ノ事務ニ關シ旅行セシムル場合ノ旅費ハ左ノ區分ニ依リ一般内國旅費規則ノ規定ニ依ル但シ當該官廳ニ於テ特ニ旅費額ヲ定メタルモノアルトキハ其ノ額ニ依ル
 一在官者ハ内國旅費規則別表ノ額
 一公吏巡查等ハ明治三十年内務省令第二十七號甲號表ノ額

〔參照〕

陸軍省令第十六號陸軍旅費規則(明治三十二年六月七日)抄錄
 第六條第二項
 召集旅費及歸郷旅費ハ支出シタル日ヲ以テ區分ス
 第三十三條 陸軍召集諸費支出規程ニ依リ旅行スル警察官吏及市町村吏員等ノ旅費ハ左ノ區別ニ依リ一般内國旅費規則ノ規定ニ依ル
 一警視廳部ハ其ノ官級ノ額
 一市町村吏員及巡查等ハ明治三十年内務省令第二十七號甲號表ノ額

○陸軍省令第八號

明治三十八年勅令第五百五十三號ニ依リ國民兵役ニ在ル者ノ服役及召集ニ關シ左ノ通定ム
 明治三十八年四月二十一日

第一條 國民兵役ニ在ル者ニシテ十四日以上旅行又ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ル者ヲ定メ聯隊區司令官 本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出テ歸

郷シタルトキハ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時間以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第二條 國民兵役ニ在ル者他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ、聯隊區内ニ於テ轉籍シタルトキハ聯隊區司令官及新住地ノ市町村長ニ届出ヘシ
國民兵役ニ在ル者氏名ヲ變更シタルトキハ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
本條ノ届出ハ事故發生ノ當日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 國民兵役ニ在ル者死亡シタルトキ、所在不明ト爲リタルトキ又ハ所在不明中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族ノ歸郷シタルトキ又ハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但シ他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出テ聯隊區内ニ於テ轉籍シタルトキハ聯隊區司令官及新住地ノ市町村長ニ届出ヘシ

國民兵役ニ在ル者重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中當スル者ヨリ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
家族ナキ者ニシテ前二項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ但シ市町村長ニ在リテハ島司郡長ヲ經由スヘシ

第四條 前三條ニ依リ聯隊區司令官ニ差出ス居書ハ當該聯隊區ニ於ケル當該市町村長、島司、郡長ヲ經由スヘシ但シ本籍所在聯隊區内ニ於テ轉籍シタルトキノ居書ハ舊住地ノ市町村長、島司、郡長ヲ經由スヘシ

戶主又ハ家事擔當者ヨリ差出ス居書モ亦前項ニ準スヘシ

第五條 第一條乃至第三條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上二圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六條 聯隊區司令官及市町村長ハ第一國民兵名簿及第二國民兵名簿ヲ調製シ常ニ其ノ異動ヲ訂正スヘシ

第七條 國民兵役ニ在ル者ノ召集ニハ陸軍召集條例第四章ノ規定ニ依ルコトヲ示シタル場合ノ外召集令狀ヲ用非左ノ區別ニ依リ同條例及同施行細則中充員召集又ハ補充召集ニ關スル規定ヲ準用ス

一 國民兵召集ニ在リテハ充員召集
二 臨時召集及補充召集ニ在リテハ補充召集

第八條 本令中聯隊區司令官トアルハ警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官、市町村長トアルハ東京市、京都市及大阪市並北海道沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長、市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者ニ該當ス

附則

第一條乃至第六條ノ規定ハ明治三十八年五月十五日ヨリ左ニ掲グル者ニ之ヲ適用シ其ノ他ノ國民兵ニ之ヲ適用スルノ時期ハ追テ之ヲ定ム

- 一 第一國民兵役ニ在ル者
- 二 明治二十九年以後ニ於テ第二補充兵役ヲ終リ國民兵役ニ編入セラレタル者
- 三 明治二十九年以後ニ於テ六週間陸軍現役ヲ終リ國民兵役ニ編入セラレタル者
- 四 明治二十九年以後ニ於テ所要ノ兵員ニ超過スル爲國民兵役ニ編入セラレタル者

○陸軍省令第九號

第三國民兵役ニ在ル者ニシテ明治三十八年五月一日以後服役期限満ツル者ハ當分其ノ服役ヲ延期ス
明治三十八年四月二十一日 陸軍大臣寺內正毅

○海軍省令第五號

海軍ニ於ケル沈没船舶買受ノ競争ニ加ハラントスル者ハ左ノ資格ヲ備フルヲ要ス
明治三十八年四月十二日 海軍大臣男爵山本權兵衛

一 資産ニ關スル資格左ノ如シ

甲 各人ニ在リテハ直接國稅五拾圓以上ヲ二年以來引續キ納ムルコト

乙 合名會社ニ在リテハ其ノ社員ノ納稅額ヲ併セ又合資會社ニ在リテハ其ノ業務擔當社員ノ納稅額ヲ併セ前號ノ例ニ依リ直接國稅ヲ納ムルコト

二 營業ニ關スル資格左ノ如シ

甲 從來土木造船若ハ水中事業ニ經驗アルコト

乙 主任技術者ヲ置キ其ノ業務ヲ擔當セシメ該技術者ハ約千噸以上ノ船舶ヲ親ラ擔當シテ適當ノ期間ニ引揚若ハ片付タル經驗ヲ有スル者又ハ之ト同等以上ノ水中事業ヲ擔任シタル經歷ヲ有スト海軍艦政本部ニ於テ認定スル者ナルコト但シ競争ニ加ハラントスル者本號ニ適合スル資格ヲ有シ親ラ事業ヲ擔當スル場合ニハ技術者ヲ置カサルモ妨ケナシ

○海軍省令第六號

海軍ニ於ケル沈没船舶引揚請負ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條第一項ニ掲グル

事項ノ外尙ホ左ノ資格ヲ備フルヲ要ス

明治三十八年四月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

一 資産ニ關スル資格左ノ如シ

甲 各人ニ在リテハ直接國稅五拾圓以上ヲ二年以來引續キ納ムルコト

乙 合名會社ニ在リテハ其ノ社員ノ納稅額ヲ併セ又合資會社ニ在リテハ其ノ業務擔當社員ノ納稅額ヲ併セ前號ノ例ニ依リ直接國稅ヲ納ムルコト

丙 株式會社ニ在リテハ資本金拾萬圓以上ノ拂込済ナルコト

二 營業ニ關スル資格左ノ如シ

甲 從來土木造船若ハ水中事業ニ經驗アルコト

乙 主任技術者ヲ置キ其ノ業務ヲ擔當セシメ該技術者ハ約千噸以上ノ船舶ヲ親ラ擔當シテ適當ノ期間ニ引揚若ハ片付タル經驗ヲ有スル者又ハ之ト同等以上ノ水中事業ヲ擔任シタル經歷ヲ有スト海軍艦政本部ニ於テ認定スル者ナルコト但シ競争ニ加ハラントスル者本號ニ適合スル資格ヲ有シ親ラ事業ヲ擔當スル場合ニハ技術者ヲ置カサルモ妨ケナシ

○司法省令第十一號

静岡地方裁判所管内藤枝區裁判所徳山出張所管轄遠江國榛原郡上川根村、中川根村ヲ掛川區裁判所金谷出張所ノ管轄ニ改メ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年四月一日 司法大臣波多野敬直

○司法省令第十二號

大阪地方裁判所管内大阪區裁判所島ノ内出張所ヲ攝津國大阪市南區廣田町ニ移シ今宮出張所ト改稱ス

本令ハ明治三十八年四月十七日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年四月十四日

司法大臣波多野敬直

○司法省令第十三號

判事檢事登用試験規則中左ノ通改正ス

明治三十八年四月二十五日

司法大臣波多野敬直

第五條 判事檢事登用試験ヲ受クルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ニ記載シタル者ニ限ル

一 官立學校及専門學校令ニ依ル公立又ハ私立ノ學校(別科ヲ除ク)ニ於テ三學年以上法律學科ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

二 司法大臣ニ於テ指定シタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テ三學年以上法律學科ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

三 司法大臣ニ於テ相當ト認メタル外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學科ヲ修メ

卒業證書ヲ有スル者

前項第二號ハ明治四十年七月三十一日以後卒業スル者ニハ之ヲ適用セス

第八條ノ二 試験ヲ分チテ豫備試験及本試験トス

第八條ノ三 豫備試験ハ受験者ノ本試験ヲ受クルニ相當ナル普通ノ學識ヲ試験スルヲ以テ目的トス

第八條ノ四 豫備試験ハ左ノ科目ニ付キ之ヲ施行ス

一 論 文

二 外國語

外國語ハ英語佛語及獨語ノ中ニ就キ一種ヲ選ハシム

第八條ノ五 試験委員豫備試験ノ答案ヲ調査シタル後本試験ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルトキハ本試験ノ爲メ志願者ヲ呼出スヘシ

第八條ノ六 豫備試験ノ方法ハ試験委員長之ヲ定ム

第九條 本試験ハ受験者ノ専門ノ學識ヲ試験スルヲ以テ目的トシ筆記口述ノ二様トス

(參照)

司法省令第三號判事檢事登用試験規則(明治二十四年五月十五日抄録)

第五條 判事檢事登用試験ヲ受クルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ニ記載シタル者ニ限ル

一 官立學校及司法大臣ニ於テ指定シタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テ三學年間法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

二 外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

○司法省令第十四號

辯護士試験規則中左ノ通改正ス

明治三十八年四月 省令 司法省第十四號

明治三十八年四月二十五日

司法大臣波多野敬直

第七條ノ二 試験ヲ分チテ豫備試験及本試験トス
 豫備試験ニ合格シタル者ニ非サレハ本試験ヲ行ハス
 第七條ノ三 豫備試験ハ受験者ノ本試験ヲ受クルニ相當ナル普通ノ學識ヲ試験スルヲ以テ目的トス
 第七條ノ四 豫備試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ施行ス

一 論 文
 二 外國語

外國語ハ英語佛語及獨語ノ中ニ就キ一種ヲ選ハシム

第七條ノ五 豫備試験ノ方法ハ試験委員長之ヲ定ム

第八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本試験ハ受験者ノ専門ノ學識ヲ試験スルヲ以テ目的トシ筆記口述ノ二様トス

〔參照〕

司法省令第九號辯護士試験規則(明治二十六年五月十二日)抄錄

第八條 試験ハ筆記口述ノ二様トス

○司法省令第十五號

本年施行スヘキ判事檢事登用第一回試験及辯護士試験ニ於テハ外國語ノ試験ハ之ヲ行ハス

明治三十八年四月二十五日

司法大臣波多野敬直

○文部省令第四號

明治三十六年文部省令第二十三號及第二十六號ハ之ヲ廢止ス但シ明治三十七年以前ニ於テ許可シ

タル翻刻發行者ニ對シテハ尙之ヲ適用ス

明治三十八年四月七日

文部大臣久保田讓

〔參照〕

明治三十六年四月三日文部省令第二十三號ハ小學校教科用圖書翻刻發行情則(六月二日)同第二十六號ハ小學校教科用圖書翻刻發行情則補則ナリ

○文部省令第五號

明治三十年文部省令第十二號女子高等師範學校卒業生服務規則中左ノ通改正ス

明治三十八年四月八日

文部大臣久保田讓

第六條第一項中「自費ヲ以テ」ヲ削ル

〔參照〕

文部省令第十二號女子高等師範學校卒業生服務規則(明治三十年七月二十一日)抄錄

第六條 服務年限中ノ卒業生ニシテ自費ヲ以テ研究科專修科及撰科ニ入學志願シ者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ

○文部省令第六號

臺灣總督府國語學校第三附屬高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第三十二號高等女學校令ニ依リ設置シタル府縣立高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

明治三十八年四月十八日

文部大臣久保田讓

○農商務省令第十二號

明ケニ歳若ハ明ケニ四歳ノ牡馬ニシテ地方長官ノ指定シタル方法ニ依リ明治三十八年度ニ於テ去勢ヲ行ヒタル馬匹ハ所有者ニハ每一頭獎勵金三圓ヲ下付スヘシ

明治三十八年四月

文部大臣久保田讓

前項馬匹ニシテ去勢施術ノ爲斃死シ若ハ廢疾トナリタルトキハ其ノ所有者ニ金三十圓以内ノ損失手當ヲ下付スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ沖繩縣及種牡馬検査法ヲ施行セサル島嶼ニハ之ヲ適用セス

農商務大臣男爵清浦奎吾

○農商務省令第十三號

明治三十八年農商務省令第五號輸出羽二重取締規則中左ノ通改正ス

農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十八年四月二十四日

第四條中「精練年月日及」ノ六字ヲ削リ「番號」ノ上ニ「受入」ノ二字ヲ加フ

第五條 精練業者ハ營業所毎ニ帳簿ヲ備ヘ各匹ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 受入年月日

一 受入番號

一 生羽二重ノ量目

一 依頼者ノ氏名、名稱及住所

一 精練ノ年月日

一 精練後ノ量目並練減歩合

前項第二號ノ受入番號ハ受入ノ順序ニ依リ之ヲ記載スヘシ

第一項ノ帳簿ハ之ニ最終ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ一箇年間之ヲ保存スヘシ

〔參照〕

農商務省令第五號輸出羽二重取締規則(明治三十八年一月十三日)抄録

第四條 精練業者ハ自己ノ氏名、名稱、精練年月日及番號ヲ記載シタル證書ヲ製品ノ一端ニ附スヘシ

第五條 精練業者ハ營業所毎ニ帳簿ヲ備ヘ各匹ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 受入年月日

一 番號

一 生羽二重ノ量目

一 依頼者ノ氏名、名稱及住所

一 精練ノ年月日

一 精練後ノ量目並練減歩合

一 引渡年月日

前項ノ帳簿ハ之ニ最終ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ一箇年間之ヲ保存スヘシ

○農商務省令第十四號

實用新案法施行規則左ノ通相定ム

農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十八年四月二十九日

實用新案法施行規則

第一章 總則

第一條 實用新案ニ關シ出願、請求、届出等ヲ爲ス者ハ一件毎ニ書面一通ヲ作り、住所及差出ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印シテ差出スヘシ但シ書類ノ謄本、圖面ノ鋼製又ハ書類、雛形若ハ見本閱覽ノ請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

關係人又ハ相手方アル場合ニ於テハ其ノ員數ニ應スル副本ヲ添附スヘシ

第二條 書面ハ日本語ヲ以テ明瞭ニ之ヲ認ムヘシ

委任狀、國籍證明書等ニシテ外國語ヲ以テ認メタルモノニハ其ノ譯文ヲ添附スヘシ

第三條 登錄出願後又ハ登錄後其ノ出願又ハ登錄實用新案ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ其ノ願書番號又ハ登錄番號及實用新案ノ名稱ヲ記載シ審判請求中ノ事件ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ審判番號ヲ記載スヘシ

第四條 書留郵便ヲ以テ實用新案ニ關スル願書請求書、實用新案法第二十條第一項ノ規定ニ依ル願書及實用新案法又ハ本則ノ規定ニ依リ期間ヲ定メタル書類ヲ差出シタルトキハ其ノ書類ノ差出日時ハ發送郵便局ヨリ交付シタル書留郵便物受取證ニ記載シタル日時ニ依リ之ヲ定ム

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル書類、雛形又ハ見本ハ之ヲ受理セス

- 一 實用新案法又ハ本則ニ定メタル方式ニ違背シタルモノ
- 二 登録稅又ハ手数料ヲ納付セサルモノ
- 三 實用新案法若ハ本則ニ定メタル期間又ハ實用新案法若ハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若ハ期間ヲ過キタルモノ

特許局ニ於テ受理シタル書類、雛形又ハ見本カ前項第一號若ハ第二號ニ該當スルトキ又ハ不明瞭若ハ不完備ナルトキハ特許局長又ハ審判長ハ其ノ訂正、補充又ハ改造ヲ命スルコトヲ得但シ出願請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノハ此ノ限ニ在ラス

書損及之ニ類スル著シキ誤謬ヲ訂正又ハ補充スルハ出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス

書損及之ニ類スル著シキ誤謬アルトキハ特許局長又ハ審判長ハ適宜之ヲ訂正又ハ補充スルコトヲ得

第六條 實用新案ニ關スル出願、請求、届出等ヲ爲シタル者ハ其ノ差出シタル書類、雛形又ハ見本ヲ

訂正補充又ハ改造スルコトヲ得但シ出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノ又ハ審査若ハ審判ノ繫屬中ニ在ラサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七條 外國人又ハ外國法人ニシテ實用新案ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ外國人ニ在リテハ國籍證明書、外國法人ニ在リテハ國籍及法人タルコトノ證明書ヲ差出スヘシ但シ帝國内又ハ萬國工業所有權保護同盟條約國內ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的ノ營業所ヲ有スルコトヲ證明スル者ハ國籍證明書ヲ差出スコトヲ要セス

第八條 工業所有權ニ付帝國ト相互保護ニ關スル條約アル國以外ノ國ノ臣民、人民又ハ法人ニシテ實用新案ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ帝國内又ハ萬國工業所有權保護同盟條約國內ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的ノ營業所ヲ有スルコトノ證明書ヲ差出スヘシ

第九條 同時ニ撤銷ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ前二條ニ依リ差出ス證明書ハ一通ヲ差出シ之ヲ添附セサル書面ニハ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ得

第十條 前三條ノ場合ニ於テ他ノ事件ニ付特許局ニ對シ既ニ證明書ヲ差出シタルモノナルトキ其ノ他特許局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ證明書ノ差出ヲ免除スルコトヲ得

第十一條 實用新案ヲ承繼シタル者ヨリ其ノ承繼シタル實用新案ノ登録前出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ其ノ承繼ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ但シ其ノ事由ヲ附記シ被承繼者ト連署スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 代理人カ實用新案ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ其ノ代理權ヲ證明ス

ル書面ヲ差出スヘシ但シ法人ノ代表者其ノ法人ノ名義ヲ以テスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 實用新案法第二條第一項ニ依リ出願ノ際届出タル代理人ノ代理權ハ別段ノ明記ナキト

キハ實用新案ノ登録後尙ホ存續スルモノト推定ス

第十四條 實用新案法第四條ニ依リ代理人ノ改任ヲ命シタルトキハ特許局長ハ其ノ旨ヲ代理人ニ

通知スヘシ

第十五條 數人共同シテ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキ又ハ實用新案權ヲ共有スルトキハ代

表者一人ヲ選定シテ其ノ旨ヲ届出テ又ハ之ヲ書類ニ記載スヘシ其ノ届出又ハ記載ナキトキハ各

人互ニ代表スルモノト看做ス

第十六條 實用新案ニ關スル出願、請求、届出等ヲ爲シタル者、實用新案權者又ハ其ノ代理人若ハ代

表者カ其ノ氏名、名稱、住所若ハ印章ヲ變更シタルトキ又ハ其ノ代理人若ハ代表者ニ變更アリタ

ルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第十七條 第九條及第十條ノ規定ハ前項ノ證明書ニ關シ之ヲ準用ス

第十八條 特許局長又ハ審判長ハ職權ヲ以テ又ハ當事者ノ請求ニ依リ本則ニ定メタル期間又ハ實

用新案法若ハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若ハ期間ヲ變更スルコトヲ

得但シ相手方其ノ他ノ關係人アル事件ノ期日又ハ期間ノ變更ノ請求ニ對シテハ當事者合意ノ申

立ニ依リ又ハ顯著ナル理由アリト認ムル場合ノ外之ヲ許可セス

第十八條 實用新案ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニ關シ特許局長又ハ審判長ノ命ニ依リ差出

スヘキ圖面ノ調製ヲ特許局長ニ請求シ成規ノ手数料ヲ納付シタルモノニ付テハ其ノ手数料納付

ヨリ特許局ニ於テ圖面ノ發送ヲ爲ス迄ノ期間ハ特許局長又ハ審判長ノ指定シタル期間ニ之ヲ算

入セス

第十九條 圖面調製ノ請求ヲ爲ス者ハ同時ニ雛形、見本又ハ下圖ヲ差出スヘシ但シ特許局ニ存ス

ル雛形、見本又ハ圖面ニ依リ調製スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 差出シタル雛形、見本又ハ證據物件ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ差出ノ際豫メ其ノ旨ヲ

申出ツヘシ

前項ノ申出ヲ爲シタル者ハ事件確定ノ日ヨリ六十日以内ニ其ノ受取ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雛形

又ハ見本ニシテ特許局長ニ於テ必要ト認ムルモノハ之ヲ還付セス

差出人前項ノ手續ヲ怠ルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ

第二十一條 實用新案ニ關スル査定、審決又ハ決定ノ送付ハ査定書、審決書又ハ決定書ノ謄本ヲ以

テ之ヲ爲ス

第二十二條 特許局ノ使丁ヲ以テ爲ス書類ノ送付ヲ受ケタル者ハ其ノ受領ノ日時ヲ記載シタル受

取證ヲ使丁ニ交付スヘシ

第二十三條 實用新案法第三條第一項ノ届出ヲ怠リタル者ニ對スル書類ノ送付ハ郵便ニ付シタル

日ヲ以テ完了シタルモノト看做ス

第二十四條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ特

許局長又ハ審判長ハ官報ヲ以テ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ官報掲載

ノ日ヨリ二十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス
 第二十五條 登錄實用新案ニ關スル雛形又ハ見本ノ閱覽ヲ要スル者ハ其ノ事由ヲ説明シテ之ヲ特許局ニ請求スルコトヲ得但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第二十六條 實用新案法第二十條第一項ノ規定ニ依ル屆書ニハ圖面ヲ添附スヘシ
 第二十七條 實用新案法又ハ本則ノ規定ニ依リ出願、請求又ハ届出ヲ爲スニ當リ登録料又ハ手数料ヲ納付スヘキ場合ニハ出願、請求又ハ届出ノ書類ニ其ノ料金を相當ナル收入印紙ヲ貼附シテ差出スヘシ但シ口頭ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ特許局官吏ノ作成シタル書面ニ收入印紙ヲ貼附スヘシ

第二章 出願及審査

第二十八條 實用新案登錄願書ニハ實用新案ノ名稱、登錄請求範圍、考案者ノ氏名、住所及職業ヲ記載スヘシ
 第二十九條 實用新案法第二十條第一項ノ規定ニ依ル實用新案登錄願書ニハ博覽會又ハ共進會ニ於テ物品ヲ受領シタル日時ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
 實用新案法第二十條第二項ノ規定ニ依ル登錄願書ニハ其ノ出願ニ係ル實用新案ニ付萬國博覽會ヲ開設シタル國ニ於テ與ヘタル登錄願保護期間ヲ有スルコトヲ證明書ヲ添附スヘシ
 第三十條 實用新案法第十九條ノ規定ニ依ル實用新案登錄願書ニハ發明特許又ハ意匠登錄ノ出願ニ對スル最初ノ査定書ノ原本ヲ添附スヘシ
 第三十一條 圖面ハ左ノ各號ニ準據シテ之ヲ調製シ實用新案ヲ簡明ニ表示シ其ノ說明ヲ附記スヘシ但シ其ノ說明ハ之ヲ別紙ニ記載シ圖面ノ一部トシテ差出スコトヲ得

- 一 圖面ハ強靱ニシテ平滑ナル白紙又ハ覆寫布ヲ用非凡ソ其ノ上部曲尺六分、下部四分、左二分、右一寸四分ヲ餘シ縱曲尺八寸、横四寸八分ノ面内ニ濃墨ニテ鮮明ニ調製シ著色スヘカラス
- 二 圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ番號ヲ附シ同一部ニシテ數圖ニ互ルモノアルトキハ同一ノ符號ヲ用非番號及符號ハ濃墨ニテ明瞭ニ記載スヘシ
- 三 符號ヲ直チニ圖ニ施スコト能ハサルトキハ其ノ部分ヨリ少シク離シテ之ヲ記載シ點線又ハ細線ヲ以テ其ノ部分ト符號トヲ接續シ陰ヲ施シタル上ニハ符號ヲ記載スルヲ得ス其ノ止ムヲ得サル場合ニ在リテハ符號ヲ記載スヘキ部分ニ限リ陰ヲ施スヘカラス
- 四 截斷面ヲ現ハスニハ平行線ヲ斜ニ引キ截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ヲ異ニシタル斜線ヲ用ユヘシ
- 五 凹凸ノ部分ヲ明瞭ナラシムル爲圖面ニ陰ヲ施ス必要アルトキハ線ヲ用非簡明ニ之ヲ畫キ射影ヲ施スヲ避クヘシ
- 六 圖面ニハ出願人署名捺印シ本則ニ定ムル以外ノ事項ヲ記載スヘカラス
- 第三十二條 雛形及見本ハ堅牢ナル材料ヲ用非曲尺一尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但シ此ノ制限ニ從ヒ難キ雛形及見本ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十三條 解說書ニハ實用新案ニ付詳細ナル說明ヲ記載スヘシ
- 第三十四條 實用新案登錄願ヲ分割セムトスル者ハ其ノ分割部分ニ對シ新ナル出願ヲ爲シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ

- 前項ノ場合ニ於ケル新ナル出願ハ最初出願ノ日ニ於テ爲シタルモノト看做ス
- 第二十五條 發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シタル者ハ其ノ出願ニ對シ最初ノ査定ヲ受ケサル場合ニ限リ其ノ出願ヲ實用新案登録願ニ變更ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前出願ヲ訂正スヘシ
- 前項ニ依リ變更シタル實用新案登録願ハ最初出願ノ日ニ於テ爲シタルモノト看做ス
- 第三十六條 實用新案登録願書又ハ前條ノ變更請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ願書番號ヲ出願人ニ通知スヘシ
- 第二十七條 同日ノ出願ニ係ル同一又ハ類似ノ實用新案アリタルトキハ特許局長ハ一定ノ期間ヲ指定シ其ノ期間内ニ協議ヲ了シ權利者ヲ定メ届出ツヘキ旨ヲ關係出願人ニ通知スヘシ
- 前項ノ期間内ニ届出ナキトキハ協議調ハサルモノト看做ス
- 第二十八條 登録前其ノ出願ノ實用新案ニ關スル權利ヲ承繼シタル者ハ願書ノ名義變更ヲ特許局長ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第十一條ノ規定ヲ準用ス
- 前項ニ因リ願書ノ名義變更アリタルトキハ其ノ出願ニ關シタル請求書其ノ他ノ書類ノ名義モ變更アリタルモノト看做ス
- 第二十九條 査定書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ
 - 一 願書番號
 - 二 實用新案ノ名稱
 - 三 出願人又ハ再審査請求人ノ氏名又ハ名稱
 - 四 査定ノ主文及理由

五 査定ノ年月日

第三章 登録

- 第四十條 實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求セムトスル者ハ存續期間満了ノ日ヨリ一箇月以前ニ登録請求書ヲ特許局長ニ差出スヘシ
- 前項ノ期間満了ノ後ト雖存續期間満了以前ニ在リテハ特ニ手数料ヲ納付シ前項請求書ノ受理ヲ請求スルコトヲ得
- 登録請求書ニハ登録證ヲ添付スヘシ
- 第四十九條 第一項但書ノ規定ハ本條ノ請求ニ關シ之ヲ準用ス
- 第四十一條 登録料ノ納付アリタルトキハ特許局長ハ其ノ領收證ヲ交付スヘシ
- 第四十二條 實用新案權存續期間延長ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其ノ登録ヲ了セシ後第八號書式ニ依ル登録證ヲ下付スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ特許局長ハ原登録證ニ其ノ旨ヲ附記シ之ヲ下付スルコトヲ得
- 第四十三條 登録證ハ前條又ハ第四十五條第二項ニ依ル下付及第四十七條ニ依ル再下付ノ場合ヲ除クノ外第九號書式ニ依リ之ヲ作成シ圖面ヲ添付スヘシ
- 第四十四條 登録前其ノ出願ノ實用新案ニ關スル權利ヲ承繼シタル者ニシテ其ノ登録前願書ノ名義變更ノ請求ヲ爲サザリシ者ハ登録證ノ名義變更ヲ特許局長ニ請求スルコトヲ得
- 前項ノ請求ヲ爲サズトスル者ハ請求書ニ承繼ヲ證スル書面及登録證ヲ添付シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ但シ承繼ヲ證スル書面ハ確定日付アル私署證書又ハ公正證書ヲ用ニヘシ
- 第四十九條第二項ノ規定ハ本條ノ請求ニ關シ之ヲ準用ス

第四十五條 前條第四十條及第四十九條ノ場合ニ於テ登録證又ハ登録證複本ヲ差出スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ證明シ登録證ノ名義變更又ハ登録ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ特許局長ハ新ニ登録證ヲ作製シテ之ヲ請求人ニ下付スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊登録證又ハ登録證複本ハ無効トス此ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其ノ旨ヲ實用新案公報及官報ヲ以テ公告スヘシ

第四十六條 登録證複本、第四十五條第二項又ハ第四十七條ニ依リ下付スル登録證ニハ第五十二條第一號乃至第三號及第四號、第十號、第十六號、第十七號又ハ第十八號ニ規定シタル事項讓渡ニ付シタル制限アルトキハ其ノ制限共有者ノ持分ノ定アルトキハ其ノ持分、實用新案權ノ質入アルトキハ其ノ質入ニ關シ第九號ニ規定シタル事項ヲ記載シ登録證複本ニ付テハ尙ホ其ノ複本ナルコト及其ノ番號ヲ記載スヘシ

第四十七條 登録證カ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ登録證ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得

第四十八條 無效審決カ確定シタルトキハ登録證又ハ登録證複本ノ所持者ハ遲滞ナク其ノ登録證又ハ登録證複本ヲ返納スヘシ

第四十九條 實用新案法第十二條第二項ニ定メタル登録ヲ受ケムトスル者ハ請求書ヲ作リ登録原因ヲ書面及登録證ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ但シ實用新案權ノ共有者又ハ制限付讓受人ニシテ登録證ヲ所持セサル者ノ承繼人ハ其ノ被承繼人ノ下付ヲ受ケタル登録證複本ヲ差出シテ登録證ノ差出ニ代フルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ登録シタル後登録事項ヲ登録證又ハ登録證複本ニ記載シ之ヲ還付スヘシ

第五十條 實用新案法第十五條第二項ニ依ル實施許諾ノ登録ヲ請求セムトスル者ハ請求書ヲ作リ實施許諾ヲ證スル書面及登録證ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ但シ承諾ヲ爲シタル旨ノ制限ノ有無及其ノ範圍ヲ附記シ許諾者ト連署スル場合ニ在リテハ實施許諾ヲ證スル書面ノ添附ヲ要セス

前條第一項但書及第二項ノ規定ハ本條ノ請求ニ關シ之ヲ準用ス

第五十一條 裁判所ニ於テ實用新案權ニ對シ差押、假差押又ハ假處分アリタルトキハ當事者ハ其ノ登録ヲ請求スルコトヲ得其ノ登録後變更若ハ消滅アリタル場合亦同シ

前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ請求書ニ登録原因ヲ證スル書面及其ノ謄本ヲ添附シ特許局長ニ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ登録シ登録原因ヲ證スル書面ニ其ノ旨ヲ記入シ之ヲ請求人ニ還付スヘシ

第五十二條 第四十四條、第四十九條又ハ第五十條ニ依リ請求ヲ爲サムトスル場合ニ於テ承繼、登録原因又ハ實施許諾ヲ證スル書面ノ還付ヲ受ケムトスルトキハ實用新案權者又ハ請求人カ署名捺印シテ原本ト相違ナキコトヲ認證シタル謄本ヲ添附シテ差出スヘシ

第五十三條 實用新案原簿ニハ左ノ事項ヲ登録スヘシ

一 登録番號

二 實用新案ノ名稱

- 三 實用新案權者ノ氏名若ハ名稱及住所、外國人又ハ外國法人ニ在リテハ其ノ國籍
- 四 實用新案權存續期間ノ延長ニ付テハ其ノ事由
- 五 實用新案權ノ相續ニ付テハ其ノ事由
- 六 實用新案權ノ讓渡ニ付テハ其ノ事由、制限ヲ付シタルトキハ其ノ制限
- 七 實用新案權ノ共有ニ付テハ其ノ事由、持分ノ定アルトキハ各共有者ノ持分
- 八 相續讓渡、共有以外ノ原因ニ因ル實用新案權ノ移轉ニ付テハ其ノ事由
- 九 實用新案權ノ質入ニ付テハ債權額、其ノ利息、辨濟期、質權ノ順位及質權設定ノ年月日
- 十 實用新案權ノ實施許諾ニ付テハ其ノ事由、制限ヲ付シタルトキハ其ノ制限
- 十一 實用新案權ノ差押、假差押、假處分又ハ其ノ變更若ハ消滅ニ付テハ其ノ事由
- 十二 帝國内ニ住所ヲ有セサル實用新案權者ノ代理人ノ氏名及住所
- 十三 第十五條ニ依リ届出テ又ハ書類ニ記載シタル代表者ノ氏名及住所
- 十四 實用新案ニ係ル審判ノ請求及其ノ確定ニ付テハ其ノ事由及年月日
- 十五 實用新案權ノ消滅ニ付テハ其ノ事由及年月日
- 十六 登録證ノ再下付ニ付テハ其ノ事由及年月日
- 十七 登録證複本ノ下付ニ付テハ其ノ事由、年月日並請求人ノ氏名若ハ名稱及住所
- 十八 第四十五條ニ依ル登録證ノ下付ニ付テハ其ノ事由及年月日
- 十九 登録ノ年月日
- 第五十四條 登録事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項カ消滅シタルトキハ其ノ變更又ハ消滅ノ登録ヲ爲スヘシ

第四章 審判

- 第五十五條 審判請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 請求人及被請求人ノ氏名若ハ名稱及住所
 - 二 審判事件ノ表示
 - 三 一定ノ申立及理由
- 答辯書又ハ辯駁書ニハ前項第一號及第二號ノ外答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由ヲ記載スヘシ
- 第五十六條 數人ノ所有ニ係ル一實用新案權ニ付實用新案權者ニ對シ審判ヲ請求セムトスルトキハ其ノ各所有者ヲ以テ被請求人ト爲スヘシ
- 第五十七條 審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ番號ヲ當事者ニ通知スヘシ
- 第五十八條 審判請求後實用新案權カ他人ニ移轉スルモ其ノ審判ニ影響ヲ及ホスコトナシ
- 前項ノ場合ニ於テ其ノ移轉カ全部ナルトキハ承繼人ハ相手方ノ同意ヲ得テ被承繼人ニ代リ當事者ト爲リ其ノ移轉カ一部ナルトキハ承繼人ハ相手方ノ同意ヲ得テ被承繼人ト共ニ當事者ト爲リ以後ノ手續ヲ履行スルコトヲ得但シ承繼カ相續ニ原因スルトキハ其ノ承繼人ハ當然當事者ト爲ルモノトス
- 前項ノ場合ニ於テハ其ノ承繼及相手方ノ同意ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ審判長ニ届出ツヘシ但シ前項但書ノ場合ニ於テハ相手方ノ同意ヲ證スル書面ノ添附ヲ要セス
- 第五十九條 審判長必要ト認ムルトキハ當事者ニ對シテ訊問書ヲ發シ相當ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得
- 審判長カ前項ノ答辯書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付スヘシ關係人カ任意ニ差出

シタル答辯書、辯駁書其ノ他ノ申立書ニシテ審判長カ必要ト認メタル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ相手方ニ對シ答辯書又ハ意見書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第六十條 審判請求書、答辯書、辯駁書、意見書其ノ他ノ申立書及其ノ訂正又ハ追加ニ關スル書類ヲ差出ストキハ之ニ記載シタル事實ノ證明ニ必要ナル證據物件ヲ添附スヘシ

第六十一條 他人ノ間ニ成立セル審判ノ結果ニ因リ權利上利害關係ヲ有スル者ハ其ノ審判ノ終結スル迄一方ヲ補助スル爲其ノ審判ニ參加セムコトヲ特許局ニ請求スルコトヲ得

第六十二條 他人ハ其ノ參加ノ時ニ於ケル審判ノ程度ヲ妨ケサル限ハ其ノ主タル請求人又ハ被請求人ノ爲ニ攻撃又ハ防禦ノ方法ヲ施用シ其ノ他審判ニ關スル總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ補助スル當事者ノ行爲ト抵觸スルモノハ其ノ效ナシ

第六十三條 審判請求書ヲ受理シタル請求書ヲ審判長ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

- 一 當事者
- 二 審判事件ノ表示
- 三 利害關係
- 四 參加ノ申立

審判長前項ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ當事者ニ送付スヘシ

第六十四條 特許局ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル審判ニ付其ノ審理者ハ審決ヲ併合シ又ハ之ヲ分離スルコトヲ得

第六十五條 口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ期日ヲ定メ之ヲ當事者雙方ニ通知スヘシ

第六十六條 口頭審判ニ於テハ日本語ヲ用ユヘシ但シ日本語ニ適セザル者ハ通事ヲ用ユルコトヲ得

第六十七條 口頭審判ニ於テハ調書ヲ作り審判長及之ヲ作りタル官吏署名捺印スヘシ

第六十八條 審判ヲ請求シタル者ハ審判請求書カ相手方ニ送付セラレサル間ハ相手方ノ承諾ナクシテ請求ヲ取下クルコトヲ得但シ相手方ニ送付セラレタル後ハ相手方ノ承諾ヲ經スレテ其ノ請求ヲ取下クルコトヲ得ス

審判請求書カ相手方ニ送付セラレタル後ニ於テ請求ノ取下アリタルトキハ特許局長ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第六十九條 審決書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ニ署名スヘシ

- 一 審判番號
- 二 當事者ノ氏名若ハ名稱及住所
- 三 審判事件ノ表示
- 四 當事者陳述ノ要領
- 五 審決ノ主文及理由
- 六 審決ノ年月日

第七十條 實用新案法第四十二條ニ依リ大審院ニ出訴シタル者ハ豫備ナク其ノ旨ヲ特許局長ニ届出ツヘシ

第七十一條 審判及出訴ニ關スル費用額ノ決定ヲ受ケムトスル者ハ請求書ヲ作り費用計算書其ノ

他必要ナル書類ヲ添附シテ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ
 特許局長必要ト認ムルトキハ相手方ノ意見ヲ聞クコトヲ得
 費用額ノ決定アリタルトキハ特許局長ハ其ノ決定ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ
 第七十二條 實用新案法第四十五條第二項但書ニ依リ執行力アル正本ヲ付與スル特許局官吏ハ特許局審判課ニ於ケル特許局屬トス

附則

第七十三條 實用新案法第五十二條ノ規定ニ依ル實用新案登録願書ニハ發明特許又ハ意匠登録ノ出願ニ對スル査定書ヲ添付スヘシ
 第七十四條 本則ハ實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(書式)

第一號

實用新案登録願

収入
印紙

一 實用新案ノ名稱
 一 登録請求範圍
 一 登録請求範圍
 一 考案者氏名住所及職業
 一 私(私共)權別紙圖面ニ記載スル物品ニ付實用新案登録相受度
 一 私(私共)權別紙圖面ニ記載スル物品ニ付實用新案登録相受度
 一 相添此段及出願候也

年月日

特許局長氏名殿

本籍(國籍)住所職業
氏 名 印

第二號

存續期間延長登録請求書

収入
印紙

一 登録番号
 一 實用新案ノ名稱
 一 私(私共)權前記實用新案權ニ付存續期間延長ノ登録相受度別紙登録證
 一 私(私共)權前記實用新案權ニ付存續期間延長ノ登録相受度別紙登録證
 一 年月日
 一 特許局長氏名殿
 一 年月日
 一 特許局長氏名殿

第三號

實用新案品出品届

収入
印紙

一 實用新案ノ名稱
 一 私(私共)權別紙圖面ニ記載スル實用新案ニ係ル物品ヲ何年何月何日ヨリ何處ニ於テ政府(道何府何縣)ノ開設スル博覽會(共進會)ニ出品可致候ニ付實用新案法第二十條ノ規定ニ依リ此段及御届候也
 一 年月日
 一 特許局長氏名殿
 一 年月日
 一 特許局長氏名殿

第四號

出願變更請求書

収入
印紙

一 願書番號
 一 發明(意匠)ノ名稱
 一 私(私共)權前記發明特許願(意匠登録願)ヲ實用新案登録願ニ變更致度候間實用新案法施行規則第三十五條ニ依リ此段及請求候也
 一 年月日
 一 特許局長氏名殿
 一 年月日
 一 特許局長氏名殿

第五號 特許局長氏名殿

本籍(國籍)住所 氏 名印

登録請求書

一 登録番號
一 實用新案ノ名稱
私(私共)何某ヨリ前記實用新案權(持分)ヲ相授(讓受)(實取)候ニ付登録相受度別紙證明書(及其ノ謄本)並登録證(登録證複本)相添此段及請求候也

特許局長氏名殿

本籍(國籍)住所 氏 名印

第六號 登録請求書

一 登録番號
一 實用新案ノ名稱
一 實用新案權者ノ氏名又ハ名稱
私(私共)權前記實用新案權ヲ共有ト致候ニ付登録相受度別紙證明書(及其ノ謄本)並登録證(登録證複本)相添此段及請求候也

特許局長氏名殿

本籍(國籍)住所 共有者 氏 名印

第七號

登録請求書

一 登録番號
一 實用新案ノ名稱
一 實用新案權者ノ氏名又ハ名稱
私(私共)何某ヨリ前記實用新案權ニ付實施許諾ヲ得候ニ付登録相受度別紙證明書(及其ノ謄本)並登録證(登録證複本)相添此段及請求候也

特許局長氏名殿

本籍(國籍)住所 氏 名印

第八號 存續期間延長登録證

本籍(國籍)住所 氏 名(名稱)

一 實用新案ノ名稱
前記實用新案權ニ付存續期間ノ延長ヲ實用新案原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

本籍(國籍)住所 特許局長 氏 名印

第九號 實用新案登録證

一 實用新案ノ名稱
前記實用新案ハ特許局審査官ニ於テ登録ス(シト)査定シタリ仍テ實用新案原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

本籍(國籍)住所 氏 名(名稱)
特許局長 氏 名印

○農商務省令第十五號
實用新案ニ關シ差出ス請求書ニ要スル手数料左ノ通相定ム

明治三十八年四月二十九日

農商務大臣男爵清浦奎吾

- 第一條 實用新案ニ關シ左ノ請求ヲ爲ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納付スヘシ
- 一 登録願書ノ名義變更ノ請求 每一件金一圓
 - 二 出願變更ノ請求 每一件金一圓
 - 三 期日又ハ期間ノ變更ノ請求 每一件金二十錢
 - 四 參加ノ請求 每一件金三圓
 - 五 相續ニ因ル登録證ノ名義變更ノ請求 每一件金一圓
 - 六 相續以外ノ原因ニ因ル登録證ノ名義變更ノ請求 每一件金五圓
 - 七 登録證再下付ノ請求 每一件金一圓
 - 八 存續期間滿了前一箇月以内ニ於ケル存續期間延長登録ノ請求 每一件金一圓
 - 九 差押、假差押、假處分又ハ其ノ變更若ハ消滅ノ登録ノ請求 每一件金五十錢
 - 十 離形又ハ見本ノ閱覽ノ請求 每一件金十錢

第二條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

第三條 本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第二十八號

明治三十年月十二 逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ本日ヨリ施行ス

明治三十八年四月一日

逓信大臣大浦兼武

甲府熊谷間ノ次ニ左ノ追加

廣島下關間 金五十五錢

廣島門司間 金五十五錢

金二十錢

門司佐世保間ノ次ニ左ノ追加

下關吳間 金六十錢

門司吳間 金六十錢

金二十錢

○逓信省令第二十九號

明治三十八年三月逓信省令第十三號中「佐世保門司間」ノ次ニ左ノ追加

明治三十八年四月一日

逓信大臣大浦兼武

廣島 下關間

吳

下關間

廣島 門司間

吳

門司間

○逓信省令第三十號

逓信官署經費渡切規則施行細則左ノ通相定ム

逓信大臣大浦兼武

明治三十八年四月四日

逓信官署經費渡切規則施行細則

第一條 明治三十八年三月勅令第六十二號逓信官署經費渡切規則ニ依リ特ニ指定シタル逓信官署ノ局所長ニ交付スヘキ渡切經費ノ種類ハ左ノ如シ

- 一 器具機械費 物品會計ニ於テ備品トシテ整理スルモノ及現品ヲ以テ交付スルモノノ費途ヲ除ク
- 二 式紙帳簿雜品費
- 三 圖書購買費
- 四 薪炭費
- 五 點燈費

六 通信運搬費 電話機使用料及海外電報料ヲ除ク
 七 備入料
 八 三等局以下事務費
 九 三等局以下集配費
 十 三等局以下遞送費
 十一 船舶車輛費 物品會計ニ於テ備品トシテ整理スルモノ現品ヲ以テ交付スルモノ、船舶車輛ノ借上又ハ汽船若ハ馬車ニ關スルモノノ費途ヲ除ク
 十二 賄費
 十三 諸費 家屋其他借料及土地建物ノ賦課稅ヲ除ク
 前項各號ノ渡切經費中當該逓信官署ノ局長ニ交付スヘキモノノ種類ハ別ニ之ヲ指定ス
 第二條 渡切經費ノ交付ヲ受ケタル逓信官署ノ局長ハ其ノ交付額ヲ以テ前條ニ依リ指定スル所ノ一切ノ費途ヲ負擔シ其ノ仕拂ノ責ニ任スヘシ
 第三條 前條費途ノ仕拂ニ關シテハ官職名ヲ以テスルト否トニ拘ラス總テ當該逓信官署ノ局長自己ノ責任トシ政府其ノ責ニ任セス
 第四條 渡切經費ノ交付額ハ毎年度其ノ年額及月割額ヲ定メ當該逓信官署ノ局長ニ之ヲ令達ス
 第五條 渡切經費ハ前條ノ月割額ヲ以テ毎月十六日以後當該逓信官署ノ局長ニ之ヲ交付ス但シ時宜ニ依リ別途仕拂ヲ爲シ又ハ別途現品ヲ以テ交付スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ本條ノ交付額ヨリ其ノ費額ヲ控除ス
 第六條 渡切經費ヲ交付スヘキ逓信官署ヲ指定シタル場合ニ於ケル當月分ノ渡切經費ハ日割計算ヲ以テ之ヲ交付ス

渡切經費ヲ交付スヘキ逓信官署ノ指定ヲ廢止シ又ハ其ノ逓信官署ヲ廢止シタル場合ニ於ケル當月分ノ渡切經費ハ全額ヲ交付ス
 渡切經費ヲ交付スヘキ逓信官署ノ局長ノ交代又ハ死亡ノ場合ニ於ケル當月分ノ渡切經費ハ其ノ交代又ハ死亡ノ日カ月ノ十五日以前ナルトキハ前任局長ニ半額ヲ交付シ後任局長ニ全額ヲ交付ス其ノ交代又ハ死亡ノ日カ月ノ十六日以後ナルトキハ前任局長ニ全額ヲ交付シ後任局長ニ半額ヲ交付ス
 第七條 渡切經費ヲ交付スヘキ逓信官署ヲ指定シタル場合ニ於テ其ノ當初準備ノ爲ニ要スルモノハ前各條ニ依リ交付スルモノノ外別ニ指定シタル範圍内ニ於テ一時限リ別途仕拂ヲ爲シ又ハ別途現品ヲ以テ交付スルコトアルヘシ
 第八條 渡切經費ヲ交付スヘキ逓信官署ノ指定ヲ廢止シ若ハ其ノ逓信官署ヲ廢止シ又ハ其ノ局長ノ交代若ハ死亡シタル場合ニ於テ渡切經費ノ支辨ニ關スル費途ノ仕拂未済ニ係ルモノアルトキハ總テ前任局長又ハ特ニ命シタル清算官吏ニ於テ遲滞ナク其ノ仕拂ヲ完了スヘシ
 第九條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ特ニ渡切經費ノ種類又ハ其ノ交付額ヲ増減スルコトアルヘシ
 一 天災事變又ハ事業ノ興廢伸縮若ハ規模變更等ノ場合ニ於テ渡切經費ヲ以テ支辨スヘキ費途ニ著シク異動ヲ生シタルトキ
 二 前號ノ外逓信大臣ニ於テ必要ト認メタルトキ
 第十條 土地ノ狀況又ハ特殊ノ事由ニ依リ一時ニ數月分ノ渡切經費ノ交付ヲ必要トスルトキハ當該逓信官署ノ局長事由ヲ詳具シ逓信大臣ノ許可ヲ受クヘシ
 第十一條 三等郵便局又ハ三等郵便局ト同一組織ノ電信局電話局及各其ノ以下ノ局所ニ對シテハ

第四條乃至第七條及第十條ノ規定ヲ適用セス
前項ノ局所ニ對スル渡切經費ノ受渡ニ關シテハ別ニ定ムル所ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ明治三十八年度ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第三十一號

明治三十七年十一月十一日 逓信省令第六十九號貯蓄債券購買媒介郵便規則中左ノ通改正シ本月十日ヨリ之ヲ施行ス

逓信大臣大浦兼武

明治三十八年四月六日

第二條ニ左ノ一項ヲ追加ス

日本勸業銀行ハ債券發賣ノ際豫メ其ノ相當數量ヲ各一等郵便局ニ回付シ購買者ノ請求ニ應ジ其ノ代金ノ取立ヲ委託スルコトヲ得

第三條第二項中「作製」ノ下ニ「所轄一等郵便局ヲ經テ」ノ十字ヲ加フ

第四條及第五條ヲ左ノ通改ム

第四條 一等郵便局ニ於テ前條第二項ニ依リ爲替證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ對スル債券ヲ價格表記郵便ニ依リ購買者ニ送達ス

第五條 債券代金ニ對スル爲替金ハ別ニ定ムル手續ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ於テ之カ拂渡ヲ爲スヘシ

〔參照〕

逓信省令第六十九號貯蓄債券購買媒介郵便規則(明治三十七年十一月十日)抄録

第三條第二項

前項ノ場合ニ於テ郵便局所ハ通常爲替證書ヲ作製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付ス

第四條 郵便爲替貯金管理所ハ別ニ定ムル手續ニ依リ日本勸業銀行ヨリ債券ヲ受取リ之ニ爲替金ノ拂渡ヲ爲スヘシ

第五條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ニ依リ受領シタル貯蓄債券ハ購買媒介引受郵便局所ニ於テ爲替金受領證書ト引換ニ之ヲ購買者ニ交付ス

○逓信省令第三十二號

明治三十年十月十二日 逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改正シ本月十一日ヨリ施行ス

逓信大臣大浦兼武

明治三十八年四月八日

「福岡武雄間」ノ次ニ左ノ通加フ

日光足尾間	金二十五錢	甲府大宮間ノ次ニ左ノ通加フ	東京足尾間	金四十五錢	金二十錢
中宮洞足尾間	金二十五錢	東京足尾間	東京足尾間	金四十五錢	金二十錢
宇都宮足尾間	金二十五錢	甲府熊谷間ノ次ニ左ノ通加フ	横濱足尾間	金五十五錢	金二十錢

○逓信省令第三十三號

明治三十三年九月九日 逓信省令第六十六號中左ノ通改正ス

逓信大臣大浦兼武

明治三十八年四月十七日

第二項ニ左ノ但書ヲ追加ス

但逓信大臣ニ於テ引渡ヲ受クルノ必要ナシト認ムル場合ハ此限ニアラス

〔參照〕

逓信省令第六十六號(明治三十三年九月十五日)抄録

第二項第三項

明治三十八年四月 省令 逓信省第三十二號 第三十三號

電話加入區域外ニ在ル官廳ニ於テ加入申込ヲ爲ストキハ電話交換局ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ普通加入區域外ニ係ル電話線路ヲ建設シ之ヲ當該電話交換局ニ引渡スヘシ其ノ加入後移轉ノ爲線路ノ新設ヲ要スル場合亦同シ
前項ノ電話加入者ハ特別加入區域ニ屬スル加入者ノ例ニ依リ普通加入區域外ニ係ル線路ノ町程ニ應シ附加使用料ヲ納ムヘシ

○逓信省令第三十四號
特設電話規則左ノ通定ム

明治三十八年四月二十日

逓信大臣大浦兼武

特設電話規則

- 第一條 特ニ指定スル郵便、電信、電話局所(以下單ニ局所トス)ノ電話ニ加入セントスルモノハ本規則ノ定ムル所ニヨリ加入ヲナスコトヲ得其局所ノ位置名稱ハ之ヲ告示ス
- 第二條 加入者ハ一加入毎ニ電話線路トシテ複線式一回線ヲ架設シ且電話機一箇ヲ設備シ之ヲ保守其他必要ナル維持ヲナスヘシ但局所ノ事務室内ニ屬スル部分ハ此限リニアラス
- 設備維持ノ方法及要件ハ別ニ加入者ニ命令ス
- 第三條 特殊ノ地域ニシテ逓信大臣特ニ其必要ヲ認メタルトキハ前條電話線路ヲ單線式トナスコトヲ得
- 第四條 特別ノ事由アルモノニシテ逓信大臣特ニ其必要ヲ認メタルトキハ同一ノ回線ニ依リ設備費及維持費ヲ分擔シ四加入以内ノ共同線加入ヲナスコトヲ得
- 第五條 電話加入ヲナサントスルモノハ一加入毎ニ別記様式ニヨリ其局所ヲ管轄スル一等郵便局長(以下單ニ一等局長トス)ヲ經テ逓信大臣ニ申請シ認可ヲ受クヘシ
- 左記各號ノ設備又ハ裝置ヲナサントスルモノハ必要ノ事由ヲ申請書ニ詳記スヘシ但第一號ノ場

合ニ於テ既ニ加入セルモノノ電話線ニ參加シ共同線加入ヲナサントスルモノハ其加入者ノ承諾書ヲ申請書ニ添付スヘシ

- 一 共同線加入ヲナサントスルトキ
 - 二 電話線路ヲ單線式トナサントスルトキ
 - 三 電話機電鈴、受話器ヲ増設セントスルトキ
 - 四 長距離電話ノ加入ヲナサントスルトキ
- 他人ノ所有ニ係ル家屋内ニ電話機ヲ設置セントスルモノハ其家屋所有者ノ承諾書ヲ申請書ニ添付スヘシ

第六條 加入申請者ハ一加入毎ニ加入登記料ヲ又加入者ハ一加入毎ニ電話交換料ヲ納ムヘシ其料金左ノ如シ

- 一 加入登記料 金五圓
 - 一 電話交換料 年額金二十四圓
- 毎年一定ノ時期ヲ限リ取扱フ局所ニアリテハ前項ノ交換料一箇月金三圓トス
- 加入登記料ハ郵便切手電話交換料ハ通貨ヲ以テ納付スヘシ加入ヲ認可セザルトキハ加入登記料ハ之ヲ還付ス

第七條 加入電話機設置場所ト同一ナル自己ノ邸宅構内ニ於テ電信法第二條第一號及明治三十三年九月逓信省令第五十一號官廳用電信電話規程第一條第一號ニ依リ施設シタル電話機ヲ交換線ニ接続スルコトヲ得此場合ニ於テハ其事由ヲ詳記シタル申請書ヲ逓信大臣ニ提出シ認可ヲ受クヘシ但本項交換線ニ接続シ得ル加入者設備ノ器械、線條及附屬物品ニ對シテハ一等局長之ヲ檢査

シ適當ト認メタルモノニ限ル又之ヲ維持及交換取扱方法ハ一等局長指示スルコトアルヘシ
前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ附加交換料トシテ電話機一箇毎ニ年額金十二圓ヲ納ムヘシ
第八條 加入申請者加入ノ認可ヲ受ケ其認可ノ日ヨリ六箇月以内ニ工事其他ノ設備ニ著手セザル
トキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 加入者ハ認可ノ電話機ニ依リ左ノモノトノ通話ヲナスコトヲ得但長距離通話ハ其對話者
モ亦長距離電話加入者ニ限ル

一 加入者ト同一ノ局所ニ屬スル他ノ加入者

二 他ノ局所ニ屬スル加入者但其局所ノ位置名稱ハ告示スル處ニ依ル

三 前各號ノ局所及別ニ告示スル局所又ハ自働電話所ニ來ルモノ

第十條 第九條第一項第二第三號ノ場合ニ於テ加入者カ通話ヲ求メタルトキハ電話交換料ノ外加
入者ハ明治三十年^{十二}逓信省令第三十二號ノ料金ヲ通貨ヲ以テ納ムヘシ

第十一條 局所ニ來タリ其局所ノ加入者ト通話スルトキハ一通話時ノ電話料金ハ五錢トス
第十二條 毎年一定ノ時期ヲ定メテ取扱ヲナスベキ局所ノ加入期間ハ其局所ノ取扱期間ヲ以テ一
期トス此期間中ノ電話交換料ニシテ一箇月ニ滿タサルモノハ其月ノ現日數ニ應ジ日割ヲ以テ計
算ス一期ノ中途ヨリ加入シタルモノ亦同シ

第十三條 十五日以上引續キ電話不通トナリタルトキハ其日數ニ對スル電話交換料ヲ徴收セス既
ニ納付シタルモノハ納付人ノ請求ニ依リ還付ス但不通カ加入者ノ負擔ニ屬スル線路及機械等ニ
原因スルモノハ此限リニアラス

前項不通日數ハ一等局長ニ於テ其事實ヲ認メタル日ヨリ起算シ料金ハ不通日數ニ應ジ年額ノ日
割ヲ以テ計算ス但第十二條ノ場合ハ月額ノ日割トス

第十四條 加入者電話機ノ種類又ハ設置場所ヲ變更シ若ハ加入電話機設置場所ト同一家屋内ニ於
テ同一回線中ニ電話機電鈴受話器ヲ増設セントスルトキ又ハ長距離電話ノ加入ヲナサントス
ルトキハ第五條ニ準シ一等局長ニ申請スヘシ之レヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第十五條 加入者本規則又ハ他ノ命令若ハ主務官署ノ指揮ニ遵ハサルトキハ加入ヲ取消スコトアル
ルヘシ

第十六條 局所ノ位置ヲ變更スルトキハ電話線路ノ變更ヲナサシムヘシ

第十七條 第一條ノ局所在地又ハ其附近ニ別ニ局所ヲ開設シタルトキハ加入者ニ對シ其局所ニ
電話線路ノ接續變更ヲナサシムルコトアルヘシ

第十八條 電話交換方式又ハ取扱方法ヲ變更スルノ必要アルトキハ線路及器械裝置ノ變更ヲナサ
シムルコトアルヘシ

第十九條 加入者ハ前二條ノ場合ニ於テ現状維持ヲ望ムトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月内ニ
其事由ヲ一等局長ニ申出ツヘシ

第二十條 第十六條乃至第十八條ノ場合ニ於テ必要ナル費用ハ第二條ノ規定ニ依リ加入者ノ負擔
トス

第二十一條 本規則ニ依ル局所在地又ハ其附近ニ明治三十年^{十二}逓信省令第三十一號電話交換
規則ニ依ルノ電話ヲ開始シタルトキハ認可ノ效力ヲ失フ其開始期日ハ三箇月前ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ一般ノ電話交換ニ加入セントスルモノハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内
ニ加入ノ申込ヲナスヘシ

第二十二條 明治三十年^七月^二逓信省令第三十一號電話交換規則第三條第三項第十條乃至第十二條
 第十四條第十六條第十九條第二十四條乃至第二十八條第三十一條第三十二條第三十五條第三十
 八條乃至第四十三條ノ規定及明治三十三年^九月^九逓信省令第四十八號私設電信規則第十二條第一項
 第十三條乃至第十九條第二十一條ノ規定ハ本規則ニ之ヲ準用ス

附則

第二十三條 本規則ハ明治三十八年五月一日ヨリ施行ス
 第二十四條 明治三十五年^七月^七逓信省令第二十九號特設電話加入規則明治三十五年^七月^七逓信省令第
 三十三號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 明治三十五年^七月^七逓信省令第二十九號特設電話加入規則ニ依リ認可ヲ得タル特設電
 話ノ加入ハ引續キ認可ノ效力ヲ有スルモノトス

(別記様式)

特設電話加入申請書

特設電話規則ニ依リ 局(所)ノ電話ニ加入致度候

- 一 電話機設置場所
 - (何々)(共同線加入ノトキハ各設置場所ヲ列記スヘシ)
 - 二 (局所)ト電話機設置場所トノ距離
 - (何里)(何町)(何間)(共同線加入ノ場合ハ各距離ヲ列記スヘシ)
 - 三 長距離電話加入機械設置等ノ要否
 - (何々)
 - 四 何々(共同線加入單線式線路架設ヲ要スルトキハ其必要ノ事項ヲ此處ニ記載スヘシ)
- 右申請候也

年月日

逓信大臣宛

注意 本申請書ニハ左ノ圖面ヲ添付スルコト

住所職業 氏名印
申請人 (共同線加入ノトキハ各申請人連署スルコト)

局電話取扱局所
○電話機設置場所

注意
一 共同線加入ノ場合ハ各共同者ノ電話機設置場所ヲ示スコト
一 既ニ加入セルモノト共同線加入ヲナサントスルモノハ其加入ノ電話機設置場所ヲ示スコト

○内務省令第十三號

警部消防士特別任用令ニ依ル考試規則左ノ通之ヲ定ム

明治三十八年五月十日

内務大臣子爵芳川顯正

考試規則

第一條 巡查ヲ警部消防士ニ任用スルニハ先ツ實務ノ成績ヲ考查シ優等者ヲ選抜シテ更ニ學術試驗ヲ行フモノトス

第二條 巡查ノ實務成績ハ廳府縣長官ノ定ムル所ニ從ヒ考查表ヲ備置左ノ項目ニ從ヒ隨時記入ス

ヘシ

一 姿勢禮式服裝其ノ他紀律ニ關スル事項

二 職務執行ノ當否

三 勤務ノ勉否

四 書類報告ノ整否

其ノ他廳府縣長官ノ定メタル事項

第三條 實務成績ノ考查ハ監督ノ任アル警部ノ意見ヲ徵シ考查表ニ照合シテ優劣ヲ判定スルモノトス

第四條 學術試験ハ左ノ科目ニ從ヒ之ヲ行フ但シ外國語ハ便宜之ヲ省略スルコトヲ得

一 憲法行政法ノ大意

二 刑法刑事訴訟法裁判所構成法

三 警察ニ關スル諸法規

四 算術(比例百分算迄)
五 外國語

第五條 考試合格證書ハ左ノ雛形ニ依ル

試験成績優秀ノ順序ニ依ル

第 號	考試合格證書
族 姓	氏 名
年 齡	年 齡
年 月 日	年 月 日
考試委員	氏 名
官位勳等	氏 名
官位勳等	氏 名
官位勳等	氏 名
官位勳等	氏 名

明治三十八年勅令第四百四十七號警備部消防士特別任用令ニ依ル若查及試験ニ合格シタルコトヲ證ス

○大藏省令第三十號

明治二十五年大藏省令第十一號文官俸給支給細則中左ノ通改正ス
明治三十八年五月一日

第九條中「厘位ヲ「錢位」ニ改ム

大藏大臣男爵曾禰荒助

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

大藏省令第十一號文官俸給支給細則(明治二十五年十二月二十三日)抄錄
第九條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス
日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

○大藏省令第三十一號

明治十七年大藏卿内達賣藥稅檢査手續、明治十九年大藏省令第二十三號賣藥印紙交換規則及明治十九年大藏省令第三十一號ハ賣藥稅法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

大藏大臣男爵曾禰荒助

〔參照〕

明治十九年十月二日大藏省令第三十一號ハ賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受ケ讓受ケ預置キ又ハ所持スルヲ得ス犯ス者ハ金壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處スルノ件ナリ

○大藏省令第三十二號

明治三十八年勅令第五百十七號專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則第十七條ノ施行ニ關シテハ國稅徵收法施行細則ノ規定ヲ準用ス
國稅徵收法施行細則ニ依リ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ鹽務局長又ハ鹽務局出張所長トス

附 則

本令ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年五月九日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第三十三號

非常特別稅法第九條第四項ニ依リ選定シタル鑑定人ノ手當旅費支給方及同條第五項ニ依リ異議申立人ノ負擔スヘキ費用左ノ通相定ム

明治三十八年五月十一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

第一條 非常特別稅法第九條第四項ニ依リ選定シタル者ニハ鑑定事務從事日數ニ應シ一日金貳圓ノ手當ヲ支給ス但シ官吏ヨリ選定シタル鑑定人ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 鑑定人公務ニ依リ旅行シタルトキハ左ノ通旅費ヲ支給ス但シ前條ノ手當ヲ支給スヘキ場合ニハ汽車賃、船賃、車馬賃ノミヲ支給ス

汽車賃	一哩	船賃	一海里	車馬賃	一里	宿泊料	一夜	日當	一日		
四	錢	四	錢	十	五	錢	一	圓	五	十	錢

第三條 旅費支給ノ方法ハ内國旅費規則ニ準據ス但シ同規則第九條ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 非常特別稅法第九條第五項ニ依リ異議申立人ノ負擔スヘキ費用ハ鑑定人ノ手當、旅費及鑑定ニ要シタル實費トス

○大藏省令第三十四號

明治三十八年大藏省令第四號煙草專賣規則中第十七條煙草專賣局長ノ指定シタルノ下及其ノ證明書ヲ添ヘノ下ニ煙草販賣所ヲ追加ス

明治三十八年五月二十五日

大藏大臣男爵曾禰荒助

〔參照〕

大藏省令第四號煙草專賣規則(明治三十八年二月四日)抄錄

第十七條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裝ノ破損シタルモノアルトキハ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草製造所又ハ煙草製造所分工場ニ之レカ引替ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ煙草元賣捌人ハ其ノ事由ヲ詳記シタル書類ヲ調製シ其ノ製造煙草ハ別ニ之ヲ保存シ當該官吏ノ検査ヲ受ケ其ノ證明書ヲ添ヘ煙草製造所又ハ煙草製造所分工場ニ現品ヲ差出スヘシ

○大藏省令第三十五號

擔保附社債信託法施行細則左ノ通相定ム

明治三十八年五月三十一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

擔保附社債信託法施行細則

第一條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營マムトスル會社ハ免許申請書ニ定款ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ノ書類ノ外合名會社又ハ合資會社ニ在リテハ出資ノ拂込額ヲ記載シタル書面株式會社ニ在リテハ非訟事件手續法第百八十七條第二項第二號乃至第六號及第九號ニ記載シタル書類株式會社ニ在リテハ之ニ準スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 既設會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營マムトスルトキハ免許申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ

- 一 定款又ハ會社契約書ノ謄本
 - 二 目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書面
 - 三 最終ノ貸借對照表
- 第三條 信託會社カ信託契約ヲ締結シタルトキハ遲滞ナク左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ
- 一 信託證書謄本

二 社債ノ總額ヲ引受ケ別ニ其ノ引受ニ關スル契約書アルトキハ其ノ契約書謄本

三 社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面

前項第一號ノ信託證書カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ認可ノ證印アル信託證書ノ謄本ナルコトヲ要ス

前項ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

第四條 信託會社ハ信託契約ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク届出ツヘシ

前項ノ變更カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ其ノ認可書謄本ヲ添附スヘシ

第五條 信託會社カ委託會社ノ委任ニ因リ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ其ノ社債ノ募集カ確定シタルトキハ遲滞ナク左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

一 應募ノ口數券面總額及其ノ申込價格ノ總額

二 募入ノ口數券面總額及總價格(即チ會社ノ實收スヘキ金額)

第六條 外國會社ト信託契約ヲ締結セムトスル會社ハ許可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ

一 信託證書案

二 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本

三 擔保附社債信託法第二十二條第一項第五號乃至第七號ノ事項及社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面

四 信託ヲ引受ケムトスル外國會社ノ定款寫又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

五 前號ノ外國會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額及其ノ拂込金額ヲ記載シタル書面

第七條 擔保附社債信託法第十七條第四項ノ届書ニハ代表者タル資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第八條 第六條ノ信託契約ヲ締結シタル外國會社ニ付テハ第三條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條 信託會社ハ社債權者集會ノ召集アリタルトキハ遲滞ナク集會ノ目的場所期日及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

信託會社カ社債權者集會ノ決議錄ヲ作成シ又ハ決議錄謄本ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ決議錄謄本ニ集會ノ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ其ノ決議ノ無効ノ宣告又ハ其ノ宣告ノ取消アリタルトキ亦同シ

社債權者集會ノ決議ヲ執行シタルトキハ執行者ハ遲滞ナク其ノ顛末ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

第十條 擔保附社債信託法第四十九條第二項ニ依ル許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 集會ノ目的及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面

二 召集ノ請求ヲ受ケタル者カ請求アリタル後二週間内ニ召集ノ手續ヲ爲サ、リシ事實ヲ記載シタル書面

前項ノ申請者カ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ナルトキハ前項ノ書類ノ外其ノ社債權者カ各自有スル債券額及社債原簿ニ現存セル社債總額ヲ記載シ且其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ許可申請書ニハ各自署名スヘシ但シ無記名債券ハ之ヲ信託會社ニ提供スルカ又ハ大藏大臣ノ指定スル銀行ニ預ケ入レ其ノ預リ證書ヲ提供スヘシ

第十一條 擔保附社債信託法第八十九條ニ依ル申請書ニハ社債權者集會ノ決議錄ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 擔保附社債信託法第八十九條第一項ノ場合ニ於テハ其ノ爲スヘキ行爲ヲ怠リタル事實ヲ證スル書面
- 二 同條第二項ノ場合ニ於テハ社債權者ト受託會社トノ利益相反スルノ事實及其ノ事實ニ依リ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面
- 第十二條 擔保附社債信託法第九十四條ニ依ル申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ但シ申請者カ社債權者集會ナルトキハ尙ホ其ノ決議錄謄本ヲ添附スヘシ
 - 一 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格ノ減少シタル事實カ受託會社ノ故意若ハ過失ニ出テタル事實ヲ證スル書面
 - 二 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格減少ニ關スル計算書
- 第十三條 信託會社カ擔保附社債信託法第八十八條第三項及第九十四條第一項ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク供託金受領書謄本ヲ添へ届出ツヘシ
- 第十四條 信託會社ハ擔保附社債信託法第九十五條ニ依ル検査ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ年月日及検査ノ狀況ヲ報告スヘシ
- 第十五條 擔保附社債信託法第九十七條第二項ニ依リ外國會社ト信託事務ノ承繼契約ヲ締結セムトスル場合ニ於テハ委託會社ハ許可申請書ニ左ノ書類及第六條第一項第四號及第五號ノ書類ヲ添附スヘシ
 - 一 信託契約ノ定ムル所ニ依リ辭任シタルコト又ハ委託會社及社債權者集會カ辭任ニ同意シタルコトヲ表示シタル書面
- 二 信託事務ニ關スル計算書

三 承繼契約書案

- 第十六條 擔保附社債信託法第九十八條ニ依ル許可申請書ニハ辭任ヲ要スル事由ヲ記載シタル書面及信託事務ニ關スル計算書ヲ添附スヘシ
- 第十七條 擔保附社債信託法第九十九條ニ依ル申請書ニハ辭任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ但シ申請者カ社債權者集會ナルトキハ尙ホ其ノ決議錄謄本ヲ添附スヘシ
- 第十八條 擔保附社債信託法第一百一條第二項ニ依ル届書ニハ同條第一項ノ契約書謄本ヲ添附スヘシ
- 前項ノ書類ニハ第十五條第一號及第二號ノ書類ヲ添附スヘシ但シ第十五條ノ手續ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニアラス
- 第十九條 擔保附社債信託法第一百五條第二項ニ依ル届書ニハ引繼ノ顛末ヲ記載シ同條第三項ノ目錄ト共ニ差出スヘシ
- 第二十條 信託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ遲滞ナク總計算書ヲ添附シテ届出ツヘシ
- 第二十一條 信託會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ手續ヲ了シタル後遲滞ナク各會社共同シテ左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ但シ合併ニ依リ信託ノ業務ヲ廢止スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 合併ニ關スル契約書
 - 二 合併ニ依リ設立シ又ハ合併後存續スル會社ノ定款
 - 三 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル會社各自ノ貸借對照表
 - 四 合併ニ關スル株主總會決議錄謄本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書面

五 商法第七十九條第一項ノ規定ニ依リタルコト又ハ同條第二項ノ規定ヲ履行シタルコトヲ證スル書面

合併セムトスル會社カ銀行タルトキハ銀行條例施行細則第七條ニ依ル認可申請書ニ第十五條第一號乃至第三號及前項第五號ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

合併ニ因リ設立シ又ハ合併後存続スル會社カ新ニ信託事業ヲ營マムトスルトキハ免許申請書ニ第一項ノ書類ヲ添付スヘシ

第二十二條 擔保附社債信託法第十四條及第十五條ニ依ル請求書ニハ請求者カ利害關係ヲ有スル事實及清算人ノ選任又ハ解任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添付シテ差出スヘシ

前項ノ請求者カ社債總額十分ノ一ニ當ル社債權者ナルトキハ第十條第二項ノ規定ヲ適用ス

第二十三條 信託會社ノ清算人ハ就職後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ添付シテ届出ツヘシ

清算人ハ毎月清算ノ狀況ヲ報告スヘシ但シ重要ナル事項ニ付キテハ其ノ都度遲滞ナク届出ツヘシ

清算カ終了シタルトキハ遲滞ナク決算書ヲ添付シテ届出ツヘシ

第二十四條 信託會社カ登記又ハ登錄ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ事項及年月日ヲ記載シタル書面ヲ添付シテ届出ツヘシ

第二十五條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ハ遲滞ナク其ノ事由又ハ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添付シテ届出ツヘシ

一 信託事業ニ關スル訴訟事件ノ當事者トナリタルトキ及其ノ判決アリタルトキ

二 非訟事件ニ付裁判所ニ請求又ハ抗告ヲ爲シタルトキ及其ノ決定アリタルトキ

三 検査役ノ選任アリタルトキ

四 仕拂ヲ停止シ又ハ解散ノ事由發生シタルトキ

五 商法第七十四條第一項ニ依ル株主總會ノ招集ヲ爲シタルトキ

第二十六條 明治三十二年大藏省令第二十四號銀行條例施行細則第四條乃至第六條及第九條乃至第十一條ノ規定ハ之ヲ信託會社ニ準用ス但シ營業報告中社債ニ關スル事項ハ附屬様式ニ準シテ調製スヘシ

信託會社ハ毎月實際報告表ヲ調製シ翌月十日マテニ差出スヘシ

附則

第二十七條 本令ハ擔保附社債信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附屬様式)

(本様式ニ記載スルノ外他ノ勘定アルトキハ類似ノ項ニ準シテ便宜調製スヘシ)

信託契約

借託契約ノ口數及社債金額左ノ如シ

種 類	前 期 繰 越		當 期 契 約		當 期 解 約		現 在 契 約	
	口數	社債金額	口數	社債金額	口數	社債金額	口數	社債金額
當會社募集								
當會社總額引受								
委託會社募集								

明治三十八年五月 省令 大藏省第三十五號 擔保附社債信託法施行細則

三二四

(承繼契約ニヨリ前受託會社ヨリ引渡サレタル高ハ當期契約ニ辭任又ハ解任ニ依リ引繼キタル高ハ當期契約ニ合算シ各其口數及社債金額ヲ和當額ニ附記スヘシ)

當會社募集社債現在高内譯

委任會社名	現發行高	未發行高	合計	擔保	
				擔	保
				不動產抵當	
				船舶抵當	
				鐵道抵當	
				工場產物質	
				其他	
計					

當會社總額引受社債現在高内譯
 委託會社募集社債現在高内譯
 第三者總額引受社債現在高内譯
 (右各種ハ受託會社募集社債現在高内譯ニ準シ詳記スヘシ)
 擔保附社債ノ引受
 擔保附社債引受ニ關スル勘定左ノ如シ

券面金額	前期繰越高	當期引受高	當期賣出高	現在高

買價金額	

一 當期賣出高中當額ニ於テ當會社所有ニ握替ヘシモノ券面何程買價何程アリ
 二 當期賣出買價ノ外賣出利益何程アリ(又ハ當期賣出買價ノ内賣出損何程ヲ包含セリ)
 三 現在買價ノ内評價益何程ヲ包含セリ(又ハ現在買價ノ外評價損何程ヲ生シタリ)
 擔保附社債ノ元利金勘定
 當期間當會社ニ於テ取扱タル擔保附社債ノ元利金受拂勘定ハ左ノ如シ

前期繰越元受高		元金勘定額		利札勘定額	
口數	金額	口數	金額	口數	金額
當期元受高					
内 承繼契約ニ依リ引渡サレタル高					
計					
當期仕拂高					
内 承繼契約ニ依リ引繼キタル高					
差引 現在高					

○司法省令第十六號
 明治十九年司法省令甲第二號公證人規則施行條例中左ノ通改正ス
 第一條第一項但書中「二十五名以下」ヲ「二十名以下」ニ「二十名以下」ヲ「二十五名以下」ニ改ム
 明治二十八年五月四日 司法大臣波多野敬直

明治三十八年五月 省令 司法省第十六號

三二五

〔參照〕

司法省令甲第二號公證人規則施行條例(明治十九年八月三十日)抄録
第一條 公證人ハ各區裁判所管内二十名以下ヲ置ク但東京區裁判所管内ニ於テハ二十五名以下大阪區裁判所管内ニ於テハ二十名以下京都區裁判所管内及神戸區裁判所管内ニ於テハ十五名以下ヲ置クコトアル可シ

○司法省令第十七號

東京地方裁判所管内東京區裁判所八重洲町出張所ヲ東京市京橋區西紺屋町ニ移シ西紺屋町出張所ト改稱ス

本令ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

司法大臣波多野敬直

○文部省令第七號

明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則中左ノ通改正ス

明治三十八年五月一日

文部大臣久保田讓

第九十九條第一項中「府縣視學官」ヲ「第一部長タル府縣事務官」ニ改ム

〔參照〕

文部省令第十四號小學校令施行規則(明治三十三年八月二十一日)抄録
第九十九條 會長(小學校教員檢定委員會)ハ府縣視學官ヲ以テ之ニ充ツ

○農商務省令第十六號

花蕙検査規則施行細則左ノ通相定ム

明治三十八年五月十五日

農商務大臣男爵清浦奎吾

花蕙検査規則施行細則

第一條 左ノ花蕙ハ花蕙検査所ノ検査ヲ受クルヲ要セス

十八平方尺(英尺ナルトキ)以下ノ花蕙

第二條 花蕙ノ検査ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ請求書ヲ花蕙検査所ニ差出シ其ノ指定ノ場所ニ花蕙ヲ搬入スヘシ

第三條 花蕙検査請求者ヨリ納ムヘキ検査手数料左ノ如シ

普通花蕙(長十二丈一尺、英尺ナルトキ)以上ノモノ(以下同之) 一本ニ付金二錢

但シ長十二丈一尺(英尺ナルトキ)未滿ノモノト雖普通花蕙ト認メ得ヘキモノ亦同シ

廣幅花蕙 一枚ニ付金五厘

短尺花蕙 一枚ニ付金五厘

前項ノ検査手数料ニシテ一回ノ納付總額ニ厘位ヲ生スルトキハ其ノ端數ハ之ヲ一錢ニ繰上ケ

検査手数料ハ收入印紙ヲ以テ検査請求書ニ貼附シ之ヲ納ムヘシ

花蕙検査所ニ於テ検査請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ適法ナルコトヲ認メタル後請求書ノ紙面

ト貼附印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ押捺スヘシ

既納ノ検査手数料及其ノ過剩額ハ之ヲ還付セス

第四條 花蕙ノ検査ハ花蕙検査所在地ノ荷受人ヨリ之ヲ請求スヘシ

前項ノ荷受人ナキトキハ荷受人ヨリ之ヲ請求スヘシ但シ荷受人ニシテ花蕙検査所在地ニ在ラ

サルトキハ其ノ地ニ代理人ヲ置キ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ代理人ハ花蕙

検査所ニ對シ検査請求ノ花蕙ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者ト看做ス

第五條 試験又ハ研究ノ目的ヲ以テ花菫ヲ製造シタル者ハ其ノ花菫ノ鑑査ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ鑑査ヲ受ケムトスルトキハ製造ノ目的ノ方法其ノ他鑑査ヲ要スル事項ヲ詳記シタル請求
 書ニ花菫ヲ添附シ之ヲ花菫検査所ニ差出スヘシ
 第六條 花菫検査所ニ於テ第一條ノ花菫ヲ受理シタルトキハ第二號書式ノ預リ書ヲ検査請求者ニ
 交付スヘシ
 前項ノ預リ書ハ検査請求者ニ於テ花菫ノ引渡ヲ受ケタルトキ之ヲ花菫検査所ニ返納スヘシ
 第七條 花菫ノ検査ハ修補乾燥ノ完全ナルモノニ就キ之ヲ行フ
 花菫検査所ニ於テ受理シタル花菫ニシテ修補乾燥ノ不完全ナルモノアルトキハ検査請求者ヲシ
 テ之ヲ修補乾燥セシム

第八條 花菫検査所ニ於テハ左ノ項目ニ付花菫ヲ検査ス

- 一 原料
- 二 染色
- 三 模様
- 四 地合
- 五 耳組
- 六 長幅
- 七 量目

廣幅花菫短尺花菫及七島蘭製各種花菫ニ付テハ前項量目ノ検査ヲ行ハス
 第九條 花菫ヲ検査シタルトキハ其ノ種類ニ應ジ第十條乃至第十六條ノ規定ニ從ヒ合格不合格ニ
 區別シ合格品ハ更ニ之ヲ一等及二等ニ分ツ

第十條 花菫検査ノ標準左ノ如シ

検査項目	合格		不合格	
	一	二	一	二
原料	原料蘭莖一ナルモノ	原料蘭莖シク不齊ナラサルモノ	原料蘭莖シク不齊ナルモノ	枯蘭其ノ他不良ノ原料ヲ用井タルモノ
染色	著色鮮明ナルモノ	著色甚シク鮮明ヲ缺カサルモノ	著色甚シク鮮明ヲ缺クモノ	濃淡甚シク不齊ナルモノ、飛形ノモノニシテ著色區畫甚シク判明ヲ缺クモノ、錯謬ナキモノ
模様	濃淡齊一ナルモノ	濃淡甚シク不齊ナラサルモノ	濃淡甚シク不齊ナルモノ	飛形ノモノニシテ著色區畫甚シク判明ヲ缺クモノ、錯謬ナキモノ
地合	厚薄齊一ナルモノ	厚薄甚シク不齊ナラサルモノ	厚薄甚シク不齊ナルモノ	織込ミ甚シク不齊ナルモノ、經緯ノ弛張甚シキモノ
耳組	敷延ハシテ彎曲ヲナササルモノ	敷延ハシテ彎曲スルモノ	敷延ハシテ彎曲ヲナササルモノ	耳組不完全ニシテ原料蘭莖シク彎曲セサルモノ
長幅	普通花菫幅員二尺九寸五分以上三尺五分未満	同上	普通花菫幅員二尺九寸五分未満又ハ三尺五分以上	同上
種別	普通花菫	廣狹甚シカラサルモノ	廣狹甚シキモノ	同上
製造地	岡山縣	廣島縣	石川縣	福岡縣
等級	一等	二等	同上	同上
量目	五貫六百匁以上	同上	同上	同上

量目	同百二十經以上	同百五十經以上	同百八十經以上	同二百經以上	同二百五十經以上	同三百經以上	同三百五十經以上	同四百經以上	同四百五十經以上	同五百經以上	同五百五十經以上	同六百經以上	同六百五十經以上	同七百經以上	同七百五十經以上	同八百經以上	同八百五十經以上	同九百經以上	同九百五十經以上	同千經以上
目追八十經	四貫八百多以上	四貫九百多以上	五貫	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上	五貫多以上
目追六十經	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追四十經	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追二十經	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追十經	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追五經	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追二經	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追一經	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追半經	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追四分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追八分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追一分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追五分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追十分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追二十分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追四十分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追八十分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追一分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追二分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追三分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追四分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追五分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追六分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追七分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追八分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追九分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追十分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追十一分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追十二分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追十三分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追十四分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追十五分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追十六分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追十七分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追十八分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追十九分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
目追二十分目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

第十一條 花蕙ノ製造地外ニ生産シタル原料ヲ以テ製造シタル花蕙ハ其ノ原料生産地ニ於テ製造シタル花蕙ノ量目ヲ其ノ原料ヲ混交シテ製造シタル花蕙ハ主タル原料ノ生産地ニ於テ製造シタル花蕙ノ量目ヲ斟酌シテ花蕙検査所適宜其ノ量目ヲ定ム

第十二條 長十二丈一尺(英尺ナルト)ニ過不足アル花蕙ノ量目ヲ検査スル場合ニ於テハ現品ノ長ヲ以テ其ノ量目ヲ除シテ得タル商二十丈一尺(英尺ナルト)ヲ乘シタルモノヲ其ノ花蕙ノ量目トス

第十三條 第十條ニ列記シタル種別外ノ普通花蕙ノ量目同條ニ列記シタル製造地外ニ於テ製造シタル花蕙ノ量目又ハ第十一條ニ依リ難キ花蕙ノ量目ハ其ノ最モ類似シタル花蕙ニ準シテ花蕙

検査所之ヲ定ム

第十四條 普通花蕙ハ其ノ長十二丈一尺(英尺ナルト)未滿ノモノト雖検査ノ標準ニ依リ合格ニ相當スルトキハ之ヲ合格品トシ不足ノ尺度ヲ表明スヘシ但シ不足ニ屬スル三尺(英尺ナルト)未滿ノ端數ハ之ヲ三尺(英尺ナルト)ニ繰上ラヘシ

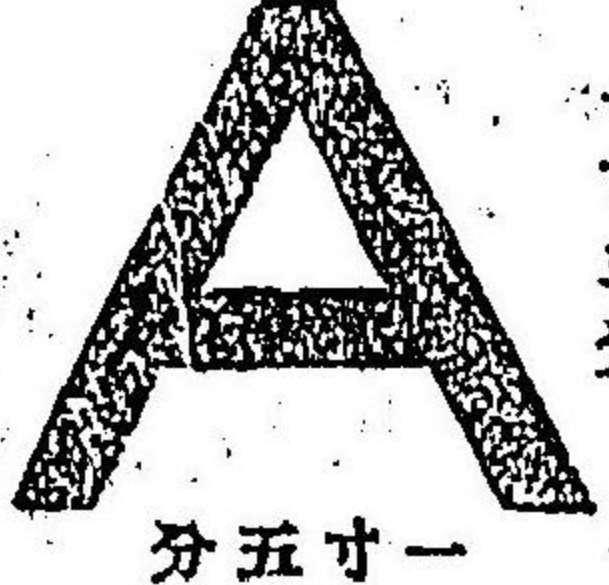
第十五條 腐敗、汚損、色違又ハ品質ノ異ナリタルモノヲ適合セザルモノ其ノ他瑕疵アル花蕙ハ其ノ品質及瑕疵ノ程度ヲ斟酌シテ検査ノ成績ヲ決定スヘシ

第十六條 普通花蕙ハ先ツ長幅及量目ヲ検査シ其ノ標準ニ依リ合格ニ相當セザルトキハ其ノ他ノ項目ヲ検査セスシテ之ヲ不合格品トス

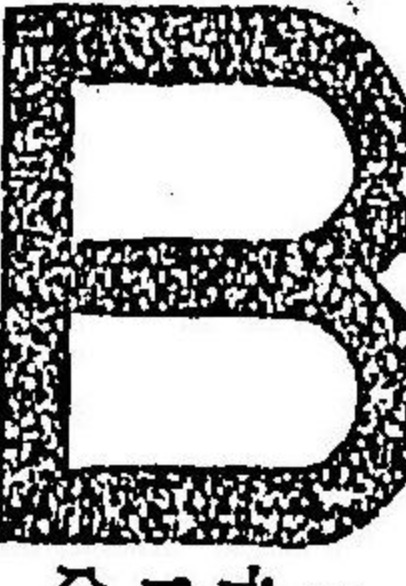
第十七條 花蕙ノ長幅及量目ノ検査ハ検査員他ノ検査員ノ立會ヲ以テ之ヲ行ヒ其ノ他ノ項目ノ検査ハ検査員二名以上ニテ之ヲ行フヘシ

第十八條 花蕙検査所ハ第九條ノ區別ニ從ヒ花蕙ニ左ノ記號ヲ烙印スヘシ

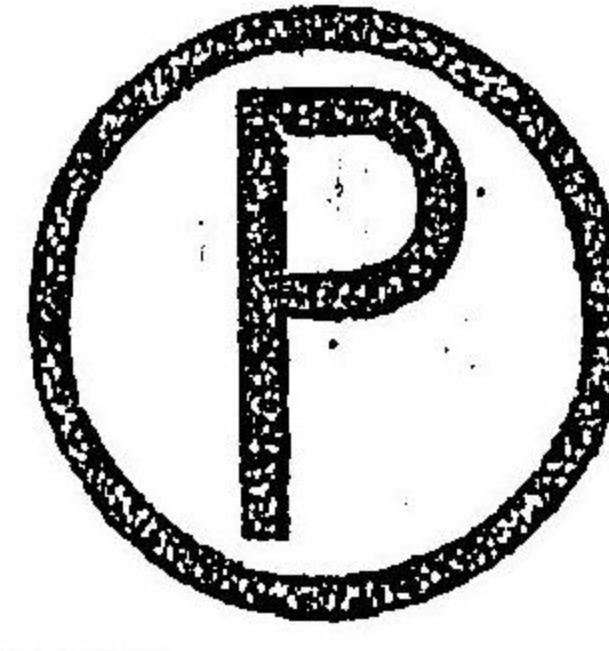
合格品 一等 一寸五分 合格品 二等 一寸五分 合格品 三等 一寸五分 合格品 四等 一寸五分 合格品 五等 一寸五分 合格品 六等 一寸五分 合格品 七等 一寸五分 合格品 八等 一寸五分 合格品 九等 一寸五分 合格品 十等 一寸五分



一寸三分
分五寸一



一寸四分
分二寸一



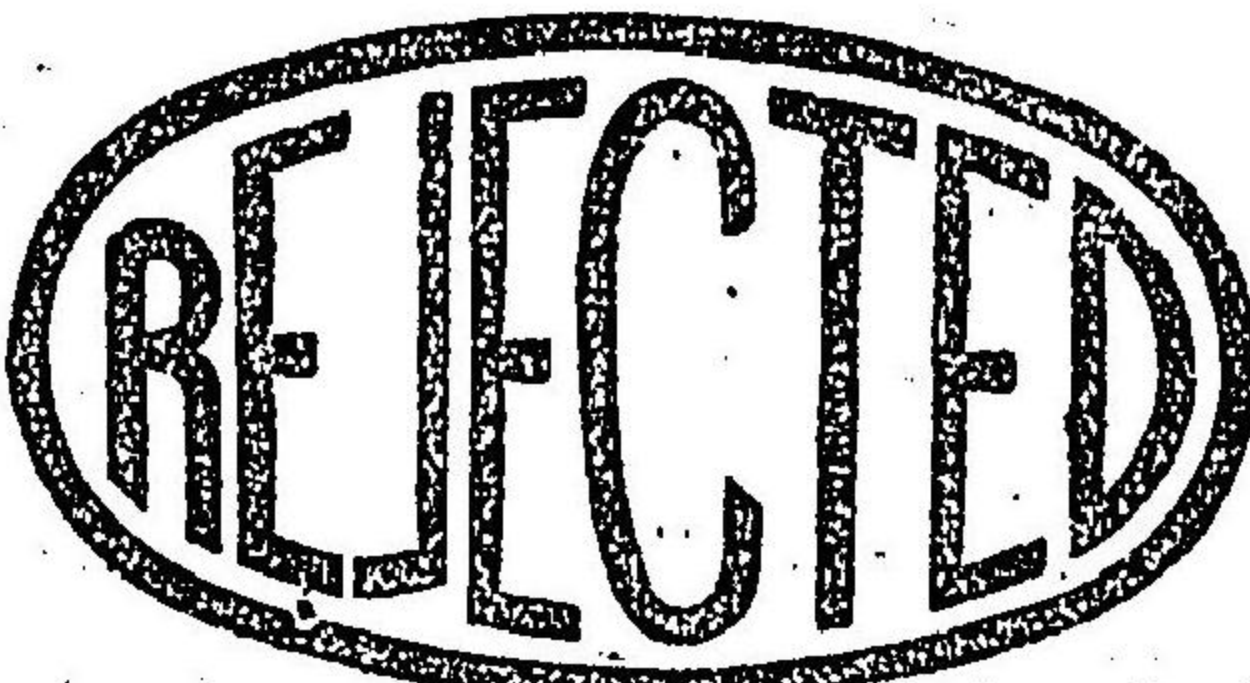
徑一寸六分

PASSED

PASSED

不合格品

一寸八分



分四寸三

正誤

一寸四分



分二寸二

尺不足

一寸三分



分三寸二

足不碼二

一寸三分



分三寸二

以下準之

合格品ニ烙印スヘキ記號ハ花菴ノ表面兩端ニ之ヲ施スヘシ但シ廣幅花菴及短尺花菴ニハ其ノ裏面一端ニ之ヲ施スコトヲ得

不合格品ニ烙印スヘキ記號ハ普通花菴ニ在リテハ其ノ表面ノ兩端及裏面ニ於テ凡ソ六尺ヲ隔ツル毎ニ一箇所ニ、廣幅花菴及短尺花菴ニ在リテハ裏面ニ箇所ニ之ヲ施スヘシ

長十二丈一尺(英尺ナルト)未滿ノ花菴ト雖普通花菴ト認メ得ヘキモノニ付テハ前二項ノ例ニ依ル

第十九條 花菴検査所ニ於テ検査ヲ結了シタルトキハ其ノ成績ト共ニ之ヲ検査請求者ニ通知ス

ヘシ

検査請求者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ翌日ヨリ起算シ五日以内ニ花菴ヲ搬出スヘシ

第二十條 検査請求者前條第二項ノ期間内ニ花菴ヲ搬出セサルトキハ庫敷料ヲ納ムヘシ但シ庫敷料ハ左ノ範圍内ニ於テ検査所長之ヲ定ム

普通花菴 一箇月間一本ニ付金二錢五厘乃至金四錢

但シ長十二丈一尺(英尺ナルト)未滿ノモノト雖普通花菴ト認メ得ヘキモノ亦同シ

廣幅花菴 一箇月間一枚ニ付金一錢乃至金二錢五厘

短尺花菴 一箇月間一枚ニ付金五厘乃至金一錢五厘

前項一箇月ノ計算ハ曆ニ從ヒ毎月一日乃至十五日及十六日乃至末日ヲ以テ各之ヲ半箇月トシ半箇月以内ハ一箇月分ノ半額ヲ徴收ス

第二十一條 検査請求者花菴検査所ノ爲シタル不合格ノ決定ニ對シ不服アルトキハ第十九條第一項ノ通知ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ五日以内ニ花菴検査所ニ再検査ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ検査請求者ハ更ニ検査手数料ヲ納ムヘシ

前項再検査ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ第十九條第二項ノ期間ハ再検査結了ノ通知ヲ受ケタル翌日ヨリ之ヲ起算ス

第二十二條 再検査ヲ行フ場合ニ於テハ前検査ニ關與セサリシ検査員ヲシテ之ヲ検査セシメ且検査所長ニ於テ花菴ニ關シ學識又ハ經驗ヲ有スト認ムル營業者ノ中ニ就キ一名以上ヲ指定シテ其ノ意見ヲ徵シタル後検査所長其ノ成績ヲ決定スヘシ

附則

本則ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

第 號(此ノ番號ハ花菴検査所ニ於テ本書ヲ受理シタルトキ附スヘキモノトス)

花菴検査請求書

検査手数料何程

収入

印紙

花菴ノ種別及数量

花菴ノ製造地及原料ノ生産地

荷送人ノ氏名又ハ名稱及住所

前記ノ花菴検査相成度候也

年 月 日

住所

荷受人(荷送人又ハ荷送人代理人)

氏 名 印

(法人ナルトキハ名稱及代表者ノ氏名)

花菴検査所長宛

第二號書式

第 號(此ノ番號ハ検査請求書ニ附シタル番號ヲ用井ルモノトス)

預り書

一花菴ノ種別及数量

右検査ノ爲預リ置候也

年 月 日

検査請求者

氏 名(名稱)

花菴検査所 印

○逓信省令第三十五號

明治三十三年八月逓信省令第四十號電話呼出規程中左ノ通改正ス

明治三十八年五月十一日

逓信大臣大浦兼武

第二條第二項ヲ左ノ通改ム

電話所ニ來ルモノハ前項料金ニ相當スル郵便切手ヲ呼出請求券ニ貼附シ差出スヘシ

第八條ヲ左ノ通改ム

電話呼出請求ニ對シ其ノ呼出手續著手前呼出請求人ヨリ其ノ請求ノ取消ヲ申出タルトキハ之ニ應スヘシ但シ第二條第二項ノ場合ハ其ノ呼出請求券ヲ郵便切手未消印ノ儘返付シ同條第三項ノ場合ハ料金ヲ徴收セス

第九條 削除

第十三條第二項ヲ左ノ通改ム

前項料金還付ノ請求ハ其ノ呼出請求ヲ爲シタル郵便局(電話局所ナルトキハ其ノ所管郵便局)ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ呼出請求ヲ爲シタル日ヨリ三十日間トス但シ電話料前納證書ニシテ被呼者ニ交付シタルモノナルトキハ之ヲ請求書ニ添附スヘシ

〔參照〕

逓信省令第四十號電話呼出規程(明治三十三年八月二十三日)抄録

第二條第二項

電話所ニ來ル者ハ前項ノ料金ヲ其電話所ニ前納スヘシ

第八條 第二條ニ依リ電話加入者ノ納ムヘキ電話呼出料及電話料ハ其ノ請求ヲ取消シ又ハ其ノ請求ニ對シ發行シタル呼出

通話券不用ニ關シタルトキト雖之ヲ納付スヘシ

第十三條 左記各號ノ料金其納付人ヨリ還付ノ請求アリタルトキハ郵便切手ヲ以テ納付シタルモノハ郵便切手通貨ヲ以テ

納付シタルモノハ通貨ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

一 電話局所ノ過失ニ因リ電話料前納證書ヲ被呼者ニ交付セザルトキハ其ノ電話料及電話呼出料

- 二 電話局所ノ過失ニ因リ徵收シタル電話料及電話呼出料
 - 三 居所不分明其ノ他ノ事故ニ因リ電話料前納證書ヲ被呼者ニ交付スルコト能ハサルトキ及其ノ使用期間中ニ使用セザリシトキノ電話料
 - 四 艦船中ニ在ル者ニ交付スヘキ電話料前納證書ヲ艦船ノ出帆又ハ被呼者居所ノ改正等ニ依リ當初指定ノ艦船ニ廻達セザリシトキノ増納呼出料
- 前項料金選付ノ請求ハ呼出ノ請求ヲ爲シタル加入者又ハ電話局所屬ノ電話交換局又ハ電話交換支局ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日より三十日トス但シ被呼者ノ受領シタル電話料前納證書ニシテ未使用ノモノハ之ヲ請求書ニ添付スヘシ

○逓信省令第三十六號

郵便貯金規則左ノ通相定ム

明治三十八年五月十八日

郵便貯金規則

逓信大臣大浦兼武

目次

- 第一章 總則
- 第一節 通則
- 第二節 貯金利子
- 第三節 通帳檢閲
- 第四節 再度通帳
- 第五節 讓渡及相續
- 第二章 貯金預入
- 第一節 通常預入
- 第二節 郵便切手預入

第三節 證券預入

第四節 局所外預入

第三章 貯金拂戻

第一節 通則

第二節 通常拂戻

第三節 特殊拂戻

第四章 證券購入保管及賣却

第一節 通則

第二節 證券購入及保管

第三節 證券交付及賣却

第五章 特別貯金

第一節 規約貯金

第二節 据置貯金

第三節 共同貯金

第四節 海外貯金

郵便貯金規則

第一章 總則

第一節 通則

第一條 郵便貯金ハ特ニ告示シタル場合ヲ除クノ外何レノ郵便局所ニ於テモ之ヲ取扱フ

第二條 左ノ貯金預ケ人ハ貯金ノ目的ヲ異ニスル場合ニ限リ二册以上ノ通帳ヲ所持スルコトヲ得

一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體

二 規約貯金ノ預ケ人

三 据置貯金ノ預ケ人

四 共同貯金ノ總代人

第三條 貯金通帳ニハ預ケ人ニ於テ其ノ表紙ノ餘白ニ貯金ノ目的ヲ表示スヘキ簡單ナル文詞徽號ヲ印刷又ハ筆書スルコトヲ得

第四條 郵便貯金ノ受入及拂出ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ貯金預ケ人原簿ニ登記ス

郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ預入金ヲ原簿ニ登記シタルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

貯金預ケ人其ノ預入ヲ爲シタル日ヨリ起算シ二十日以内ニ前項ノ通知書到達セサルトキ又ハ通知書到達スルモ預入金額、預入年月日等ニ相違アルトキハ速ニ其ノ旨ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ申告スヘシ

第五條 一人ノ郵便貯金總額制限ヲ超過シタルトキハ郵便官署ハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

前項ノ通知ヲ發シタル後三十日以内ニ預ケ人ヨリ減額ノ請求ナキトキハ郵便官署ハ郵便貯金法第六條ノ手續ヲ爲ス

第六條 公共團體、社寺、學校又ハ各種ノ法人若ハ團體ニ於テ本規則ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ當該書類ニ其ノ名稱ヲ記載調印シ且其ノ代表者、管理者ニ於テ相當肩書ヲ

附シ記名調印スヘシ

第七條 代人ニ於テ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人リ委任狀ヲ差出シ代人タルコトヲ證明シ且記名調印ヲ要スル書類ニハ代人タルノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ之ヲ作製スルコトヲ得

第八條 貯金預ケ人ハ一名ヲ限り加印者ヲ設クルコトヲ得

加印者ヲ設ケタル貯金預ケ人本規則ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ加印者モ亦當該書類ニ其ノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

第九條 貯金預ケ人加印者ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ預ケ人及新舊加印者連署シ且新加印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

貯金預ケ人其ノ加印者ヲ廢シタルトキハ前項ノ例ニ準シ其ノ届出ヲ爲スヘシ

第十條 貯金預ケ人預入開始後加印者ヲ設ケタルトキハ其ノ届書ニ預ケ人及加印者連署シ且加印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十一條 印章ヲ所持セサル者貯金預ケ人トナルトキハ代印者一名ヲ設クヘシ

代印者ヲ設ケタル貯金預ケ人本規則ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ當該書類ニ本人ノ氏名ヲ記シ尙代印者記名調印スヘシ

第十二條 貯金預ケ人代印者ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ新舊代印者連署シ且新代印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十三條 貯金預ケ人代印者ヲ廢シタルトキハ其ノ届書ニ預ケ人及代印者連署シ且預ケ人ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十四條 貯金預ケ人印章ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ且通帳ヲ呈示スヘシ但シ通帳ヲ呈示シ能ハサル場合ニ於テ正當本人タルコトヲ證明シ得サルトキハ郵便局所ノ相當ト認ムル保證人ヲ立ツヘシ

代印者又ハ加印者印章ヲ變更シタルトキハ前項ノ例ニ依リ其ノ届出ヲ爲スヘシ但シ加印者印章變更ノ場合ニ於テハ其ノ届書ニ預ケ人ノ連署ヲ要ス

第十五條 貯金預ケ人及其ノ他ノ關係人ニ於テ其ノ氏名ヲ改メ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ其ノ届書ニ記名調印シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第十六條 貯金預ケ人其ノ住所ヲ郵便爲替貯金管理所所持持區域内ヨリ同支所所持持區域内ニ移轉シ又ハ同支所所持持區域内ヨリ郵便爲替貯金管理所若ハ他ノ支所所持持區域内ニ移轉シタルトキハ預ケ人原簿ノ移替ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ預ケ人原簿ヲ當該郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ移替シ且通帳記號番號ヲ更訂シタル上通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第十七條 公共團體、社寺、學校又ハ各種ノ法人若ハ團體ノ代表者、管理者ニ異動アリタルトキハ其ノ届書ニ新舊代表者、管理者連署シ尙公共團體、社寺、學校等ノ印章ヲ押捺シ且新代表者、新管理者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十八條 特別即時拂ノ取扱ヲ受クヘキ貯金預ケ人第九條以下ノ届出ヲ爲ストキハ當該特別取扱郵便局所ニ對シテモ亦其ノ届出ヲ爲スヘシ

第十九條 貯金預ケ人第九條以下ノ届出ヲ爲シタルトキハ同時ニ通帳中變更ニ係ル事項ヲ訂正スヘシ

第二十條 貯金事務ニ關シ郵便官署ニ提出スル書類ニハ當該通帳ノ記號番號ヲ附記スヘシ
第二十一條 郵便官署ニ於テ必要ト認メタルトキハ貯金預ケ人ノ請求ニ依リ貯金ニ關スル特別ノ取扱ヲ爲ス場合ト雖其ノ承認ヲ取消シ又ハ其ノ取扱局所ヲ變更スルコトアルヘシ
第二十二條 天災其ノ他非常ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ特ニ指定シタル郵便局所ニ限り本規則ノ手續ニ依ラス貯金ノ拂戻其ノ他ノ取扱ヲ爲ス
前項非常取扱ニ關スル必要ナル事項ハ當該郵便局所ニ之ヲ揭示ス

第二節 貯金利子
第二十三條 郵便貯金ハ其ノ預入ノ翌月ヨリ其ノ拂戻證書發行ノ前月マテ又拂戻證書ヲ發行セサルモノハ拂戻金拂渡ノ前月マテ之ニ利子ヲ附ス但シ一口ノ預入金中十錢未滿ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

第二十四條 貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシ之ヲ元金ニ加ヘ其ノ總額ニ對シ四月ヨリ更ニ利子ヲ附ス但シ其ノ十錢未滿ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

第二十五條 貯金預ケ人ハ通帳ニ元加利子ノ記入ヲ受クル爲毎年一回通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第二十六條 前條ノ通帳ニ對シテハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ元加利子ノ記入ヲ爲シ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第三節 通帳檢閱

第二十七條 貯金預ケ人ハ何時ニテモ所持ノ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ノ檢閲ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ通帳ノ檢閲ヲ爲サムトスルトキハ貯金預ケ人ニ其ノ旨ヲ通告ス

貯金預ケ人前項ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ通告書ニ指示スル方法ニ依リ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ又ハ郵便局所所屬員ニ交付スヘシ

第二十九條 貯金預ケ人前二條ニ依リ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ又ハ郵便局所所屬員ニ交付シタルトキハ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

第三十條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ通帳ヲ檢閲シタルトキハ之ニ檢閱濟ノ證印ヲ爲ス

前項檢閱濟ノ通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第四節 再度通帳

第三十一條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ再度通帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一 通帳ヲ亡失シタルトキ

二 通帳毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ

三 通帳餘白ナキニ至リタルトキ

前項第一號及第二號ニ依リ再度通帳ノ請求ニ對シテハ通帳一冊ニ付料金五錢ヲ徵收ス

第三十二條 貯金預ケ人通帳ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル爲再度通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ再度通帳請求書ヲ調製シ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ通帳アルモノハ之ヲ添へ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

貯金預ケ人通帳餘白ナキニ至リタル爲再度通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第三十三條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ再度通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ預ケ人原簿ニ依リ再度通帳ヲ發行シ通帳ハ郵便局所ニ於テ前條ノ受領證ト引換ニ之ヲ請求人ニ交付ス

第三十四條 再度通帳ヲ發行シタルトキハ原通帳ハ無効トス

第五節 讓渡及相續

第三十五條 郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ左ノ場合ニ限り之ヲ讓渡スコトヲ得

一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ニ讓渡ス場合

二 親族ニ讓渡ス場合

三 遺言ニ依リ讓渡ス場合

第三十六條 貯金ノ讓受人ハ速ニ貯金ノ名義書換ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ請求スヘシ前項ノ場合ニ於テ讓受人カ既ニ自己名義ノ通帳ヲ所持スルトキハ其ノ通帳ニ讓受ニ係ル貯金ノ轉記ヲ請求スヘシ

第三十七條 貯金讓受人貯金ノ名義書換ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ遺言ノ場合ヲ除クノ外讓受人及讓渡人連署シ且讓受人ノ印鑑及左ノ書類ヲ添へ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

一 法人若ハ團體ニ於テ讓受ケタルモノナルトキハ營利ヲ目的トセサルコトヲ認ムヘキ相當證
明書

二 親族ニ於テ讓受ケタルモノナルトキハ其ノ續柄ヲ認ムヘキ戶籍ノ謄本若ハ抄本
三 遺言ニ依リ讓受ケタルモノナルトキハ相當ノ證明アル遺言書謄本

第三十八條 貯金讓受人貯金ノ轉記ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ遺言ノ場合ヲ除クノ外
讓受人及讓渡人連署シ且自己名義ノ通帳及讓受ニ係ル通帳並ニ前條各號ノ書類ヲ添ヘ之ヲ郵便
局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

第三十九條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ前二條ノ請求ニ依リ貯金ノ名義書換又ハ轉記
ヲ了シタルトキハ通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第四十條 貯金ノ讓渡人反對ノ申出ヲ爲ササルトキハ當該貯金ニ屬スル證券モ亦讓渡ヲ爲シタ
ルモノト看做ス

第四十一條 死亡ニ因ル家督相續人又ハ遺產相續人、被相續人ノ貯金ノ名義書換若ハ轉記ヲ請求
セムトスルトキハ其ノ請求書ニ戶籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添ヘ名義書換ノ場合ハ尙印鑑ヲ添ヘ通帳
ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ但シ郵便局所ニ於テ必要ト認ムルトキハ
相當保證人ヲ立テシムルコトアルヘシ

死亡以外ノ原因ニ依ル家督相續人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ第三十七條及第三十八條ノ
例ニ依ルヘシ

第三十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二章 貯金預入

第一節 通常預入

第四十二條 新ニ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金預入申
込書ヲ調製シ之ニ現金ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ貯金預ケ人カ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ナルトキハ貯金預入申込書ニ
相當證明書ヲ添付スヘシ

第四十三條 郵便局所ニ於テ前條ノ申込書及現金ヲ受領シタルトキハ預ケ人名義ノ通帳ヲ調製シ
預入金ノ記入ヲ爲シ之ヲ預ケ人ニ交付ス

貯金預ケ人通帳ノ交付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ印鑑欄ニ預入申込書ニ使用シタル印章ヲ押捺
スヘシ

第四十四條 貯金預ケ人再度以後ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ現金ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ預
入金ノ記入ヲ受クヘシ

第四十五條 貯金預ケ人通帳ヲ郵便官署ニ提出中貯金ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ郵便局所ニ通
帳受領證ヲ呈示シタル上現金ヲ差出シ其ノ假預リ證ヲ受取ルヘシ

貯金預ケ人通帳ノ返付ヲ受ケタルトキハ預入ヲ爲シタル郵便局所ニ前項ノ假預リ證ヲ差出シ通
帳ニ預入金ノ轉記ヲ受クヘシ

第四十六條 郵便局所ニ於テ貯金ヲ受入レタルトキハ通帳ニ預入金額、預入年月日其ノ他必要ナ
ル事項ヲ記載シ主務者調印シ且日附印ヲ押捺シテ之ヲ證明ス

第二節 郵便切手預入

第四十七條 郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル郵便切手ハ左ノ三種トス

一 五厘郵便切手

二 一錢郵便切手

三 二錢郵便切手

第四十八條 郵便切手ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便切手貯金臺紙ニ印刷シタル郵便切手印面金額ト同一種類ノ郵便切手ヲ臺紙相當欄全部ニ貼附シ郵便局所ニ差出シ通帳ニ其ノ記入ヲ受クヘシ

前項ノ臺紙ニ印刷シタル切手印面金額ハ之ヲ預入金ニ加算ス

第四十九條 郵便切手貯金臺紙ハ私製ノモノヲ使用スルコトヲ得

前項臺紙ノ紙質寸法及必要ナル欄割ハ郵便官署發行ノモノト同様ナルコトヲ要ス但シ郵便切手印面ヲ印刷スルコトヲ得ス

第五十條 郵便切手ニ依ル貯金ノ預入ハ一人一箇月一圓ヲ超ニルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル者アルトキハ其ノ制限超過額ヲ無効トシ其ノ消印シタル郵便切手ニ對シテハ之カ代價ヲ爲サス

第二節 證券預入

第五十一條 郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル證券ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

前項ノ證券ニシテ割増金附ノモノナルトキハ其ノ割増金モ共ニ預入スルコトヲ得

郵便貯金ニ預入スル證券ニシテ所得稅ヲ課セラルルモノハ其ノ所得稅額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ貯金預入額トス

第五十二條 證券ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ證券ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ其ノ記入

ヲ受クヘシ但シ證券ニ支拂期ノ明記ナキモノハ預ケ人ニ於テ其ノ支拂期ノ開始セルモノナルコトヲ證明スヘシ

第四節 局所外預入

第五十三條 一定ノ場所及日時ニ於テ貯金ノ預入ヲ爲ス者多數アルトキハ郵便局所ハ其ノ預ケ人ノ請求ニ依リ吏員ヲ派出シ之カ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第五十四條 郵便局ノ郵便區市外ニ在ル貯金預ケ人ハ當該郵便局ノ郵便集配人ニ依リ預入ヲ爲スコトヲ得但シ證券ニ依ル預入ハ此ノ限ニ在ラス

郵便集配人ニ於テ貯金ノ取扱ヲ爲スヘキ場所及日時ハ所轄郵便局長ノ揭示スル所ニ依ル

第五十五條 郵便局所ノ派出吏員又ハ郵便集配人ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ指定ノ場所及日時ニ於テ貯金預入申込書又ハ通帳ニ預入金ヲ添ヘ之ヲ派出吏員又ハ郵便集配人ニ交付シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

同一ノ場所及日時ニ於テ預入ヲ爲サムトスル者多數アルトキハ取繼メ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ取繼人ニ於テ各預ケ人ノ氏名金額等ノ内譯書ヲ調製シ之ヲ添付スヘシ

第五十六條 前條ニ依リ取扱ヲ爲シタル貯金ニ對シテハ所轄郵便局所ニ於テ相當手續ヲ爲シタル上通帳ハ預入ノ日ヨリ起算シ三日以内ニ前條ノ受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ交付ス但シ取繼メ預入ヲ爲シタルモノナルトキハ之ヲ其ノ取繼人ニ交付ス

第五十七條 貯金預ケ人前條ノ期間内ニ通帳ノ交付ヲ受ケサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ當該郵便局長又ハ所轄一等郵便局長ニ申告スヘシ

第三章 貯金拂戻

第一節 通則

第五十八條 貯金拂戻證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ起算シ六十日トス
第五十九條 貯金預ケ人貯金ノ一部拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ五十錢以上ノ貯金ヲ殘シ置ク
ハシ

第六十條 貯金預ケ人ハ貯金ノ一部拂戻ノ場合ニ於テハ十錢未滿ノ端數及未タ元金ニ加ヘサル
利子ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第二節 通常拂戻

第六十一條 貯金預ケ人貯金ノ一部拂戻ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ
依リ貯金拂戻請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出
スヘシ

第六十二條 貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ請求セムトスルトキハ前條ノ例ニ依リ貯金拂戻請求書
ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ但シ請求書ニハ拂戻金額ヲ
記載セス其ノ餘白ニ全拂ノ文字ヲ附記スヘシ

第六十三條 前二條ノ貯金拂戻請求ニ對シテハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ其ノ請求書
ヲ預入申込書及預ケ人原簿ニ對照シ印鑑其ノ他ニ相違ナキヲ認メタル上拂戻證書ヲ調製シ之ヲ
請求人ニ送達シ拂戻請求書ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第六十四條 貯金拂戻請求人拂戻證書ノ送達ヲ受ケタルトキハ其ノ證書ニ受領證印ヲ爲シ之ニ通
帳又ハ通帳受領證ヲ添ヘ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ
拂渡郵便局所ハ拂戻證書ヲ拂戻請求書ニ對照シ拂戻金額通帳記號番號預ケ人ノ氏名及印鑑ヲ

符合スルヲ認メタル上拂戻金ヲ交付シ尙一部拂戻ノ場合ニ在リテハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之
ヲ請求人ニ返付ス

第六十五條 左ノ場合ニ於テハ拂渡郵便局所ニ於テ拂戻金ノ拂渡ヲ停延ス

- 一 拂戻證書違式ノトキ
- 二 拂戻請求書違式ノトキ
- 三 拂戻請求書未達ノトキ
- 四 拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セサルトキ
- 五 拂渡資金缺乏ノトキ

拂戻金ノ拂渡ヲ停延スルトキハ當該郵便局所ニ於テ拂戻證書ノ裏面ニ其ノ事由及豫定日數ヲ記
載證印シ之ヲ請求人ニ返付ス

第六十六條 郵便局所ハ拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セサル場合ニ於テハ其ノ少ナキ金額ヲ
限度トシ又拂渡資金缺乏ノ場合ニ於テハ其ノ拂渡シ得ル金額ヲ限度トシ拂戻請求人ノ請求ニ依
リ拂戻金ノ假拂ヲ爲ス

第六十七條 貯金拂戻請求人前條ニ依リ拂戻金ノ假拂ヲ受クルトキハ其ノ受領證ヲ差出シ且拂戻
證書ヲ呈示シテ之ニ假拂金ノ記入ヲ受クヘシ但シ拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セサル場合
ニ於テ拂戻證書ニ記載シタル金額ノ拂渡ヲ受クルモノナルトキハ拂戻證書ニ受領證印スヘシ

第六十八條 郵便局所ハ拂戻金ノ拂渡ヲ停延シタル場合ニ於テ其ノ事故判明シ又ハ資金充實シテ
拂渡ニ差支ナキニ至リタルトキ若ハ停延期間ノ延長ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第六十九條 郵便局所ニ於テ拂戻金ノ拂渡ヲ停延シタル爲經過シタル日數ハ拂戻證書ノ有効期間

ニ算入セズ

第七十條 貯金預ケ人拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ通帳ノ記號番號、拂戻金額、原拂渡郵便局所名及拂渡ヲ受ケムトスル郵便局所名等ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ拂渡郵便局所ノ變更ヲ承認シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第七十一條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ郵便官署ニ再度拂戻證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一 拂戻證書ヲ亡失シタルトキ

二 拂戻證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ

三 拂戻證書有効期間ヲ經過シタルトキ

再度拂戻證書ノ請求ニ對シテハ證書一枚ニ付料金三錢ヲ徴收ス

第七十二條 貯金預ケ人再度拂戻證書ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ通帳記號番號、拂戻金額並ニ請求ノ事由等ヲ記載シタル請求書ニ記名調印シ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ原證書アルモノハ之ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ

第七十三條 郵便官署ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ原證書ニ對シ拂渡ヲ爲ササルコトヲ確メタル上再度拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

第七十四條 再度證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無効トス

第七十五條 貯金預ケ人拂戻證書ノ交付ヲ受ケタル後現金受領ノ必要ナキニ至リタルトキハ其ノ拂戻金ノ戻入ヲ請求スルコトヲ得但シ貯金全部拂戻ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

拂戻金戻入ノ請求アリタルトキハ其ノ請求ノ日ニ於テ貯金ノ預入ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十六條 貯金預ケ人拂戻金ノ戻入ヲ請求セムトスルトキハ拂戻證書ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記載シ記名調印ノ上之ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ但シ證書ヲ亡失シタルモノ又ハ毀損汚斑シテ不判明トナリタルモノハ通帳記號番號、拂戻金額、拂渡郵便局所名等ヲ記載シタル戻入請求書ヲ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ通帳ニ拂出及受入ノ記入ヲ爲シ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第三節 特殊拂戻

第七十七條 貯金預ケ人ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ檢閱濟ノ證印ヲ爲シタル貯金現在金額ニ付テハ何レノ郵便局所ニ於テモ一日三十圓以内、一箇月總額百圓迄ヲ限リ即時拂戻ヲ請求スルコトヲ得通帳ニ預入金ヲ記入シタル郵便局所ニ對シ其ノ記入金額ニ付拂戻ヲ請求スル場合亦同シ

第七十八條 貯金預ケ人貯金ノ即時拂戻ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻金受領證ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ受領證ニ押捺シタル印影ト通帳ニ押捺シタル印鑑ト對照シ相違ナキヲ認メタル上請求人ニ拂戻金ヲ交付シ尙一部拂戻ノ場合ニ在リテハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第七十九條 貯金預ケ人貯金全部ノ即時拂戻ヲ請求シタル場合ニ於テ元金ニ組入レタルト否トヲ問ハス通帳ニ記入セラレサル利子アルトキハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ニ對スル拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

第八十條 貯金預ケ人郵便局所ニ於テ豫メ特別即時拂取扱ノ承認ヲ受クルトキハ第七十七條ノ場合ニ於テ金額ニ制限ナク當該郵便局所ニ貯金ノ即時拂ヲ請求スルコトヲ得

第八十一條 貯金預ケ人最初預入ノ際特別即時拂取扱ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ貯金預入申込書ト共ニ其ノ副本ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

既ニ通帳ヲ所持スル者特別即時拂取扱ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ郵便局所ニ通帳ヲ呈示シ且貯金預入申込書副本ヲ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ特別即時拂取扱ヲ承認スルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

第八十二條 貯金預ケ人ハ別ニ告示スル郵便局所ニ於テ其ノ受持郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ屬スル貯金ノ全部又ハ一部ノ局待拂ヲ請求スルコトヲ得

第八十三條 貯金預ケ人局待拂ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻金受領證ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ受領證ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於ケル預入申込書及預ケ人原簿ニ對照シ相違ナキヲ認メスル上之カ拂渡ヲ爲ス

第四章 證券購入保管及賣却

第一節 通則

第八十四條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入保管スヘキ證券ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

第八十五條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入シ又ハ賣却スル證券ノ價格ハ郵便爲替貯金管理所ニ其ノ請求書ノ到着シタル日ヨリ起算シ第三日目ニ於ケル東京ノ相場ニ依ル

第八十六條 證券購入保管又ハ賣却ニ關スル料金ハ別ニ之ヲ告示ス

第八十七條 郵便官署ニ於テ購入スル證券ノ代金ハ預ケ人ノ貯金ヨリ拂出シ保管ニ係ル證券ノ利息償還金及賣却代金ハ預ケ人ノ貯金ニ組入ル

貯金ニ組入レタル證券利息ハ預ケ人ヨリ元加利息ノ記入又ハ檢閲ヲ受クル爲通帳ヲ提出シタルトキ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ通帳ニ記入ス

第八十八條 貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ請求スルトキ若ハ貯金讓渡ノ場合ニ於テ貯金ニ屬スル證券ノ讓渡ヲ爲ササルモノナルトキハ同時ニ郵便官署ニ於テ保管ニ係ル證券ノ交付ヲ請求スヘシ

第八十九條 貯金預ケ人ハ其ノ所有ニ係ル證券ノ保管ヲ郵便官署ニ請求スルコトヲ得

前項ニ依リ保管證券ハ貯金ヲ以テ購入シタルモノト看做シ之ヲ取扱フ

第九十條 本章ノ規定ハ第五條第二項ニ依ル國債證券ノ購入保管ニ關シ之ヲ準用ス

第二節 證券購入及保管

第九十一條 貯金預ケ人證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券購入請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第九十二條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ證券ヲ購入シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ郵便局所ニ貯金通帳ヲ差出シ之ニ證券代金ニ對スル拂出金ノ記入ヲ受ケ且初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ受取り再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ差出シ之ニ證券ノ種類記號番號額面金高等ノ記入ヲ受ク

第九十三條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ貯金預ケ人ノ指定ニ係ル證券ヲ購入シ得サルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第九十四條 貯金預ケ人第八十九條ニ依ル證券ノ保管ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券保管請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ證券ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ且初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ貯金通帳ヲ呈示シ再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ請求人ニ證券假受領證ヲ交付シ再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ニ證券ノ種類記號番號額面金高等ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第九十五條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ證券ヲ受取リタルトキハ證券保管原簿ニ登記シ初度ノ請求ニ係ルモノハ證券保管通帳ヲ調製シ之ヲ請求人ニ送付シ再度以後ノ請求ニ係ルモノハ原簿登記簿ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第九十六條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ證券ノ償還金ヲ貯金ニ組入レタルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

貯金預ケ人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳及貯金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ之ニ證券拂出及償還金受入ノ記入ヲ受クヘシ

第九十七條 貯金預ケ人證券ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ

證券交付請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第九十八條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求人指定ノ郵便局所ニ證券及交付請求書ヲ送付シ且其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ之ニ證券拂出ノ記入ヲ受ケ且交付請求書ニ受領證印シテ證券ヲ受取ルヘシ

第九十九條 貯金預ケ人證券ノ賣却ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券賣却請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

貯金預ケ人前項ノ場合ニ於テ證券賣却代金ノ拂渡ヲ受ケムトスルモノナルトキハ賣却請求書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第一百條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ證券ノ賣却代金ヲ請求人ノ貯金ニ組入レタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳及貯金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ通帳ニ證券拂出及賣却代金受入ノ記入ヲ受クヘシ

第一百一條 前條ノ場合ニ於テ第九十九條第二項ニ依リ證券賣却代金ハ拂渡ヲ要スルモノナルトキハ第七十八條ノ手續ニ準シ之カ拂渡ヲ爲ス

第五章 特別貯金 第一節 規約貯金

第二百一條 組合規約ニ依リ拂戻ニ制限ヲ付シテ預入シタル貯金ハ之ヲ規約貯金トス

第二百二條 規約貯金ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ組合代表者ニ於テ組合ノ名稱、所在地並ニ拂戻及組合脱退ノ承認ニ關スル證明方法ヲ記載シタル請求書ニ通テ郵便局所ニ差出スヘシ
郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ承認スルトキハ其ノ旨ヲ代表者ニ通知ス

第二百三條 組合員新ニ規約貯金ノ預入ヲ爲ス場合ニ於テハ貯金預入申込書ニ組合ノ名稱及規約貯金ノ旨ヲ附記シ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出スヘシ

第二百四條 規約貯金ノ通帳ニハ郵便局所ニ於テ其ノ表紙ニ拂戻制限ノ旨ヲ附記ス
前項ノ通帳ニ記入シタル貯金ハ總テ規約貯金ト看做ス

第二百五條 通常貯金通帳ハ之ヲ規約貯金ニ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ通帳ヲ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ之ニ拂戻制限ニ關スル徽號ノ附記ヲ受クヘシ

第二百六條 組合員他ノ規約組合ニ轉シタルトキハ舊組合ニ於テ使用セシ通帳ヲ新組合ニ於テ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳ヲ新組合ニ對シ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第二百七條 規約貯金預ケ人ハ其ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ヲ除クノ外他ノ郵便局所ニ於テ貯金ノ特殊拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス但シ局待拂ハ此ノ限ニ在ラス

第二百八條 規約貯金ノ拂戻ヲ請求セムトスル者ハ拂戻承認ニ關スル證明ヲ具シ其ノ請求書ヲ差出スヘシ
前項ノ證明カ豫メ組合代表者ヨリ提出ニ係ル證明方法ニ符合スルニ非ラサレハ之カ拂戻ヲ爲サス

第二百九條 組合ニ於テ拂戻及組合脱退ノ承認ニ關スル證明方法ヲ變更シタルトキハ組合代表者ニ於テ其ノ届書ニ通テ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出スヘシ

第三百一條 組合ニ於テ拂戻制限ニ關スル規約ヲ解除シ若ハ組合ヲ解散スルトキハ代表者ニ於テ直ニ其ノ旨ヲ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ届出ツヘシ
前項ノ場合ニ於テ各組合員ハ通帳ヲ當該承認局所ニ差出シ拂戻制限ニ關スル徽號ノ取消ヲ受クヘシ

第三百二條 規約貯金預ケ人組合ヲ脱シタルトキハ通帳ニ組合脱退承認ニ關スル證明書ヲ添ヘ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ拂戻制限ニ關スル徽號ノ取消ヲ受クヘシ

第三百三條 前二條ノ場合ニ於テ其ノ預ケ人他ニ通常貯金通帳ヲ所持スルトキハ共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通常貯金通帳ニ規約貯金ノ轉記ヲ受クヘシ

第三百四條 第二節 据置貯金
一定ノ期間拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル貯金ハ之ヲ据置貯金トス
据置貯金ノ期間ハ最初預入ノ日ヨリ起算シ三箇年乃至十箇年ノ年限内ニ於テ貯金預ケ人任意之ヲ指定スヘシ

第三百五條 新ニ据置貯金ノ預入ヲ爲サムトスルモノハ貯金預入申込書ニ其ノ据置期間ヲ明記スヘシ

第三百六條 貯金預ケ人其ノ貯金ヲ据置貯金ト爲サムトスルトキハ其ノ請求書ニ通帳ノ記號番號及据置期間ヲ記載シ之ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於ケル据置期間ハ其ノ申請ノ日ヨリ起算ス

第三百七條 貯金預ケ人其ノ貯金ヲ据置貯金ト爲サムトスルトキハ其ノ請求書ニ通帳ノ記號番號及据置期間ヲ記載シ之ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於ケル据置期間ハ其ノ申請ノ日ヨリ起算ス

第三百八條 貯金預ケ人其ノ貯金ヲ据置貯金ト爲サムトスルトキハ其ノ請求書ニ通帳ノ記號番號及据置期間ヲ記載シ之ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於ケル据置期間ハ其ノ申請ノ日ヨリ起算ス

第三百九條 貯金預ケ人其ノ貯金ヲ据置貯金ト爲サムトスルトキハ其ノ請求書ニ通帳ノ記號番號及据置期間ヲ記載シ之ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於ケル据置期間ハ其ノ申請ノ日ヨリ起算ス

第百十七條 据置貯金ノ通帳ニハ郵便局所ニ於テ其ノ表紙ニ据置貯金ノ旨ヲ附記ス

前項ノ通帳ニ記入シタル貯金ハ總テ据置貯金ト看做ス

第百十八條 据置貯金ハ据置期間満了ノ後ニ非ラサレハ其ノ拂戻ヲ爲サス其ノ貯金ヲ以テ購入シタル證券ノ交付ニ付テモ亦同シ

第百十九條 据置貯金ノ預ケ人ハ据置期間満了ノ際ニ於テ其ノ期間ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第百十六條ノ例ニ依リ郵便局所ノ承認ヲ受ケヘシ

第百二十條 据置貯金ノ預ケ人其ノ期間満了ノ際他ニ通常貯金通帳ヲ所持スルトキハ共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通常貯金通帳ニ据置貯金ノ轉記ヲ受ケヘシ

第三節 共同貯金

第百二十一條 貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者共同シ總代人ノ名義ヲ以テ預入スル貯金ハ之ヲ共同貯金トス

第百二十二條 共同貯金ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ其ノ總代人ニ於テ貯金預入申込書ニ其ノ旨ヲ附記シ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ共同貯金ノ取扱ヲ承認スルトキハ總代人ニ通帳及其ノ通帳ノ記號番號ヲ記入シタル貯金預入票用紙ヲ交付ス

第百二十三條 總代人ハ隨時貯金預入票用紙ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳記號番號及所要數量ヲ記載シタル請求書ヲ通帳ノ交付ヲ受ケタル郵便局所ニ差出スヘシ

第百二十四條 貯金預入票用紙ハ私製ノモノヲ使用スルコトヲ得

前項ノ用紙ハ郵便局所發行ノモノト同様ナルコトヲ要ス但シ其ノ裏面ニハ共同貯金ニ關スル事

項ニシテ通信文ノ性質ヲ有セサルモノニ限リ之ヲ印刷スルコトヲ得

第百二十五條 總代人ハ貯金預入票用紙ノ相當欄ニ自己ノ住所氏名ヲ記入シ私製ノモノニアリテハ尙通帳記號番號ヲ記入シ之ヲ各共同者ニ配付スヘシ

第百二十六條 總代人ハ貯金預入票用紙ヲ各共同者ニ配付スル爲其ノ送達ヲ郵便局所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ用紙ニ帶封ヲ施シ其ノ表面ニ配付ヲ要スル共同者ノ住所氏名ヲ記載シ郵便局所ニ差出スヘシ

第百二十七條 共同貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ預入票用紙ニ相當事項ヲ記載シ預入金ト共ニ郵便局所ニ差出シ預入金受領證ヲ受取ルヘシ

多數ノ者同時ニ前項ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ之ヲ取纏メ一枚ノ預入票ヲ以テ其ノ預入ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取纏人ニ於テ預入票ニ相當事項ヲ記載シ且其ノ裏面ニ各預入者ノ氏名及金高ヲ附記シ又ハ別ニ内譯書ヲ添ヘ差出スヘシ

第百二十八條 前條ノ預入金ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ其ノ總代人名義ノ共同貯金トシテ預ケ人原簿ニ登記シ預入票ヲ總代人ニ送付ス

第百二十九條 總代人前條預入票ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ預入金ノ記入ヲ受ケヘシ但シ同時ニ多數ノ記入ヲ要スルモノニシテ其ノ預入月ノ同一ナルモノハ郵便局所ニ於テ之ヲ取纏メ通帳ニ記入ス

第百三十條 貯金預ケ人ハ自己名義ノ貯金ヲ共同貯金ニ組替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ預入票ニ組替ノ旨ヲ附記シ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

前項貯金ノ組替ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ貯金ノ一部組替ヲ要スルモノナルトキハ

其ノ組替金額ヲ通帳ニ記入シ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス
第三百三十一條 共同貯金ノ組合ヲ解除シタルトキハ總代人ニ於テ其ノ貯金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

第四節 海外貯金

第三百三十二條 我郵便局所ノ設置ナキ外國ニ在留スル本邦人郵便貯金ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ適宜ノ用紙ニ本籍、現住所、職業、氏名及初度預入金額ヲ記載シ且自己ノ印章ヲ鮮明ニ押捺シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ宛テ送付シ預入金ハ郵便爲替ニ依リ之ヲ同所ニ送付スヘシ但シ預ケ人ノ現住所及氏名ハ邦文ヲ以テ記載スルノ外尙在留國ノ文字ヲ以テ明瞭ニ附記スヘシ
第三百三十三條 前條ニ依リ預入ヲ爲シタル者再度以後ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ其ノ預入金ヲ郵便爲替ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第三百三十四條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前二條ニ依リ送付ヲ受ケタル爲替金ハ郵便貯金ニ振替受入レ之ヲ預ケ人原簿ニ登記ス

第三百三十五條 海外貯金預ケ人貯金ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ適宜ノ用紙ニ本籍、現住所氏名及拂戻金額ヲ記載シ且印章ヲ鮮明ニ押捺シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ但シ預ケ人ノ現住所及氏名ハ邦文ヲ以テ記載スルノ外尙在留國ノ文字ヲ以テ明瞭ニ附記スヘシ

第三百三十六條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ拂戻金ヲ郵便爲替ニ依リ之ヲ請求人ニ送付ス此ノ場合ニ於テハ爲替料ヲ請求人ノ貯金ヨリ控除ス

第三百三十七條 海外貯金預ケ人ハ第三百三十五條ノ例ニ準シ内國在任者ヲ指定シ之ニ貯金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得
郵便爲替貯金管理所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂戻證書ヲ發行シ之ヲ指定ノ受取人ニ

送達ス

第三百三十八條 海外貯金預ケ人其ノ貯金ニ關シ各種ノ請求又ハ届出ヲ爲サムトスルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ請求書又ハ届書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第三百三十九條 海外貯金預ケ人歸國シタルトキハ速ニ通帳ノ交付ヲ郵便爲替貯金管理所ニ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ通帳交付請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

郵便爲替貯金管理所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ通帳ヲ發行シ之ヲ郵便局所ニ送付シ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第四百十條 請求人前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ通知書ニ受領證印シ又ハ別ニ通帳受領證ヲ調製シテ之ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ且正當預ケ人タルコトヲ證明シタル上通帳ノ交付ヲ受クヘシ

附則

第四百十一條 本規則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便貯金條例施行細則、郵便切手貯金規則、證券郵便貯金規則、特別郵便貯金規則、規約貯金特別取扱規則、郵便集配人取集郵便貯金規則及明治三十七年十二月十二日逓信省令第七十二號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第四百十二條 郵便貯金振替計算ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

〔參照〕

明治三十七年十二月十二日逓信省令第七十二號ハ逓信省管内郵便局ニ貯金ノ直接拂ヲ請求スルコトヲ得ルノ件ナリ

○逓信省令第三十七號

鐵道抵當法施行規則左ノ通定ス

逓信大臣大浦兼武

明治三十八年五月二十二日

鐵道抵當法施行規則

第一條 鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シテ差出スヘシ

一 抵當負債ヲ要スル事由

二 舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ其ノ整理ニ要スル期間

第二條 鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當證書又ハ信託證書及鐵道財團目錄ノ外尙ホ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 抵當證書又ハ信託證書ノ謄本

二 株主總會ノ議事及決議ノ要領書

三 最終ノ貸借對照表

四 元利支拂ノ豫算

五 株金總額及拂込額ノ登記抄本

六 私設鐵道法ニ依リ認可ヲ受ケテ爲シタル鐵道及之ニ屬スル物件抵當ノ負債アルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本

七 前ニ私設鐵道法ニ依リ認可ヲ受ケ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本

前項ニ依リ差出シタル抵當證書又ハ信託證書ハ抵當權設定ノ認可アリタルトキハ認可ノ證明ヲ附シテ之ヲ還付ス

第三條 鐵道抵當權設定ノ認可申請前會社ノ申請ニ因リ豫メ鐵道財團ノ公告ヲ爲シタル場合ニ於テ鐵道抵當法第八條ニ依リ鐵道財團目錄ヲ差出シタルモノニ付テハ鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニ鐵道財團目錄ヲ添附スルコトヲ要セス

第四條 第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當權者ニ對スル催告ノ始末書及催告アリタルコトヲ證スル書面又ハ抵當權者ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五條 第一條第一號及第二號第二條第一項第四號ニ記載セル事項ヲ變更セントスルトキハ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ變更ノ事項カ株主總會ノ決議ヲ要スルモノニ係ルトキハ認可申請書ニ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スルコトヲ要ス

第六條 抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項變更ノ認可申請書ニハ契約證書及其ノ謄本ヲ添附シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

第二條第二項及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ノ變更ニシテ契約ニ基カサル場合ニ於テハ變更ノ事由並年月日ヲ記載シ利害關係人署名捺印シテ届出ツヘシ

第七條 鐵道抵當權設定ノ認可申請前ニ於ケル鐵道財團公告ノ申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由及其ノ總額ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シテ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ鐵道財團目錄ノ外第二條第一項第三號及第四號ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

第八條 鐵道抵當法第二十六條ノ場合ニ於テ其ノ債務ニ付据置年限經過後ニ於ケル辨濟期ニ關シ
特約アルトキハ抵當權設定後二十年ニ滿ル迄其ノ特約ニ依ルモノトス

第九條 鐵道抵當原簿ハ別記第一號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條 鐵道財團目錄ハ別記第二號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十一條 鐵道財團目錄ニハ其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シ且毎葉
ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ屆書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載
シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ屆書ハ鐵道財團目錄ノ様式ニ依リ掲クヘキ事項ヲ記載シ目錄ノ部門及舊事項ヲ附記ス
ヘシ

保線ニ要スル材料ニ付テハ決算期ニ於テ之カ調査ヲ爲シ變更又ハ消滅ノ届出ヲ爲スヘシ

第十三條 鐵道抵當權設定ノ登録申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ債權者及會社ノ取締役之ニ署名捺
印シ正本一通副本二通ヲ差出スヘシ

一 鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

二 抵當權者債權者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

三 抵當權ノ順位

四 債權額及償還ノ方法並期限

五 利率及利息支拂ノ方法並期限

六 免許ニ附シタル條件

七 抵當權ヲ設定シタルコト

八 抵當權設定認可ノ年月日

九 登録税額

第十四條 登録ハ申請書受附ノ順序ニ依リテ之ヲ爲ス

第十五條 登録申請書其ノ他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ之ヲ申請者ニ
交付スヘシ

前項ノ受領證ハ登録濟證ヲ交付スルトキハ之ヲ還納セシムヘシ

第十六條 第十三條ノ規定ハ登録シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ登録申請ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 登録ヲ完了シタルトキハ其ノ旨ヲ申請者ニ通知シ登録申請書ノ副本ニ登録濟ノ旨ヲ記
載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ申請者ニ還付スヘシ

第十八條 登録ヲ完了シタル後其ノ登録ニ付錯誤又ハ遺漏ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ登録上利
害ノ關係ヲ有スルモノアルトキハ申請書ニ署名捺印シ又ハ其ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ
得ヘキ書類ヲ添附スヘシ

第十九條 鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ鐵道抵當原簿若ハ鐵道財團目錄ノ閱覽ヲ請求
スル者ハ申請書ニ署名捺印シテ之ヲ差出スヘシ但シ抄本ヲ請求スル場合ニ於テハ抄本ノ交付ヲ
請求スル部分ヲ記載スヘシ

第二十條 鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手数料金十錢ヲ
納ムヘシ但シ一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

手数料ハ收入印紙ヲ以テ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第二十一條 鐵道抵當法第二十條ニ依ル裁定申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ正副二通ヲ差出スヘシ

一 申請者及對手人ノ名稱住所

二 裁定事件ノ表示

三 申請ノ要旨及理由

第二十二條 前條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ其ノ副本ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シ答

辯書ヲ差出サシムヘシ但シ裁定申請カ其ノ理由ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス

必要ト認ムルトキハ期限ヲ附シテ更ニ申請者對手人ヨリ辯駁書、答辯書ヲ差出サシムルコト

ヲ得

第二十三條 答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載シ二通ヲ差出スヘシ

一 申請者及對手人ノ名稱住所

二 裁定事件ノ表示

三 答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由

第二十四條 必要ト認ムルトキ又ハ當事者一方ノ申立アルトキハ口頭審理ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 裁定申請者若ハ對手人期間内ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ指定ノ審理

期日ニ出頭セサルトキハ相手方ノ意見ヲ聽キ裁定ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 第二十一條乃至第二十五條ノ規定ハ管理人ノ計算報告書ニ對スル異議ノ裁定ニ之ヲ

準用ス

第二十七條 執行力アル正本付與ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請者署名捺印シ抵當證書又ハ

信託證書及之ニ記載ノ事項ヲ變更シタル契約書ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ

一 債務者及鐵道財團所有者ノ名稱及住所

二 強制執行ヲ要スル事由

第二十八條 管理人推薦ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人ノ署名捺印スヘシ

一 管理人タルヘキ者ノ名稱住所

二 管理人タルニ適當ト認メタル事由及經歷

第二十九條 競落人ニ於テ會社設立ノ行爲ニ著手シタルトキハ一週間内ニ假定款ヲ添附シ其ノ旨

ヲ届出ツヘシ

附 則

第三十條 本規則ハ鐵道抵當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

(第一號様式)

鐵道 抵當 原簿

逓信省鐵道局

第九號	第八號	第七號	第六號	第五號	第四號	第三號	第二號	第一號	登錄番號
利率	方法金並期選限ノ	債權額	抵當權ノ順位	名抵當權及住者ノ	債務者ノ名稱及住所	鐵道財團所有者ノ名稱及住所	免許條件	財團所屬線路	部題表
									備考

第十號	第十一號	第十二號	第十三號	第十四號	第十五號	第十六號	第十七號	第十八號	第十九號	第二十號
利息支拂ノ方法並期限ノ	抵當權設定ノ認可年月日	抵當權ヲ設定シタル事	以上登錄ノ年月日							

(第三號樣式)
鐵道財團目錄
某鐵道株式會社

區間	線路			軌道總長	軌間	軌條重量
	單線	複線	三線以上			
〳〳〳〳	一〇〇〇	九〇〇	七〇〇	二六〇	五六〇	三六
〳〳〳〳	七〇〇	六〇〇	五〇〇	一三六	一五〇〇	二六
						三〇

鐵道用地以外ノ用地							
區間	鐵路	停車場	工場	倉庫	宅	何々	坪數
〳〳〳〳	一七〇	六〇〇	一〇〇〇	四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
〳〳〳〳							

備考 鐵道用地ハ使用地ノ種類ニ應ジ總段別又ハ總坪數ヲ以テ之ヲ記載スヘシ